愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2012年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２０１４

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2012年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２０１４

序　　文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。そのうち、大学本部と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡・道後樋又遺跡、附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校がある持田団地には持田遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡など、数多くの遺跡がある。これまで、愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査の発掘調査を実施してきた。さらに、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めている。

こうした発掘調査成果を客観的に資料化し、調査報告書にまとめて公開することによって遺跡の評価が行われる。ところが、愛媛大学の場合、出土品の多さと頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。こうした状況を打開するため、小規模調査である試掘・立会・確認調査についての報告と、本格調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』を刊行してきた。さらに2010年度以降、小規模調査の正式報告書も年報で報告する形式をとってきた。本書は、その2012年度に実施した埋蔵文化財調査等をまとめた年報である。

最後になりましたが、本書をまとめるにあたっては、学内はもとより学外の多くの機関・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が多くの方々に利用・活用されることを願っております。

平成26年３月７日

愛媛大学埋蔵文化財調査室長
田　崎　博　之

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2012年度に実施した事業、特に大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果等を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅦにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。

０１２０１－４

調査年度（西暦の下３桁）
年度ごとの調査順に付した番号
調査地点が複数時のトレンチ番号

3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴建物：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、柵列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、墓：SQ、自然河川：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．土色・遺物の色調は、1991年以降、小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に準拠している。

6．本書で使用した遺構図は、田崎博之・三吉秀充・宮崎直栄・田中いづみ・矢野宣子・濱田亜矢・高木あゆみが作成し浄写を行った。

7．本書で使用した遺物図は、田崎・三吉・宮崎・田中が実測・浄書を行った。

8．本書で使用した写真は、田崎・三吉が撮影した。

9．本書は田崎・三吉が執筆した。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

11．本書は三吉が編集を行った。

本 文 目 次

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業 …… 1
1　埋蔵文化財調査委員会 …… 1
2　2012年度の埋蔵文化財調査室の事業 …… 1
（1）調査と体制 …… 1
（2）整理作業 …… 12
（3）印刷物の刊行 …… 12
（4）広報、資料等の利活用 …… 12
3　愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地について …… 14

Ⅱ　2012年度の発掘調査 …… 17
01201　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う調査 …… 17
01202　（城北団地）本部管理棟耐震改修その他工事に伴う発掘調査（道後樋又遺跡３次調査）…… 19
01203　（城北団地）クスノキ移植工事に伴う調査 …… 34
01204　（城北団地）総合研究棟（工学系）等耐震改修工事に伴う発掘調査（文京遺跡49次調査）…… 37
01205　（持田団地）特別支援学校校舎等耐震改修工事に伴う発掘調査（持田遺跡５次調査）…… 43
01206　（持田団地）附属中学校プール更衣室新営その他工事に伴う発掘調査（持田遺跡６次調査）…… 49
01207　（持田団地）附属幼稚園園舎新営その他工事に伴う発掘調査（持田遺跡７次調査）…… 60
01208　（城北団地）テニスコート周辺屋外配水管改修工事に伴う発掘調査（文京遺跡50次調査）…… 78
01209　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事に伴う調査 …… 85
01210　（城北団地）総合研究棟（工学系）等耐震改修工事に伴う発掘調査（文京遺跡51次調査）…… 88
01211　（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う調査 …… 90
01212　（山越団地）外灯設備工事に伴う調査 …… 93
01213　（城北団地）ミューズ南側等雨水枡取設その他工事に伴う調査 …… 95

挿 図 目 次

図１　城北団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）…… 15・16
図２　山越団地調査位置図（縮尺1/2,000）および柱状図（縮尺1/40）…… 18
図３　01202調査（道後樋又遺跡３次）調査位置図（縮尺1/1,000）…… 20
図４　01202調査（道後樋又遺跡３次）愛媛県教育委員会指示の調査範囲…… 21
図５　01202調査（道後樋又遺跡３次）調査平面図および土層断面図（縮尺1/50）…… 22
図６　01204調査（文京遺跡49次）・01210調査（文京遺跡51次）調査位置図（縮尺1/500）および調査平面図（縮尺1/100）、土層断面図（縮尺1/50）、柱状図（縮尺1/50）…… 38
図７　01204調査（文京遺跡49次）調査平面図および土層断面図（縮尺1/50）…… 40
図８　01204調査（文京遺跡49次）出土遺物実測図（縮尺1/3）…… 43
図９　01205調査（持田遺跡５次）調査地点位置図（縮尺1/1,000）および１～３区調査区平面図・土層図（縮尺1/100）…… 44
図10　01205調査（持田遺跡５次）附属特別支援学校

周辺工事立会地点位置図（縮尺1/2,000）……48
図11　01206調査（持田遺跡６次）・01207調査（持田遺跡７次）調査区配置図（縮尺1/1,500）……50
図12　01206調査（持田遺跡６次）調査全体図（縮尺1/150）……51
図13　01206調査（持田遺跡６次）調査区北壁およびSD-1土層断面図（縮尺1/50）……52
図14　01206調査（持田遺跡６次）SD-１出土遺物実測図（縮尺1/3）……52
図15　01206調査（持田遺跡６次）深掘り部分土層断面図（縮尺1/50）……53
図16　01207調査（持田遺跡７次）調査区全体図（縮尺1/150）……61
図17　01207調査（持田遺跡７次）調査１・２区土層断面図（縮尺1/50）……62
図18　01207調査（持田遺跡７次）調査３区平面図および土層断面図（縮尺1/50）……63
図19　01207調査（持田遺跡７次）出土遺物実測図（縮尺1/3）……66
図20　01207調査（持田遺跡７次）調査４区土層断面図（縮尺1/50）……66
図21　01206調査（持田遺跡６次）・01207調査（持田遺跡７次）調査区全体図（縮尺1/300）……76
図22　01208調査（文京遺跡50次）調査区平面図および土層断面図（縮尺1/150）……79・80
図23　01209調査調査位置図（縮尺1/500）および土層断面図・柱状図（縮尺1/50）……86
図24　01211調査調査位置図（縮尺1/500）および平面図（縮尺1/200）、柱状図（縮尺1/50）……91
図25　01211調査出土遺物実測図（縮尺1/３）……91
図26　01213調査調査位置図（縮尺1/500）および調査区平面図（縮尺1/100）、土層断面図（縮尺1/60）……97

写真目次

写真１　（樽味団地）農学部消火栓用配管新設工事に伴う工事立会……４
写真２　（樽味団地）農学部消火栓用配管新設工事に伴う工事立会……４
写真３　（樽味団地）農学部消火栓用配管新設工事に伴う工事立会……４
写真４　（樽味団地）農学部記念碑移設工事に伴う工事立会……４
写真５　（樽味団地）農学部記念碑移設工事に伴う工事立会……４
写真６　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真７　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真８　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真９　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真10　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真11　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真12　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真13　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……５
写真14　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……６
写真15　（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会……６
写真16　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……６
写真17　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……６
写真18　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……６
写真19　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……６
写真20　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……６
写真21　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……６

写真22　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……7
写真23　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……7
写真24　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……7
写真25　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……7
写真26　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会……7
写真27　（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会……7
写真28　（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会……7
写真29　（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会……8
写真30　（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会……8
写真31　（城北団地）本部管理棟耐震改修その他電気設備工事に伴う工事立会……8
写真32　（城北団地）本部管理棟耐震改修その他電気設備工事に伴う工事立会……8
写真33　（城北団地）本部管理棟耐震改修その他電気設備工事に伴う工事立会……8
写真34　（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会……8
写真35　（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会……8
写真36　（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会……9
写真37　（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会……9
写真38　（城北団地）理学部東門バリカー取設その他工事に伴う工事立会……9
写真39　（城北団地）理学部東門バリカー取設その他工事に伴う工事立会……9
写真40　（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会……9
写真41　（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会……9
写真42　（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会……9
写真43　（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会……9
写真44　（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会……10
写真45　（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会……10
写真46　（城北団地）本部管理棟耐震改修その他機械設備工事に伴う工事立会……10
写真47　（城北団地）本部管理棟耐震改修その他機械設備工事に伴う工事立会……10
写真48　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……10
写真49　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……10
写真50　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……10
写真51　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……10
写真52　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……11
写真53　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……11
写真54　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……11
写真55　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会……11
写真56　公開講座の様子（１）……13
写真57　公開講座の様子（２）……13
写真58　公開講座の様子（３）……13
写真59　公開講座の様子（４）……13
写真60　01201調査　山越団地クスノキ移植工事状況（西から）……17
写真61　01201調査　山越団地クスノキ移植先調査区全景（西から）……17
写真62　01201調査　山越団地深掘り地点の状況（西から）……17

写真63　01201調査　山越団地深掘り地点の状況（北から）……17
写真64　01202調査１区SD-１検出状況（東から）…23
写真65　01202調査１区SD-１完掘状況（東から）…23
写真66　01202調査１区SD-１土層断面（西から）…23
写真67　01202調査２区表土剥ぎ後（東から）……24
写真68　01202調査２区Ⅳ層上面遺構検出状況１（北から）……24
写真69　01202調査２区Ⅳ層上面遺構完掘状況１（東から）……25
写真70　01202調査２区Ⅳ層上面遺構検出状況２（東から）……25
写真71　01202調査２区Ⅳ層上面遺構完掘状況２（東から）……25
写真72　01202調査２区SK-１、SD-３検出状況（南から）……26
写真73　01202調査２区SK-１、SD-３完掘状況（南から）……26
写真74　01202調査SK-２検出状況（南から）……27
写真75　01202調査SK-２完掘状況（南から）……27
写真76　01202調査SP-５・６検出状況（東から）…28
写真77　01202調査SP-５・６完掘状況（東から）…28
写真78　01202調査２区深掘り位置（東から）……29
写真79　01202調査２区深掘り部土層断面１（北から）……29
写真80　01202調査２区深掘り部土層断面２（北から）……29
写真81　01202調査２区東壁沿い土層断面（西から）……30
写真82　01202調査２区Ⅳ層遺物出土状況１（北から）……30
写真83　01202調査２区Ⅳ層遺物出土状況２（北西から）……30
写真84　01202調査２区Ⅳ層遺物出土状況３（西から）……30
写真85　01202調査２区Ⅳ層遺物出土状況４（北西から）……30
写真86　01202調査２区Ⅳ層遺物出土状況５（北西から）……30
写真87　01202調査２区Ⅳ層遺物出土状況６（北から）……30
写真88　01202調査３区遠景（南東から）……31
写真89　01202調査３区全景（東から）……31
写真90　01202調査３区南壁土層断面（北東から）…31
写真91　01202調査４区遠景（北西から）……31
写真92　01202調査４区全景（北東から）……31
写真93　01202調査通信管路立会調査（南から）……32
写真94　01202調査南側ハンドホール部分立会調査(南から）……32
写真95　01202調査通信管路立会調査（北から）……32
写真96　01202調査北側ハンドホール部分立会調査(北から）……32
写真97　01203調査１トレンチ（北から）……34
写真98　01203調査１トレンチ全景（北から）……34
写真99　01203調査１トレンチ南壁（北から）……35
写真100　01203調査１トレンチ西壁（東から）……35
写真101　01203調査２トレンチ遠景（北から）……35
写真102　01203調査２トレンチ全景（北から）……35
写真103　01203調査２トレンチ全景（北から）……35
写真104　01203調査３トレンチ遠景（東から）……35
写真105　01203調査３トレンチ近景（南から）……35
写真106　01203調査３トレンチ全景（東から）……35
写真107　01203調査４トレンチ遠景（南から）……36
写真108　01203調査４トレンチ全景（南から）……36
写真109　01203調査５トレンチ遠景（北から）……36
写真110　01203調査５トレンチ全景（東から）……36
写真111　01203調査６トレンチ全景（北東から）…36
写真112　01203調査６トレンチ全景（東から）……36
写真113　01203調査７トレンチ全景（北東から）…36
写真114　01203調査８トレンチ全景（南東から）…36
写真115　01204調査１区調査前の状況（西から）…39
写真116　01204調査１区表土剥ぎ状況（西から）…39
写真117　01204調査１区表土層除去状況（西から）……39
写真118　01204調査１区表土層除去状況（東から）……39
写真119　01204調査１区西端部の表土層除去状況（西から）……39
写真120　01204調査１区西端部の表土層除去状況（東から）……39
写真121　01204調査１区完掘状況（西から）……39
写真122　01204調査１区西端部北壁土層（南から）……39
写真123　01204調査２・３区調査前の状況（北から）……41
写真124　01204調査２区Ⅳ層上面遺構検出状況（北東

から)……41
写真125　01204調査２区Ⅳ層上面遺構検出状況（北から)……41
写真126　01204調査２区Ⅳ層上面遺構完掘状況（北から)……41
写真127　01204調査２区完掘状況（北東から）……41
写真128　01204調査２区完掘状況（北から）……41
写真129　01204調査２区西壁土層（東から）……41
写真130　01204調査３区全景（東から）……43
写真131　01204調査４区全景（北から）……43
写真132　01205調査１・２区全景（西から）……45
写真133　01205調査１区全景（東から）……45
写真134　01205調査１区西端部の状況（南東から）……45
写真135　01205調査２区全景（西から）……45
写真136　01205調査２区西端部の状況（南から）…45
写真137　01205調査２区全景（北西から）……45
写真138　01205調査３区北部（南から）……45
写真139　01205調査３区南部（北西から）……45
写真140　01205調査音楽室Ａ地点工事立会（南から）……46
写真141　01205調査音楽室Ａ地点工事立会（北から）……46
写真142　01205調査音楽室Ａ地点工事立会（北から）……46
写真143　01205調査音楽室Ｂ地点工事立会（南から）……46
写真144　01205調査音楽室Ｂ地点工事立会（北から）……46
写真145　01205調査音楽室Ｃ地点工事立会（南から）……46
写真146　01205調査特別支援学校Ｄ地点工事立会（西から)……46
写真147　01205調査特別支援学校D地点工事立会（北西から)……46
写真148　01205調査特別支援学校Ｆ地点工事立会（南東から)……47
写真149　01205調査特別支援学校Ｆ地点工事立会南壁土層（北から)……47
写真150　01205調査特別支援学校Ｅ地点工事立会（西から)……47
写真151　01205調査特別支援学校Ｅ地点工事立会東壁土層（西から)……47
写真152　01205調査特別支援学校Ｅ地点工事立会東壁土層（西から）……47
写真153　01206調査表土剥ぎ作業風景（北西から）……54
写真154　01206調査調査区全景（完掘後、北から）……54
写真155　01206調査SD-１および足跡検出状況（西から)……55
写真156　01206調査SD-１および足跡検出状況（南東から)……55
写真157　01206調査足跡検出状況（東から）……56
写真158　01206調査足跡調査風景（南西から）……56
写真159　01206調査足跡完掘状況……56
写真160　01206調査SD-１および足跡完掘状況（南東から)……56
写真161　01206調査SD-１土層断面（西から）……57
写真162　01206調査調査区北壁土層断面（南から）……57
写真163　01206調査調査区北壁土層断面（畝間溝部分、南から)……57
写真164　01206調査調査区北壁土層断面（畝部分、南から)……58
写真165　01206調査南西部深掘り部分土層断面（北西から)……58
写真166　01207調査１区全景（南から）……67
写真167　01207調査１区土層断面（北東から)…67
写真168　01207調査１区北半部落ち込み部土層断面（東から）……67
写真169　01207調査２区全景（南西から）……67
写真170　01207調査２区北端部SD-１および畦畔検出状況（拡張前、南西から)……67
写真171　01207調査２区北端部SD-１南側畦畔土層断面（拡張前、西から)……68
写真172　01207調査２区北端部SD-１完掘状況およびSS-2との畦畔断面（南西から)……68
写真173　01207調査２区北端部SD-１および畦畔（拡張後、南西から)……69
写真174　01207調査SD-１土層断面（西から）……69
写真175　01207調査３区水田検出状況（南から）…70
写真176　01207調査３区水田面完掘状況（南から）……70
写真177　01207調査３区水田面完掘状況（南東から）……71

写真178　01207調査３区水田面を切る小溝（東から）……71
写真179　01207調３区Ⅲ層遺物出土状況……71
写真180　01207調査３区水田面に残る牛の足跡……71
写真181　01207調査３区東壁土層断面（西から）…72
写真182　01207調査３区東壁中央部土層断面（西から）……72
写真183　01207調査３区水田層とⅢ層（西から）…72
写真184　01207調査４区全景（北西から）……73
写真185　01207調査４区中央深掘り部分土層断面（北西から）……73
写真186　01207調査４区西端部土層断面（北東から）……74
写真187　01207調査１・２区間立会調査（北から）……74
写真188　01207調査１・２区間立会調査土層断面…74
写真189　01207調査中庭立会調査１（東から）……74
写真190　01207調査中庭立会調査土層断面……74
写真191　01207調査中庭立会調査２（南東から）…75
写真192　01207調査グラウンド南側立会調査（南西から）……75
写真193　01207調査グラウンド南側立会調査土層断面……75
写真194　01208調査Ⅰ区表土層除去状況（北から）……81
写真195　01208調査Ⅰ区SR-３完掘状況（北から）…81
写真196　01208調査Ⅰ区東壁土層（南西から）……81
写真197　01208調査Ⅱ区表土層除去状況（南から）……81
写真198　01208調査Ⅱ区完掘状況（南から）……81
写真199　01208調査Ⅱ区東壁土層（北西から）……82
写真200　01208調査Ⅱ区SR-３砂礫層中遺物出土状況……82
写真201　01208調査Ⅲ区表土層除去状況（南から）……82
写真202　01208調査Ⅲ区完掘状況（南から）……82
写真203　01208調査Ⅲ区東壁土層（南西から）……82
写真204　01208調査Ⅲ区SR-３砂礫層中遺物出土状況……82
写真205　01208調査Ⅳ区表土層除去状況（東から）……83
写真206　01208調査Ⅳ区完掘状況（東から）……83
写真207　01208調査Ⅳ区西端完掘状況（北東から）……83
写真208　01208調査Ⅳ区北壁土層（南東から）……83
写真209　01208調査Ⅳ区SR-３砂礫層中遺物出土状況（北東から）……83
写真210　01208調査松山大学学生による調査見学の様子……83
写真211　01208調査南西部工事立会（北東から）…85
写真212　01208調査南西部工事立会（南東から）…85
写真213　01209調査ミューズ北東部工事立会（北東から）……87
写真214　01209調査ミューズ北東部土層工事立会（東から）……87
写真215　01209調査１区完掘状況（北東から）……87
写真216　01209調査１区西端土層（北から）……87
写真217　01209調査ミューズ東側中央部工事立会（南西から）……87
写真218　01209調査ミューズ東側南部工事立会（北西から）……87
写真219　01209調査ミューズ東側南部工事立会（北西から）……88
写真220　01209調査ミューズ東側南部Ⅲ層検出状況（南西から）……88
写真221　01209調査２区表土層除去作業（南西から）……88
写真222　01209調査２区表土層除去状況（北から）……88
写真223　01209調査２区完掘状況（北から）……88
写真224　01209調査２区南壁土層（北から）……88
写真225　01210調査調査地点全景（西から）……89
写真226　01210調査発掘調査地点完掘状況（南東から）……89
写真227　01210調査発掘調査地点完掘状況（北から）……89
写真228　01210調査発掘調査地点完掘状況（北西から）……89
写真229　01210調査発掘調査地点東壁土層（西から）……89
写真230　01210調査中央部工事立会（南西から）…89
写真231　01210調査中央部工事立会（南から）……89
写真232　01210調査西側工事立会（北西から）……89
写真233　01211調査１トレンチ表土層除去状況（南西から）……92
写真234　01211調査１トレンチ北側表土層除去状況

（東から）……92
写真235　01211調査１トレンチ表土層除去状況（南から）……92
写真236　01211調査１トレンチ完掘状況（南から）……92
写真237　01211調査１トレンチ完掘状況（南東から）……92
写真238　01211調査１トレンチ東壁（南西から）…92
写真239　01211調査２トレンチ完掘状況（東から）……92
写真240　01211調査２トレンチ完掘状況（南西から）……92
写真241　01212調査調査地点（南から）……94
写真242　01212調査１トレンチ土層（西から）……94
写真243　01212調査２トレンチ土層（西から）……94
写真244　01212調査３トレンチ土層（西から）……94
写真245　01212調査４トレンチ土層（西から）……94
写真246　01212調査５トレンチ土層（西から）……94
写真247　01213調査１トレンチ表土層除去風景（南東から）……96
写真248　01213調査１トレンチ表土層除去状況（東から）……96
写真249　01213調査１トレンチ北側表土層除去状況（南西から）……96
写真250　01213調査１トレンチ完掘状況（東から）……96
写真251　01213調査２トレンチ表土層除去状況（南から）……96
写真252　01213調査２トレンチ表土層除去状況（東から）……96
写真253　01213調査２トレンチ北側表土層除去状況（南西から）……96
写真254　01213調査２トレンチ完掘状況（東から）……96

表　目　次

表１　2012年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制……１
表２　2012年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧……３
表３　2012年度発掘調査一覧……11
表４　2012年度調査室・調査室資料利用一覧……13
表５　01206調査（持田遺跡６次）出土遺物観察表…59
表６　01207調査（持田遺跡７次）出土遺物観察表…77

資 料 目 次

資料１　国立大学法人愛媛大学
埋蔵文化財調査委員会規程……２
資料２　国立大学法人愛媛大学
埋蔵文化財調査室設置要項……２

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

埋蔵文化財調査室は、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規定」（資料１）に基づき設置された埋蔵文化財調査委員会の下、業務運営を行っている。2012年度の埋蔵文化財調査委員会の体制は表１の通りである。2012年度の埋蔵文化財調査委員会は、2012年８月30日（第１回）に開催された。

第１回埋蔵文化財調査委員会では、議題１．平成23（2011）年度事業報告・会計報告、議題２．平成24（2012）年度事業計画の変更について、議題３．愛媛大学所有地における埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて報告・審議され、了承された。

議題１に関して、田崎室長から実施事業報告（１．発掘調査、２．発掘調査報告書等刊行に向けた整理作業、３．発掘調査報告書等の刊行、４．利活用に係わる業務、５．埋蔵文化財包蔵地の見直し作業）、会計報告について説明があり、了承された。

議題２について、田崎室長から平成24年度施設整備事業および埋蔵文化財発掘調査工程表に基づいて変更の説明があり、了承された。

議題３について、田崎室長から施設基盤部との協議事項として埋蔵文化財包蔵地に関わる以下の２項目について確認したとの報告が行われた。

①土木工事届を提出する際には、提出図面に周知の埋蔵文化財包蔵地ラインを明示するとともに、参考図として必要なデータを提示する。

②周知の埋蔵文化財包蔵地となっていない範囲についても、試掘調査または確認調査を実施する。

審議の結果、２項目について了承された。

2　2012年度の埋蔵文化財調査室の事業

（1）調査と体制

埋蔵文化財調査室は、埋蔵文化財調査委員会の下、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項」（資料２）に従い、発掘調査の実施計画の立案および実施、出土資料の整理・保管、報告書の作成と調査成果の公開・利活用、本学における教育・研究の支援業務を行っている。

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における地盤掘削を伴う諸工事に際して、規模の大小に関わらず、工事内容による埋蔵文化財への影響を周辺における既往の調査などから判断し、それに応じた対応を行って

表１　2012年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制

埋蔵文化財調査委員会			
	氏　名	所属・役職	備　考
委員長	渡邉　春重	理事（総務担当）	
委　員	黒木　幹夫	法文学部長	
委　員	田崎　博之	法文学部教授	埋蔵文化財調査室長
委　員	村上　恭通	東アジア古代鉄文化研究センター長	
委　員	三浦　和尚	教育学部長	
委　員	川岡　　勉	教育学部教授	
委　員	佐藤　成一	理学部長	
委　員	安川　正貴	医学部長	
委　員	大賀水田生	工学部長	
委　員	仁科　弘重	農学部長	
委　員	上甲　克和	総務部長	
委　員	西尾　澄気	財務部長	
委　員	大矢　浩二	施設基盤部長	

埋蔵文化財調査室		
	氏　名	所　　属
室　　長	田崎　博之	法文学部教授
調　査　員	吉田　　広	ミュージアム准教授
調　査　員	三吉　秀充	法文学部助教
専　門　員	村上　恭通	東アジア古代鉄文化研究センター長
専　門　員	川岡　　勉	教育学部教授
教育支援者	宮崎　直栄	施設基盤部施設企画課
教育支援者	田中いづみ	施設基盤部施設企画課
技能補佐員	井手野文江	施設基盤部施設企画課
技能補佐員	谷川　良子	施設基盤部施設企画課
事務補佐員	矢野　宜子	施設基盤部施設企画課

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程

（設置）
第１条　国立大学法人愛媛大学（以下「法人」という。）に，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は，文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づき，法人の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 学長が指名する理事，副学長又は学長特別補佐１人
(2) 各学部長
(3) 発掘調査に関連のある専門分野の教員若干人
(4) 経営企画部長，財務部長及び施設基盤部長
２　前項第３号の委員は，学長が任命する。
３　第１項第３号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要があると認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（調査室）
第６条　委員会に，委員会が定める基本方針に基づき発掘調査を実施し，その結果について報告書を作成するため，埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。
２　調査室に関する要項は，委員会の議を経て，別に定める。
（事務）
第７条　委員会に関する事務は，施設基盤部施設企画課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

附則　この規程は，平成21年４月１日から施行する。

資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項

第１　この要項は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程第６条第２項の規定に基づき，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。
第２　調査室は，国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
(2) 遺物の整理及び保管に関すること。
(3) 報告書の作成に関すること。
(4) 出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。
(5) 本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。
(6) その他必要な事項
第３　調査室に，室長，調査員その他所要の職員を置く。
第４　調査室に，必要に応じて，埋蔵文化財の調査研究に関し，それぞれの専門分野から特別な知識及び技術について協力及び助言を得るため，専門員を置くことができる。
第５　室長，調査員及び専門員は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）の議を経て，学長が任命する。
第６　室長，調査員及び専門員の任期は，委員会の議を経て，学長が定める。
第７　室長は，調査室に関する業務を掌理する。
２　調査員は，室長の指示の下，埋蔵文化財の調査研究に関する業務を行う。
第８　調査室に関する事務は，施設部において処理する。
第９　この要項に定めるもののほか，調査室の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

附則　この要項は，平成16年８月４日から施行する。

表２　2012年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧

依頼			対応					
日付	発	工事名	意見書・回答文書		土木工事届	調査		
3月12日	農学部長	（樽味団地）農学部消火栓用配管新設工事	3月13日	周辺の既往調査から埋蔵文化財へ影響が及ばないと判断。	3月22日	工事立会	4月24日	写真１～３
4月4日	農学部長	（樽味団地）農学部記念碑移設工事	4月9日	周辺の既往調査から埋蔵文化財へ影響が及ばないと判断。	4月13日	工事立会	5月30日	写真４・５
4月19日	施設基盤部長	（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事（設計変更）	4月20日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	5月11日・22日	写真６～15
4月23日	施設基盤部長	（城北団地）第３体育館新営その他工事	4月24日	周辺の既往調査から掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm以上と判断。	4月27日	工事立会	6月5日・29日	写真16～26
4月24日	施設基盤部長	（城北団地）第３体育館新営その他工事	4月25日	城北団地のクスノキを山越団地に移植。周辺の既往調査から埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	－	工事立会（01201調査）	5月30日・31日	本文17頁
-	-	中予エリアサービス総合工事（NTT西日本－四国）	－	－	－	工事立会	5月18日	写真27～30
5月17日	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟耐震改修その他電気設備工事	5月18日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	7月3日	工事立会	7月2日	写真31～33
6月25日	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟耐震改修その他工事	6月27日	周辺の既往調査から工事地点の一部で掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満と判断。	7月3日	本格調査（道後樋又遺跡３次調査）	9月3日～9月12日	本文19頁
7月4日	施設基盤部長	（持田団地）附属中学校運動場東側給水管修繕工事	7月9日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
7月23日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（工学系）等耐震改修工事	7月27日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	7月31日	本格調査（文京遺跡49次調査）	9月28日～10月5日	本文37頁
7月30日	施設基盤部長	（持田団地）附属中学校プール更衣室新営その他工事	7月31日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	8月8日	本格調査（持田遺跡６次調査）	11月12日～11月26日	本文49頁
8月8日	施設基盤部長	（持田団地）特別支援学校校舎等耐震改修工事	8月9日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	8月10日	本格調査（持田遺跡５次）	10月22日	本文43頁
9月18日	施設基盤部長	（城北団地）クスノキ移植工事	9月18日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会（01203調査）	9月19日～29日	本文34頁
9月19日	施設基盤部長	（城北団地）テニスコート周辺屋外排水管改修工事	9月19日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	9月21日	本格調査（文京遺跡50次調査）	10月30日～12月11日	本文78頁
10月1日	施設基盤部長	（持田団地）附属幼稚園園舎新営その他工事	10月5日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	10月11日	本格調査（持田遺跡７次調査）	11月27日～12月13日	本文60頁
10月26日	施設基盤部長	（城北団地）立体駐車場新営その他工事	10月30日	周辺の既往調査から工事地点の一部で掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満と判断。	11月6日	工事立会	12月25日・27日	写真34～37
11月5日	施設基盤部長	（持田団地）附属中学校体育館西側給水管修繕工事	11月6日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
11月22日	施設基盤部長	（山越団地）外灯設備工事	12月5日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会（01212調査）	2月28日	本文93頁
11月26日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（工学系）等耐震改修工事	11月29日	周辺の既往調査から工事地点の一部で掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満と判断。	12月11日	本格調査（文京遺跡51次調査）	2月23日～2月27日	本文88頁
12月3日	施設基盤部長	（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（土木工事部分のみ）	1月4日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	1月9日	工事立会（01209調査）	2月7日～3月7日	本文85頁
12月14日	施設基盤部長	（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事	12月17日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月7日	施設基盤部長	（城北団地）立体駐車場新営その他工事	1月8日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	1月9日	工事立会（01211調査）	2月28日	本文90頁
1月18日	施設基盤部長	（城北団地）理学部東門バリカー取設その他工事	1月22日	周辺の既往調査から掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満と判断。	1月25日	工事立会	3月19日	写真38・39
1月18日	施設基盤部長	（城北団地）工学部４号館北側出入口改修工事	1月22日	周辺の既往調査から掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm以上と判断。		事業は実施されていない。		
1月18日	施設基盤部長	（山越団地）樹木（クチナシ）撤去工事	1月22日	周辺の既往調査から掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm以上あり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月18日	施設基盤部長	（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事	1月22日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	－	工事立会	2月6日・7日	写真40～45
1月18日	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟耐震改修その他機械設備工事	1月22日	周辺の既往調査から掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満と判断。	1月25日	工事立会	2月19日	写真46・47
1月22日	施設基盤部長	（城北団地）愛大ミューズ南側等雨水桝取設その他工事	1月22日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	1月25日	工事立会（01213調査）	3月6日	本文95頁
2月6日	施設基盤部長	（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）	2月7日	周辺の既往調査から樹木伐採・抜根に伴い埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	2月12日・13日・18日	写真48～55
2月8日	施設基盤部長	（城北団地）立体駐車場新営その他工事	2月12日	メディアセンター建設時の造成土内における掘削工事であり、埋蔵文化財へ影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	
2月12日	施設基盤部長	（城北団地）基幹･環境整備（給水設備等改修）工事（その２）	2月14日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	2月18日	本格調査（文京遺跡52次調査）	2013年度に実施	－
2月15日	施設基盤部長	（城北団地）立体駐車場新営その他工事	2月15日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
3月15日	施設基盤部長	（城北団地）南加記念ホール西側汚水管修繕工事	3月15日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
3月25日	施設基盤部長	（城北団地）立体駐車場新営その他工事	3月26日	現地表面から砂利層までの掘削ならびに既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－

写真１（樽味団地）農学部消火栓用配管新設工事に伴う工事立会

写真２（樽味団地）農学部消火栓用配管新設工事に伴う工事立会

写真３（樽味団地）農学部消火栓用配管新設工事に伴う工事立会

写真４（樽味団地）農学部記念碑移設工事に伴う工事立会

写真５（樽味団地）農学部記念碑移設工事に伴う工事立会

写真６（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

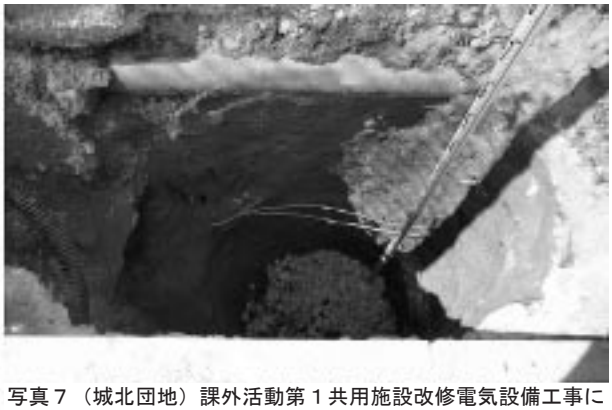


写真７（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真８（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真９（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真10（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真11（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真12（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真13（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真14（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

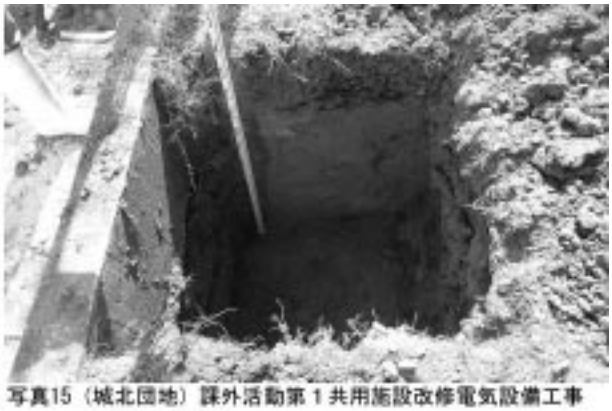


写真15（城北団地）課外活動第１共用施設改修電気設備工事に伴う工事立会

写真16（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真17（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真18（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真19（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真20（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真21（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真22（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真23（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真24（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真25（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真26（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う工事立会

写真27（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会

写真28（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会

写真29（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会

写真30（城北団地）中予エリアサービス総合工事に伴う工事立会

写真31（城北団地）本部管理棟耐震改修その他電気設備工事に伴う工事立会

写真32（城北団地）本部管理棟耐震改修その他電気設備工事に伴う工事立会

写真33（城北団地）本部管理棟耐震改修その他電気設備工事に伴う工事立会

写真34（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会

写真35（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会

写真36（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会

写真37（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う工事立会

写真38（城北団地）理学部東門バリカー取設その他工事に伴う工事立会

写真39（城北団地）理学部東門バリカー取設その他工事に伴う工事立会

写真40（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会

写真41（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会

写真42（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会

写真43（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会

写真44（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会

写真45（山越団地）グラウンド防球ネット取設工事に伴う工事立会

写真46（城北団地）本部管理棟耐震改修その他機械設備工事に伴う工事立会

写真47（城北団地）本部管理棟耐震改修その他機械設備工事に伴う工事立会

写真48（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

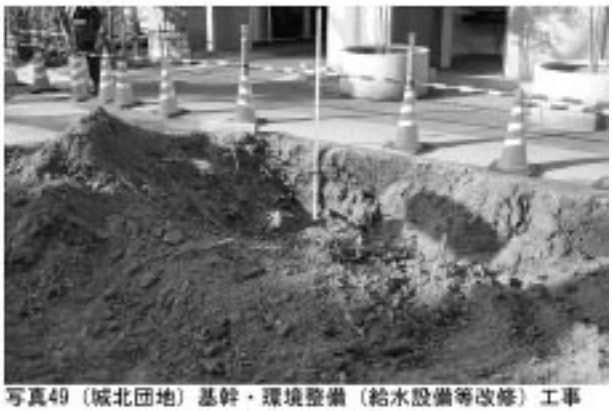


写真49（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

写真50（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

写真51（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

表３　2012年度発掘調査一覧

調査番号	団地	遺跡	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物
01202	城北	道後樋又３次	（城北団地）本部管理棟耐震改修その他工事	本格調査（小規模調査）	田崎	９月３日～９月12日	37.8㎡	1箱
01204	城北	文京49次	（城北団地）総合研究棟（工学系）等耐震改修工事	本格調査（小規模調査）	三吉	９月28日～10月５日	49㎡	1箱
01205	持田	持田５次	（持田団地）特別支援学校校舎等耐震改修工事	本格調査（小規模調査）	三吉	10月22日	13.53㎡	無し
01206	持田	持田６次	（持田団地）附属中学校プール更衣室新営その他工事	本格調査（大規模調査）	田崎	11月12日～11月26日	195.1㎡	1箱
01207	持田	持田７次	（持田団地）附属幼稚園園舎新営その他工事	本格調査（大規模調査）	田崎	11月27日～12月13日	122.6㎡	1箱
01208	城北	文京50次	（城北団地）テニスコート周辺屋外排水管改修工事	本格調査（大規模調査）	三吉	10月30日～12月11日	142.5㎡	10箱
01210	城北	文京51次	（城北団地）総合研究棟（工学系）等耐震改修工事	本格調査（大規模調査）	三吉	２月23日～２月27日	210㎡	無し

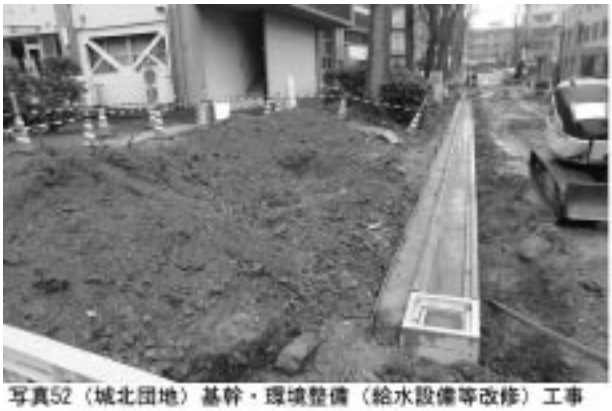


写真52（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

写真53（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

写真54（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

写真55（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（歩道整備工事部分）に伴う工事立会

いる。2004年度、国立大学法人愛媛大学発足以降、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議を重ね、2007年度から、周知の埋蔵文化財包蔵地においては、文化財保護法第93条に基づき、規模の大小にかかわらず、工事着手の60日前までに、土木工事届を提出している。この土木工事届に対する通知に基づき、発掘調査・工事立会・慎重工事等の対応を行っている。

2012年度における埋蔵文化財に対する影響への確認と調査依頼は34件あった（表２）。この調査依頼に対して、試掘調査や周辺における既往の調査成果から埋蔵文化財への影響を判断し、土木工事届等の所要の手続きを経た上で、７件（うち１件は2013年度に実施）について発掘調査を行った（表３）。埋蔵文化財調査室では、発掘調査の規模に応じて、大規模調査と小規模調査に分類しているが、大規模調査４件、小規模調査３件となる。団地別では、城北団地で５件、持田団地で３件である。その他に、工事立会を17件実施した。17件の内６件に関しては、遺跡への直接的な影響を与える工事であったことから、調査番号を与え、本書で報告を行っている。確認調査は実施しなかった。

（２）整理作業

年報ならびに報告書刊行に向けた整理作業として、文京遺跡16次調査A区、文京遺跡16次調査B区の遺構実測図整理・浄書作業、遺構写真整理・図版作成作業、遺物実測作業、遺物写真撮影作業を実施した。また2011年度に調査を実施した文京遺跡45次調査から出土した遺物の復元作業、遺構実測図・全体図の整理・浄書作業を実施した。さらに文京遺跡45次調査で採取した土壌の水洗作業、水洗した土壌から微細遺物の選別作業を行った。

（３）印刷物の刊行

2011年度に実施した全面調査の正式報告・概要報告と小規模調査・立会調査などの報告をまとめた『埋蔵文化財調査室年報－2011年度－』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告XXⅣ）を刊行した。また2001年度に実施した樽味遺跡６次調査、2002年度に実施した樽味遺跡７次調査、2006年度に実施した樽味遺跡８次調査の正式報告を掲載した『樽味遺跡Ⅴ』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告XXⅤ）を刊行した。

2011年度末に刊行した『埋蔵文化財調査室年報－2010年度－』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告XXⅢ）を、全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館等へ発送した。

（４）広報、資料等の利活用

埋蔵文化財調査室では、これまで実施してきた構内遺跡出土の遺物や調査に関するデータなどを保管している。これらの調査室保管資料に関して、学内外から資料の公開や利用の要望が寄せられてきた。これらの要望に対して、埋蔵文化財調査室では資料の一部については、2009年11月に開館した愛媛大学ミュージアムにおいて常設展示し、広報パンフレットの配布やWebを利用した情報発信、公開講座の企画・実施などを通じて積極的に広報活動を進めている。

①埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

2012年度、埋蔵文化財調査室保管資料等に対する資料申請件数は20件であった（表４）。内訳は学内９件、学外11件である。利用件数は例年とほぼ同水準である。

②広報パンフレットの配布

埋蔵文化財調査室では、広報パンフレット『発掘愛媛大学』を作成し、希望者には随時配布している。2012年４月には、新入学生ならびに新規採用職員を対象として約2,250部を配布した。

③公開講座の開催

平成24年度愛媛大学公開講座『文京遺跡から学ぶ（８）－遺跡・遺構・遺物の見方を学ぶ－』を以下の日程で開催した（写真56～59）。

第１回　９月８日（土）田崎博之
「遺跡・遺構を埋める地層をみる」
第２回　９月15日（土）三吉秀充
「竪穴式住居跡の一生をみる」
第３回　９月22日（土）
田崎博之・三吉秀充「現地見学」
第４回　９月29日（土）
田崎博之・三吉秀充「討論」

文京遺跡における発掘調査では、多数の竪穴式住居跡や掘立柱建物などが数多く見つかっている。遺跡・遺構は、当時の姿を雄弁に物語る考古資料ではあるが、「観る者の働きかけ」、つまり「見方」を知る必要がある。講座では、水田・畠、竪穴式住居跡を取り上げて、遺跡・遺構の見方について解説した後、文京遺跡における発掘調査地を見学し、実際に遺跡・遺構の見方を学んだ。年度末には平成24年度愛媛大学公開講座記録集『文京遺跡から学ぶ（８）』を刊行し、受講生ならびに関係機関に配布した。

④Webを利用した広報活動

表４　2012年度調査室・調査室資料利用一覧

	日　時	利　用　者	利　用　資　料	目　　的	利用内容
1	2012/04/26	愛媛大学法文学部人文学科教員	施設見学	教育（博物館実習）	施設見学
2	2012/04/26	愛媛大学法文学部人文学科教員	文京遺跡11次･45次調査出土遺物	研究・教育	借用
3	2012/05/17	愛媛大学法文学部学生	所蔵図書	研究	借用
4	2012/05/19	愛媛県埋蔵文化財調査センター職員	発掘調査情報	学会における動向報告	照会
5	2012/06/04	西条市教育委員会職員	発掘調査情報	学会における動向報告	照会
6	2012/07/13	愛媛大学上級研究員センター研究員	施設見学・遺物見学	教育	施設見学・遺物見学
7	2012/07/26	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡10次調査出土遺物	教育（博物館実習）	借用
8	2012/07/27	松野町教育委員会職員	所蔵図書	研究	文献複写
9	2012/07/20	愛媛大学法文学部総合政策学科教員	文京遺跡調査写真・御幸遺跡出土遺物	教育（ミュージアムでの展示）	借用
10	2012/08/24	國學院大学教員	文京遺跡10次・24次出土遺物	研究	熟覧・実測・写真撮影
11	2012/08/29	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡20次調査出土遺物	教育	借用
12	2012/08/24	大韓民国国立中央博物館職員他１名	文京遺跡10次・24次出土遺物	研究	熟覧・実測・写真撮影
13	2012/09/08	松山市内在住	刊行書籍	研究	書籍希望
14	2012/09/08	松山市内在住	刊行書籍	研究	書籍希望
15	2012/09/08	徳島県三好市内在住者	刊行書籍	研究	書籍希望
16	2012/11/09	香川県埋蔵文化財センター職員・松山大学経済学部教員・学生	文京遺跡50次調査現場の見学	教育（松山大学経済学部演習Ⅰ）	見学
17	2013/01/15	愛媛大学法文学部学生	所蔵図書	研究	借用
18	2013/01/25	愛媛大学ミュージアム教員	旧歴史学研究会保管資料	教育	借用
19	2013/02/16	松山市内在住者	刊行書籍	研究	書籍希望
20	2013/03/14	松山市内在住者４名	刊行書籍	研究	書籍希望

写真56　公開講座の様子（１）

写真57　公開講座の様子（２）

写真58　公開講座の様子（３）

写真59　公開講座の様子（４）

埋蔵文化財調査室では、2004年度にホームページを開設し、発掘調査や情報発信を行っている。2012年度は、文京遺跡50次発掘調査速報や公開講座情報などを随時更新した。

（愛媛大学埋蔵文化財調査室ホームページアドレス　http://www.ehime-u.ac.jp/~maibun/index.htm　内の「2012年度のTOPICS」を参照）

⑤愛媛大学ミュージアム展示品関連事業

埋蔵文化財調査室は、2009年11月に開館した愛媛大学ミュージアム「人間の営み」ゾーンにおいて、文京遺跡を中心とした構内遺跡出土資料の展示を行っており、2012年度も継続して常設展示を行っている。また８月には、法文学部総合政策学科和田寿博教授を始めとする教員グループによって企画された展示会「聞きたい　伝えたい　愛媛大学の戦争体験」への協力で、御幸遺跡から出土した模擬弾や文京遺跡における練兵場の塹壕の写真パネル展示を行った。

⑥現地説明会等の開催

発掘調査地点の環境や調査日程により一般向けの現地説明会は開催できていない。そのような制約があったものの、2012年10月～12月に実施した文京遺跡50次調査では、松山大学の教員より発掘調査地の見学依頼があり、可能な範囲での公開に努めた（本文78頁）。

３　愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地について

松山市教育委員会による市内埋蔵文化財包蔵地の見直し作業に伴って、愛媛大学構内に所在する埋蔵文化財包蔵地の名称、種類、時代及び範囲について、平成25年１月18日付で修正された。包蔵地の修正に関係する団地は、北吉井団地と鷹子団地である。

北吉井団地（松山市桑原２丁目９番８号）は、職員宿舎が所在する。2009年度から2010年度に実施した愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地の見直し作業に伴い、団地全体を「桑原西稲葉遺跡」として、周知の埋蔵文化財包蔵地とした（詳細は『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2010年度－』愛媛大学埋蔵文化財調査室、2012年を参照。）。今回の修正では、旧「桑原遺物包含地、桑原西稲葉遺跡」を「桑原吉井遺跡」として、平成25年1月18日付で包蔵地の名称、種類、時代及び範囲が修正された。北吉井団地内に限れば、団地全体が桑原吉井遺跡である。

鷹子団地（松山市鷹子町40番）は、国際交流会館が所在しており、団地全体が周知の埋蔵文化財包蔵地である「鷹ノ子遺物包含地１」に含まれている。今回の修正では、旧「鷹ノ子遺物包含地1」が、「鷹子遺跡・タンチ山古墳」として、平成25年1月18日付で包蔵地の名称、種類、時代及び範囲が修正された。鷹子団地に限れば、団地全体が鷹子遺跡・タンチ山古墳である。

また、埋蔵文化財包蔵地外でも、愛媛大学ならびに愛媛大学埋蔵文化財調査室が、主体的に埋蔵文化財保護に向けた試掘調査や分布調査を実施するよう強く求められた。　（三吉）

図１　城北団地調査地点位置図（縮尺1／2,000）

Ⅱ　2012年度の発掘調査

01201　（城北団地）第３体育館新営その他工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町３　城北団地内および
　　松山市山越４丁目11番10号　山越団地内
調 査 面 積　12㎡
調　査　間　2012年５月30日～2012年５月31日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄・田中いづみ
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成24年４月24日付）

１　調査に至る経緯

2012年４月、施設基盤部から城北団地内グラウンド北部にテニスコートを設置することとなり、それに伴って建設予定地内にあるクスノキの撤去計画が示された。調査室では、予想される掘削深度と周辺における埋蔵文化財の分布状況から、基本層序Ⅰ層内にさまると、判断した。その後、学内における協議の結果、クスノキの撤去計画を変更し、クスノキを山越団地内へ移植することとなった。2010年度に実施した愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地の見直し作業では、山越団地は、周知の埋蔵文化財包蔵地であるか判断できない旨の愛媛県教育委員会の通知と同時に、埋蔵文化財が存在しないということではないことから、愛媛大学ならびに愛媛大学埋蔵文化財調査室が、主体的に埋蔵文化財保護に向けた試掘調査や分布調査を実施するよう強く求められていた。

上記の経緯を踏まえた上で、今回のクスノキ移植工事は、工事立会という形式ではあるが、山越団地内の埋蔵文化財の分布調査の一環として調査を実施した。

２　調査の概要

クスノキの移植先は、山越団地の南部に位置する。

写真60　01201調査　山越団地クスノキ移植工事状況（西から）

写真61　01201調査　山越団地クスノキ移植先調査区全景（西から）

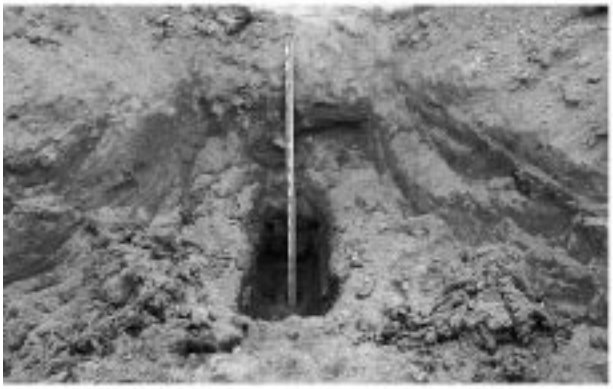
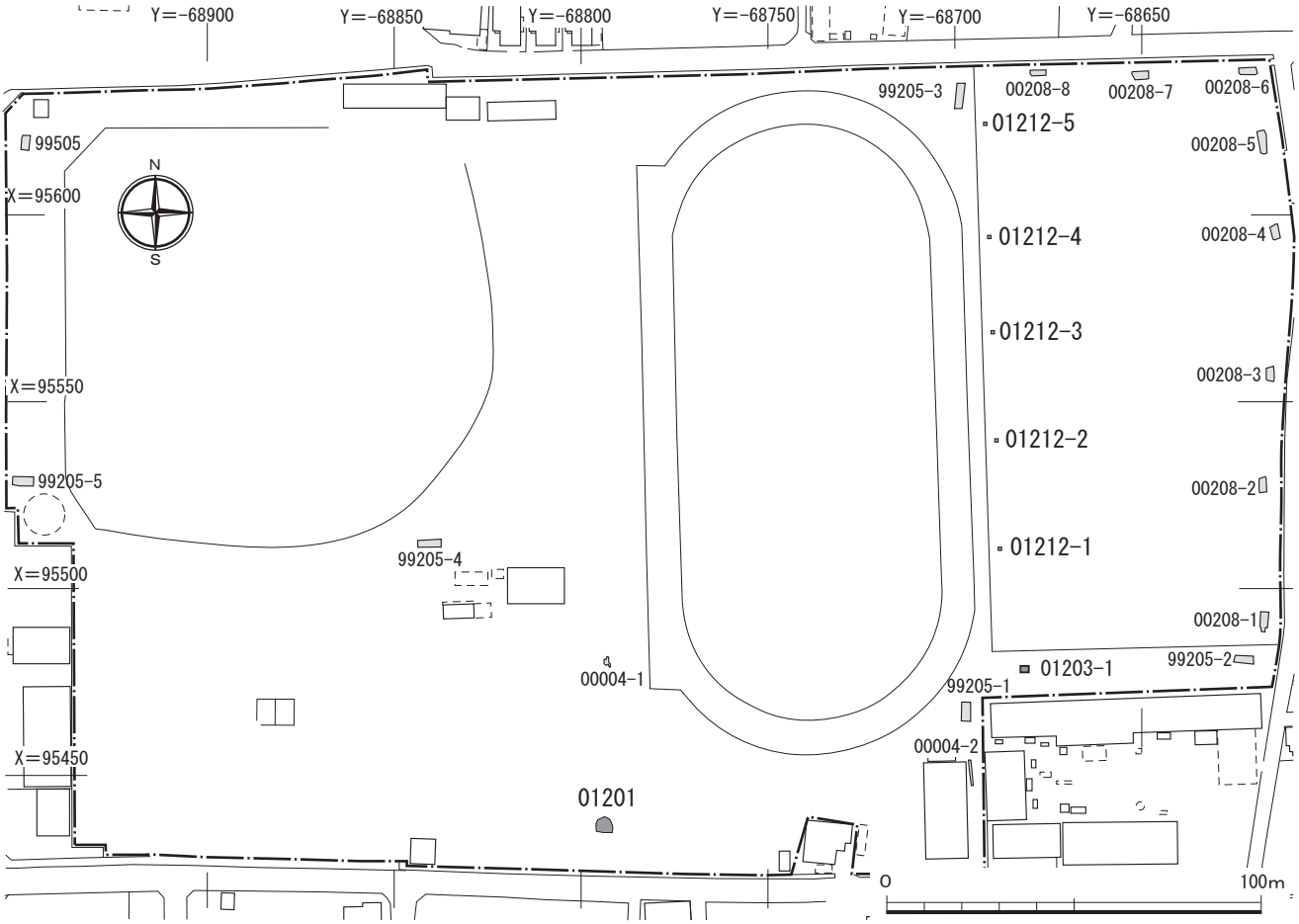


写真62　01201調査　山越団地深掘り地点の状況（西から）

写真63　01201調査　山越団地深掘り地点の状況（北から）



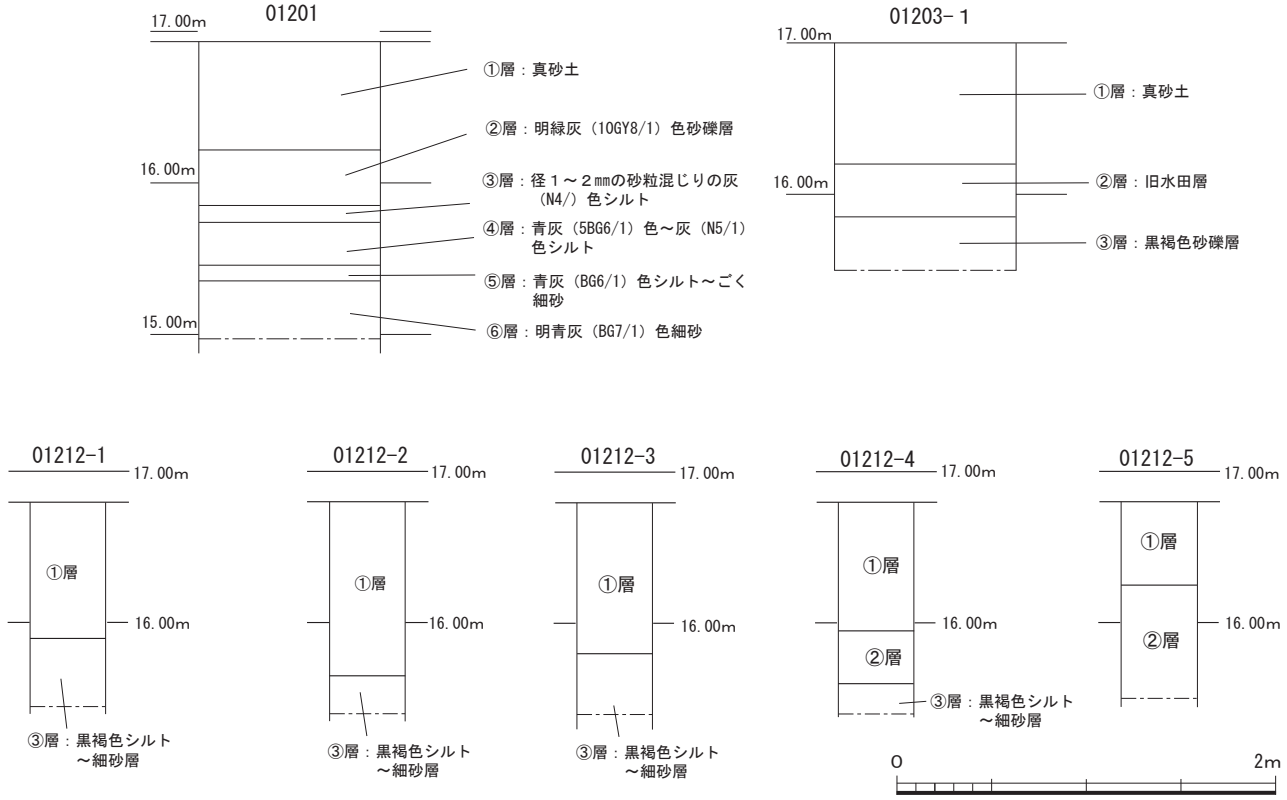


図２　山越団地調査位置図（縮尺1/2,000）および柱状図（縮尺1/40）

東西方向に約4.5m、南北方向に３～４m幅で調査区を設定した（図２・写真60～63）。重機を用いて、調査区全体を約70cm掘り下げところで、粘土層が見られた。そこで、調査区全体は粘土層上面までの掘り下げで停止することとした。ただし調査区の一部では、土層の堆積状況の確認を目的として、現地表下約200cmまで掘り下げを行った。

深掘り部分における土層は、現地表下約72cmまでグラウンドの真砂土層（①層）が堆積する。直下では、径５mm未満の明緑灰（10GY8/1）色小礫～粗砂層（②層）が約37cm堆積する。その直下で③～⑥層が堆積する。③層は径１～２mmの砂粒混じりの灰（N４/）色シルトで、約12cm堆積する。④層は、層厚約25cmの青灰（５BG6/1）色～灰色（N5/1）シルト層である。⑤層は、青灰（BG6/1）色のシルト～ごく細砂層である。約13cmの堆積層である。⑥層は、明青灰（BG7/1）色の細砂層である。いずれの層からも遺物は出土しておらず、ラミナも見られなかった。

３　まとめ

山越団地内における調査は、おもに団地北東部および東部で実施されてきた。団地南部における調査事例は少なく、グラウンド造成土下まで掘り下げを伴う調査は、今回が初めてである。今後、山越団地内における掘削工事の際の重要な指標となると考えられることから、土層の位置づけを行い調査のまとめとしたい。

まず①層は、真砂土層でグラウンド造成土である。②層は砂礫層で、溝や小河川の堆積層の可能性がある。③層～⑤層は、土層の特徴やラミナが見られないことから水田層と考えられる。出土遺物がなく、詳細な時期比定は難しいが、グラウンド造成前、近代以前の水田層であると考えられる。今後の調査では、出土遺物に注視しながら、水田層の時間的位置づけを明らかにする必要があろう。（三吉）

01202　（城北団地）本部管理棟耐震改修その他工事に伴う発掘調査（道後樋又遺跡３次調査）

調 査 地 点：松山市道後樋又10番13号　城北団地内
調 査 略 号：DGH-3
調 査 面 積：37.8㎡
調 査 期 間：2012年9月3日～2012年9月12日
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：田中いづみ・宮崎直栄
依 頼 文 書：施設基盤部長発事務連絡
（平成24年6月25日付）

１　調査に至る経緯

平成23年3月、施設基盤部と次年度に構内各所で行われる諸工事について協議する中で、城北団地の本部管理棟耐震改修工事が計画されていることが報告され、掘削工事に伴う埋蔵文化財への影響判断の依頼があった。調査計画に関わる協議を終えた後、平成24年３月26日に開催された平成23年度第２回埋蔵文化財調査委員会で他の発掘調査とあわせて調査計画を諮り、了承を得た。平成24年６月25日、施設基盤部長名で発掘調査の依頼があり、土木工事届の提出に向けて愛媛県教育委員会宛の埋蔵文化財についての意見書を作成し、６月27日に提出した。７月27日愛媛県教育委員会からの指示に沿い、埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、９月３日から発掘調査に着手した（図４）。

２　調査の経過

９月３日、本部管理棟建物南側の１区から調査に着手した。ところが、工事に伴い粉塵が多く発生しているため、当初計画を変更して２区の調査を先行させることとした。４日、２区の表土層（後述する基準層序Ⅰ層、以下同じ）と団地造成前の水田層（Ⅱ層）を重機で掘り下げ、隣接する文京遺跡全域でみられる黒褐色シルト～粘質シルト層（Ⅲ層）の上面を検出した。５日、２区のⅢ層を掘り下げるが、調査区東端部で土器の小片が数点出土しただけである。Ⅲ層下のにぶい黄褐色土層（Ⅳ層）上面で遺構を検出した。2区では、工事に伴う掘削深度がⅡ層までに収まることから、調査範囲中央に東西に付設された雨水管路の南側のみを調査することとした。Ⅳ層下面で溝、土壙、小穴が出土し、精査後、調査区の西半部と東端部に深掘りトレンチを設定し、Ⅳ層の精査を始める。一方、１

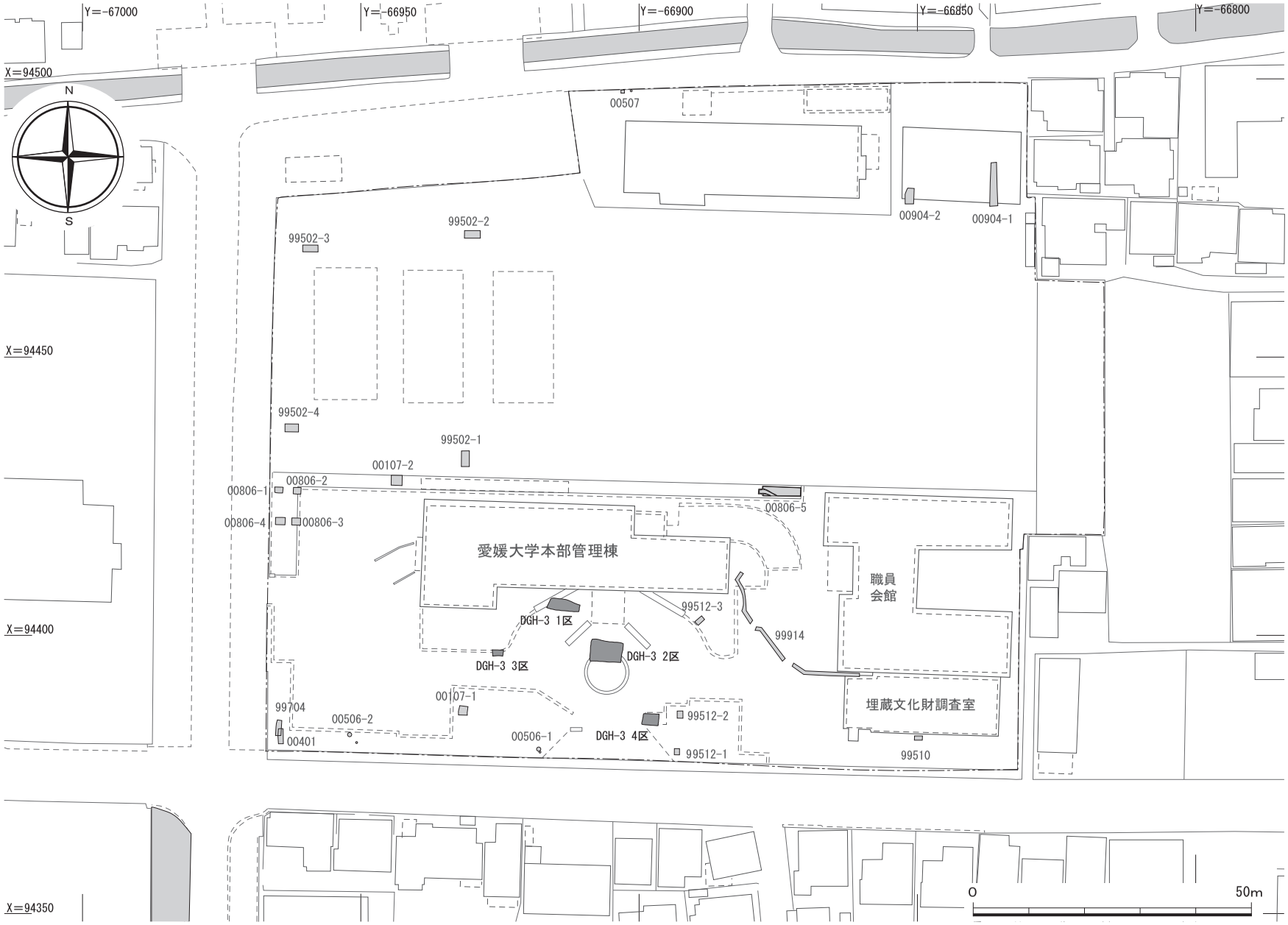


図３　01202調査（道後樋又遺跡３次）調査位置図（縮尺1/1,000）

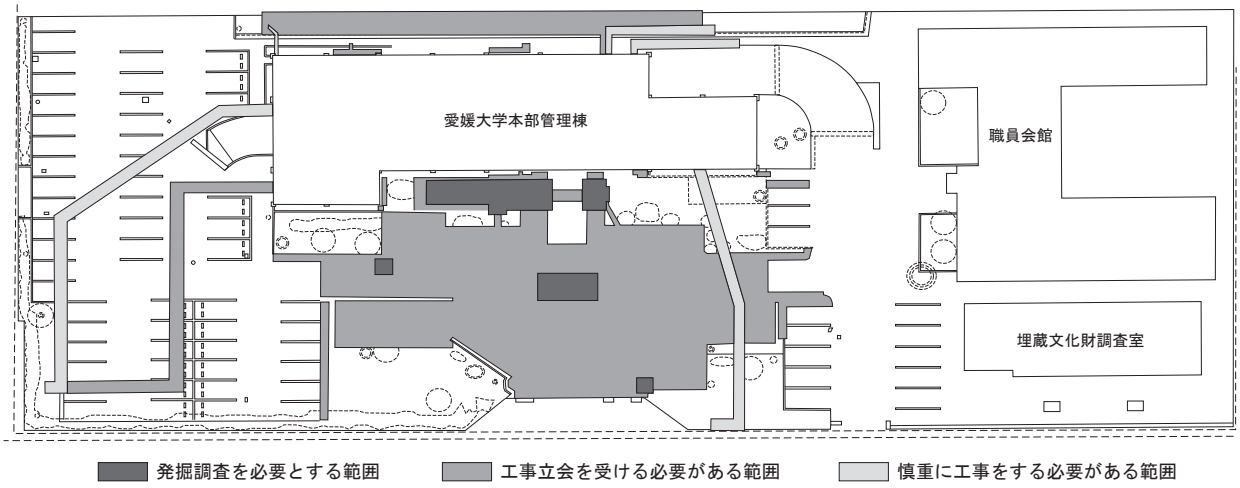


図４　01202調査（道後樋又遺跡３次）愛媛県教育委員会指示の調査範囲

区の表土剥ぎ作業を行う。２区のⅢ層に対応する土層はみられず、Ⅳ層上面で北西-南東に向かってのびる溝の掘り形を確認できた。７日、２区の深掘りトレンチでは、Ⅳ層から縄文土器片が出土している。出土状況の写真撮影を行う。1区ではⅣ層上面で溝と土壙を検出し、写真撮影を行う。10日、１区西半部の深掘りトレンチでは、Ⅳ層内の落ち込み（旧河道への落ち込み部分）を検出した。１区ではⅣ層上面で検出した溝の精査を継続している。11日、１・２区の調査を終え、３区と４区の調査を始める。９月12日に３・４区の調査を終え、今回の発掘調査を完了した。

３　層序と出土遺構・遺物の概要

文京遺跡全域で設定している基本層序と共通するⅠ～Ⅳ層を確認できた。Ⅰ層は表土造成土層。Ⅱ層は黄灰色の粗砂・極粗砂混じりの砂質シルト層で、団地造成以前の水田層である。Ⅲ層は、黒褐色シルト質砂層で、径２～４㎜の細礫や極粗砂が多く混じる。Ⅳ層は、黄色～明黄褐色のシルト質砂～砂混じりの砂質シルト層で、２区西半部と東端の深掘りトレンチで堆積状況を観察した。１区では溝１条と土壙１基、２区では土壙２基、溝１条、小穴３基が出土し、Ⅳ層からは縄文土器が出土している。

４　調査の記録

（１）１区の調査

１区は本部管理棟南側に位置する（図３・５）。発掘予定の範囲は東西18m、南北９mであるが、その中央で先行して東西長３m、南北幅1.5mのトレンチを設定し調査を開始した。現地表下1.3mまで表土の造成土のⅠ層がつづく。工事に伴う掘削深度は、現地表下90㎝までであり、完全にⅠ層内に収まる。そこで、先行トレンチだけの調査にとどめ、他は現状保存することとした。Ⅳ層上面で、北西-南東にのびるSD-1と、SD-1を切るSK-2が出土した（図５、写真64）。

［SD-1］　幅65～85㎝、検出面からの深さ40㎝前後の溝である（図５、写真65）。断面V字形を呈し、溝底には高低があり、部分的に径45㎝ほどの小穴状の窪みとなっている。溝底には中砂～細砂のラミナを挟む暗灰色砂層（⑤層）が堆積する。掘り形中部～上部は黒褐色粘質シルトで埋積され、上部の②層にはⅣ層起源のにぶい黄褐色シルトの小塊が多くみられる（写真66）。SD-1は当初水路として掘削されたものの、流水が停滞し、溝の機能が低下した結果、最終的に人為的に埋め戻されたものと判断できる。出土遺物は、掘り形上部から縄文土器の胴部小片が数点出土したにとどまる。後述する２区ではⅣ層から縄文土器が出土しているので、SD-1が人為的に埋め戻された際に、Ⅳ層起源のにぶい黄褐色シルトの小塊とともに混入した遺物と考える。他に出土遺物はない。しかし、文京遺跡周辺で、黒褐色土を埋土とする遺構は弥生時代～古墳時代に比定でき、古代以降の遺構は灰色みをおびた埋土をもつことから、SD-1は弥生時代～古墳時代の溝と捉えておく。

［SK-2］　長さ95㎝、検出面からの深さ10～15㎝の長円形の掘り形をもつ。SD-1を切る（図５）。掘り形の大半は調査区東側に広がる。掘り形埋土は灰色みをおびた黒褐色粘質シルトで、底面には薄く灰色粗砂～

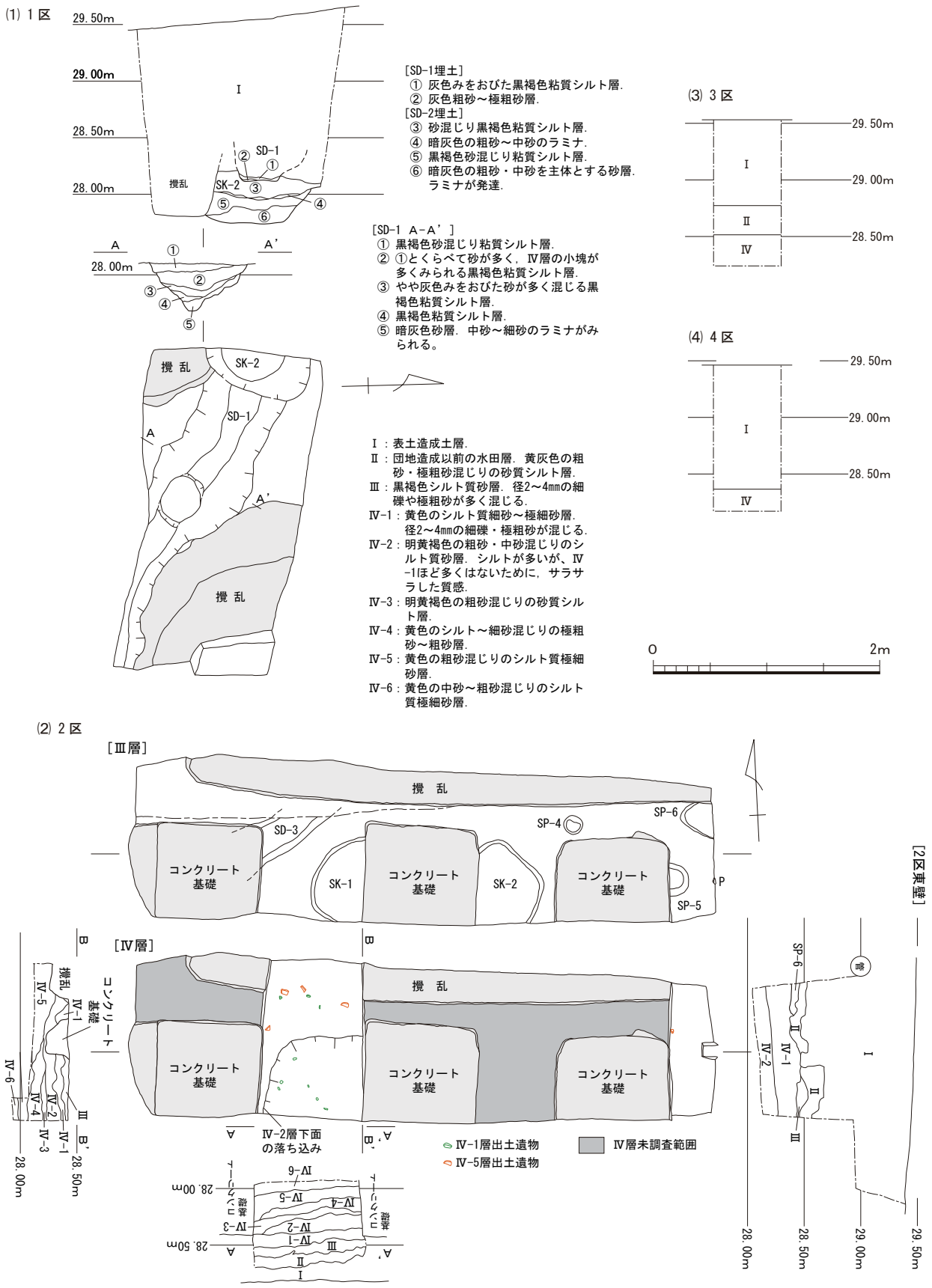


図５　01202調査（道後樋又遺跡３次）調査平面図および土層断面図（縮尺1/50）

写真64　01202調査　１区SD-１検出状況（東から）

写真65　01202調査　１区SD-１完掘状況（東から）

写真66　01202調査　１区SD-１土層断面（西から）

写真67　01202調査　２区表土剥ぎ後（東から）

写真68　01202調査　２区Ⅳ層上面遺構検出状況１（東から）

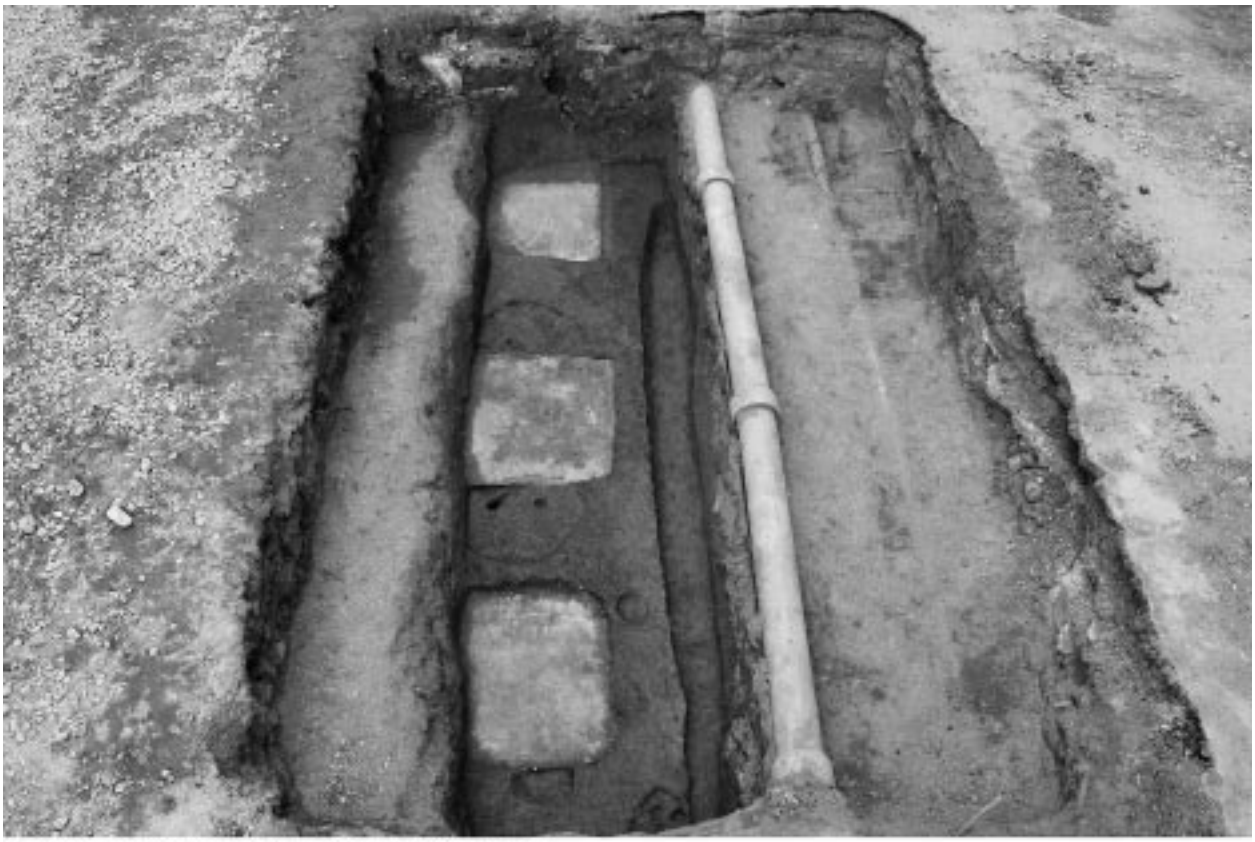


写真69　01202調査２区Ⅳ層上面遺構完掘状況１（東から）

写真70　01202調査　２区Ⅳ層上面遺構検出状況２（東から）

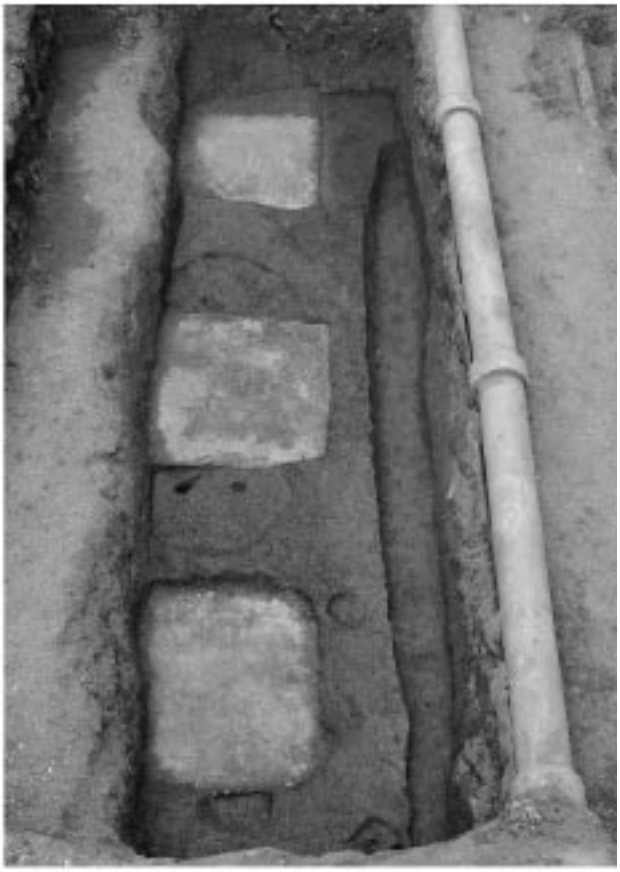


写真71　01202調査　２区Ⅳ層上面遺構完掘状況２（東から）

写真72　01202調査　２区SX－１、SD－３検出状況（南から）

写真73　01202調査　２区SX－１、SD－３完掘状況（南から）

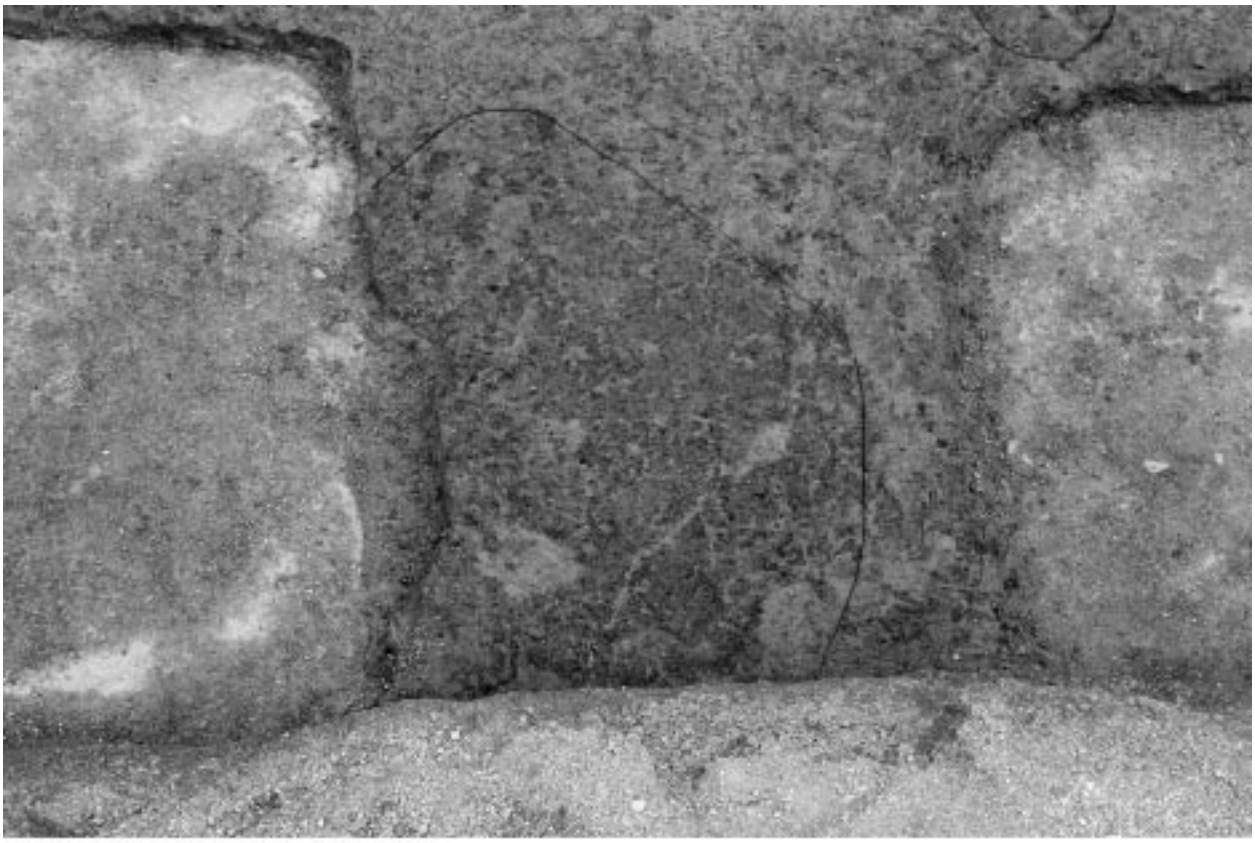


写真74　01202調査　SK-２検出状況(南から)

写真75　01202調査　SK-２完掘状況(南から)

写真76　01202調査　SP-５・６検出状況(東から)

写真77　01202調査　SP-５・６完掘状況(東から)

写真78　01202調査　２区深掘り位置（東から）

写真79　01202調査　２区深掘り部土層断面１（北から）

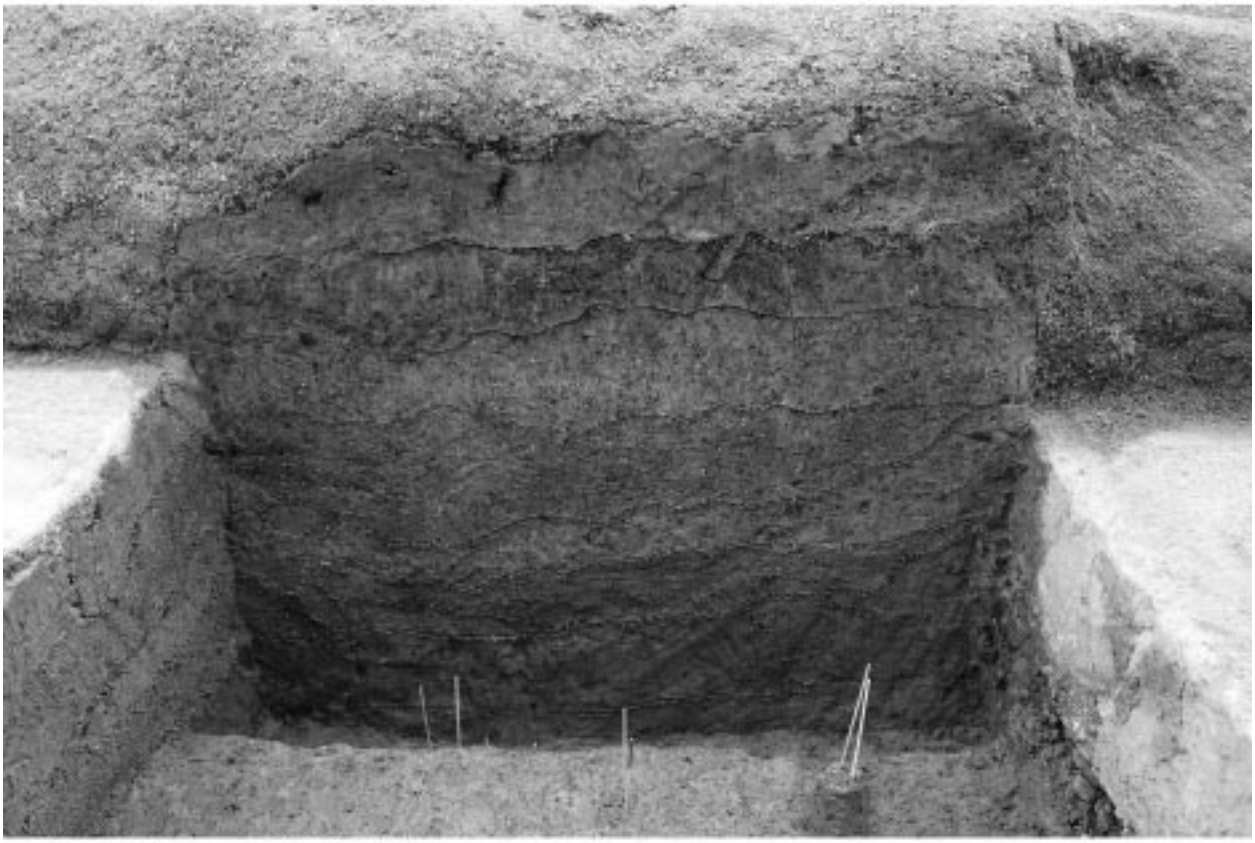


写真80　01202調査　２区深掘り部土層断面２（北から）

写真81　01202調査　２区東壁沿い土層断面（西から）

写真82　01202調査　２区Ⅳ層遺物出土状況１（北から）

写真83　01202調査　２区Ⅳ層遺物出土状況２（北西から）

写真84　01202調査　２区Ⅳ層遺物出土状況３（西から）

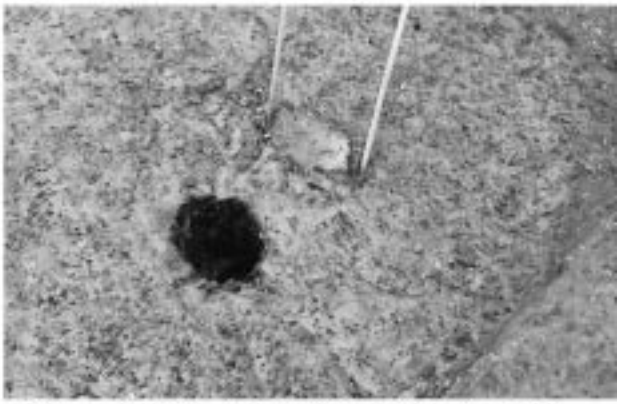


写真85　01202調査　２区Ⅳ層遺物出土状況４（北西から）

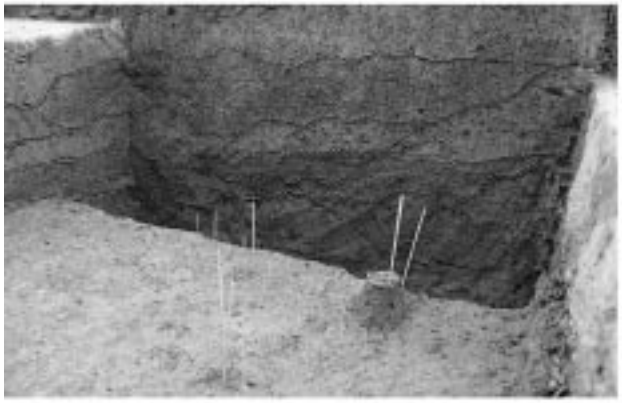


写真86　01202調査　２区Ⅳ層遺物出土状況５（北西から）

写真87　01202調査　２区Ⅳ層遺物出土状況６（北から）

写真88　01202調査　３区遠景（南東から）

写真89　01202調査　３区全景（東から）

写真90　01202調査　３区南壁土層断面（北東から）

写真91　01202調査　４区遠景（北西から）

写真92　01202調査　４区全景（北東から）

写真93　01202調査　通信管路立会調査(南から)

写真94　01202調査　南側ハンドホール部分立会調査(南から)

写真95　01202調査　通信管路立会調査(北から)

写真96　01202調査　北側ハンドホール部分立会調査(北から)

極粗砂の薄層がレンズ状に堆積する。遺物は出土していない。埋土が灰色みをおびており、SK-2は古代～中世に比定できる。

（2）２区の調査

２区は本部管理棟南側に張り出す屋根を支える支柱基礎部分に当たる（図３）。表土のⅠ層と、団地造成前の水田土層のⅡ層を掘り下げると、現地表下1mでⅢ層があらわれるとともに、一辺１mほどのコンクリート基礎が東西に並んで確認でき、調査区北端は大きく後世の攪乱で破壊されていた（写真67）。工事に伴う掘削深度は現地表下90cmまでであり、中央に東西に付設された雨水管路の南側のみを調査することとし、他は現状保存することとした。

調査ではⅢ層を精査したが、２区東端部で土器の小片が数点出土したのみである。Ⅳ層上面では土壙２基（SK-1・2）、溝1条（SD-3）、小穴３基（SP-4～6）を検出できた（写真68～71）。各遺構とも、埋土は灰色みをおびた黒褐色土で、古代～中世の遺構と考える。

［SK-1］　２区西半部で出土した推定径90cmほどの円形の土壙である（図５、写真72・73）。東半部をコンクリート基礎で破壊されている。掘り形を検出できたⅣ層上面からの深さは３～４cmを測り、底面には小さな凹凸がみられる。埋土は極粗砂が混じる黒褐色シルト質粘土である。遺物は出土していない。

［SK-2］　２区東半部で出土した隅丸方形の土壙である（図５、写真74・75）。南端は調査区外にのび、東半部はコンクリート基礎で破壊されている。推定径80cm前後、Ⅳ層上面からの深さ４～５cmを測る。底面は浅い舟底状を呈し、径数cmの小穴状の窪みがみられる。埋土は粗砂や極粗砂が少量混じる黒褐色シルト質粘土である。遺物は出土していない。

［SD-3］　２区北西部に位置し、南西-東北にのびる幅33～35cmの溝である（図５、写真72・73）。深さは４cm前後で、横断面は舟底状で、溝底には小さな凹凸がみられる。埋土は細礫混じりの黒褐色シルト質粘土である。出土遺物はない。

［SP-4］　２区東半部に位置する14cm×16cmの不整な長円形の掘り形をもつ（図５）。深さは４cmほどを測る。埋土は黒褐色の極粗砂混じりのシルト質粘土である。掘り形埋土から弥生土器の胴部破片が出土しているが、小片のため時期は不明である。

［SP-5］　２区の東端近くに位置する不整長円形の掘り形をもつ小穴である（図５、写真76・77）。西半部をコンクリート基礎で破壊され、短径は28cmを測る。深さは３～４cmほどである。埋土は黒褐色の極粗砂混じりシルト質粘土である。遺物は出土していない。

［SP-6］　２区東端に位置する。不整形の小穴で、大半は調査区外にのびる（図５、写真76・77）。Ⅳ層上面からの深さは6cmを測る。埋土は極粗砂混じりのシルト質粘土である。掘り形埋土から縄文土器の胴部小片が1点出土したが、Ⅳ層からの混入品と考える。

（3）Ⅳ層の調査

２区では、深掘りトレンチを設定し、狭いながらⅣ層の堆積状況を確認することができた（図５、写真78・80）。Ⅳ層はⅣ-1～Ⅳ-6層に細分でき、Ⅳ-1層はほぼ平坦な堆積で、その下面でⅣ-5層の南東への落ち込みを確認できた。この落ち込みを埋積するのがⅣ-2～4層である。Ⅳ-2層はシルト質砂層で、下部ほど粗砂・中砂が多く混じる上方細粒化をみせる（写真79）。Ⅳ-3層は明黄褐色の粗砂混じりの砂質シルト層、Ⅳ-4層は黄色のシルト～細砂混じりの極粗砂～粗砂層である。Ⅳ-3層からⅣ-4層へ向けて上方細粒化を示す一連の遷移層と考えられる。Ⅳ-5層が落ち込む旧河道際に比較的強い流水が押し寄せⅣ-3・4層が堆積し、その後は緩やかな流水がⅣ-2層を堆積させたものと考えられる。Ⅳ-5層は黄色の粗砂混じりのシルト質極細砂層である。Ⅳ-6層は黄色の中砂～粗砂混じりのシルト質極細砂層である。Ⅳ-1層下部～Ⅳ-2層との層界部、Ⅳ-5層から縄文土器の破片が散漫に出土している（図５、写真82～87）。いずれも深鉢の胴部破片であるが、小片のため時期は不明である。

（4）3区の調査

3区は本部管理棟南西側に設置される雨水枡部分に当たる（図３）。現地表下75cmでⅡ層、１mでⅣ層があらわれた。工事に伴う掘削深度までⅣ層上面の精査を行ったが、遺構・遺物は出土していない。出土遺物はない（図5、写真88～90）。

（5）4区の調査

4区は樋又団地の正門北側のL形側溝枡の設置地点である（図３、写真91）。工事に伴う掘削深度の現地表下1.08mまで造成土のⅠ層がつづく。遺構・遺物は出土していない（図５、写真92）。

（6）工事立会調査

本部管理棟南側の工事立会範囲では、南西側の管路部分で、工事に伴う掘削深度が最も深い枡部分２ヶ所で工事立会を行い、埋蔵文化財に影響がないことを確

認した（写真93～96）。管路部分では工事に伴う掘削深度が浅く、慎重工事を依頼した。なお、本部管理棟北側の工事立会範囲は、工事計画が変更され、次年度に繰り越すこととなった。

５　調査のまとめ

これまで樋又団地内では、遺構の出土を確認できていなかった。しかし、今回の調査では、弥生時代および古代～中世の溝、土壙、小穴を確認できたとともに、基本層序Ⅳ層では縄文土器が出土した。調査範囲が限られているが、古代～中世の遺構は密度が高い。また、Ⅳ-1層下面で確認できた南東への落ち込みは、遺跡南側の文京遺跡８次調査や00304調査で確認できた南側への旧河道への落ち込みに対応する。縄文時代には樋又団地と文京遺跡北端との間の約200ｍに東西方向の旧河道が形成され、弥生時代以降、旧河道が次第に埋積され、古代～中世に生活域に変化することが考えられる。（田崎）

01203　（城北団地）クスノキ移植工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町３　城北団地内
　　松山市山越４丁目11番10号　山越団地内
調 査 面 積　３㎡
調 査 期 間　2012年９月19日～９月29日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成24年９月18日付）

１　調査に至る経緯

2012年９月、施設基盤部より城北団地内立体駐車場計画予定地内にあるクスノキ４本を山越団地内に移植する計画が提示された。埋蔵文化財調査室内では、掘削深度と周辺における埋蔵文化財の分布状況を検討した結果、埋蔵文化財へ影響も予想されたため、工事に際して工事立会を行うこととした。

２　調査の概要

（１）山越団地における調査

まず移植先である山越団地内の調査から実施した。移植先は、団地内の南東部、南部、北部、北東部の４地点に点在し、南東部から時計回りに順次１トレンチ、２トレンチ、３トレンチ、４トレンチとした（図２・写真99～108）。

１トレンチは、重機を用いて現地表下150㎝まで掘り下げを行い、自然河川の堆積層を確認した。土層の堆積状況は、現地表下約80㎝まで真砂土層（①層）、約110㎝まで団地造成前の旧水田層（②層）が堆積していた。②層の直下で、黒褐色砂礫層（③層）が出土した。③層は、00208調査１～４トレンチで確認できた河川堆積物および湿地堆積物層に対応すると考えられる。

２トレンチは現地表下120㎝まで、３・４トレンチは110㎝まで重機を用いて掘り下げを行い、掘削停止面まで真砂土層が続いていることを確認した。

（２）城北団地における調査

城北団地北西部に植えられている４本のクスノキ周辺で調査を行った。北側から５トレンチ、南側へ順に

写真97　01203調査　１トレンチ（北から）

写真98　01203調査　１トレンチ全景（北から）

写真99　01203調査　1トレンチ南壁（北から）

写真100　01203調査　1トレンチ西壁（東から）

写真101　01203調査　2トレンチ遠景（北から）

写真102　01203調査　2トレンチ全景（北から）

写真103　01203調査　2トレンチ全景（北から）

写真104　01203調査　3トレンチ遠景（東から）

写真105　01203調査　3トレンチ近景（南から）

写真106　01203調査　3トレンチ全景（東から）

写真107　01203調査　４トレンチ遠景（南から）

写真108　01203調査　４トレンチ全景（南から）

写真109　01203調査　５トレンチ遠景（北から）

写真110　01203調査　５トレンチ全景（東から）

写真111　01203調査　６トレンチ全景（北東から）

写真112　01203調査　６トレンチ全景（東から）

写真113　01203調査　７トレンチ全景（北東から）

写真114　01203調査　８トレンチ全景（南東から）

６トレンチ、７トレンチ、８トレンチとした（写真109～114）。クスノキ移植に伴う掘り下げ作業後、各地点で調査区の土層精査を行い、古代～中世の水田層へ影響がないことを確認した。

３　まとめ

2010年度に実施した大学構内における包蔵地の見直し作業では、山越団地内では、縄文時代晩期中頃や古墳時代後期の自然河川の一部が確認されているものの、周知の埋蔵文化財包蔵地であるかどうか判断できないとの通知が愛媛県教育委員会よりなされている。本調査では、山越団地内における１トレンチにおいて、自然河川の一部を確認することができた。時代を特定できる遺物などは出土しておらず、自然河川の時期を特定することができないが、山越団地内に埋蔵文化財が展開している可能性を示すものである。今後とも山越団地内における諸工事に際しては、工事立会などを実施する必要がある。　（三吉）

01204　（城北団地）総合研究棟（工学系）等耐震改修工事に伴う発掘調査（文京遺跡49次調査）

調 査 地 点　松山市文京町２番、３番
　　愛媛大学城北団地内
調 査 面 積　49㎡
調 査 期 間　2012年９月28日～2012年10月５日
調 査 種 別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄・田中いづみ
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成24年７月23日付）

１　調査に至る経緯と概要

2012年３月、施設基盤部から城北団地構内工学部講義棟、理学部講義棟の耐震改修工事計画案が示された。それを受けて、埋蔵文化財調査室では工事設計を行う施設基盤部との間で、埋蔵文化財への影響が少なくなるよう協議を行った。同年７月23日、最終的な工事計画が提示された。埋蔵文化財調査室では、工事予定地周辺における既往の調査成果を基にして意見書を作成し、７月27日付で、松山市教育委員会を通じ愛媛県教育委員会に土木工事届出書の提出を行った。これに対して、愛媛県教育委員会より８月15日付で、工学部講義棟北側について発掘調査が必要であるとの指示があった。これを受けて、８月30日付で発掘調査に係わる届出を行い、９月10日付で愛媛県教育委員会に受理された。

埋蔵文化財調査室では、愛媛県教育委員会から発掘調査の指示があった工学部講義棟周辺工事における北側部分（１区）と、工事立会あるいは慎重工事の指示ではあったものの、埋蔵文化財への影響が予想された講義棟の西側工事地点（２区）を発掘調査対象として、９月28日から着手し、10月５日に終了した（図６）。講義棟南西部（３区）では、発掘調査期間内に工事立会を行い、管路が密集しており、埋蔵文化財がすでに破壊されていることを確認した（写真130）。また、理学部講義棟東側工事地点（４区）では、11月５日に工事立会を実施し、既設管路の掘り返し部分にあたることを確認した（写真131）。

なお、本報告内における基本層序は『愛媛大学構内遺跡調査集報』Ⅰ（愛媛大学埋蔵文化財調査室、1997年）に準じる。

２　調査の記録

（１）１区（図６・写真115～122）

工学部講義棟北側に設けた調査区である。調査区の西端部分以外は、文京遺跡26次調査、27次調査地点ならびに、既存建物ならびに既設管路部分設置工事に伴って、すでに破壊を受けていた。埋蔵文化財が残る範囲は、南北1.8m、東西2.2m四方である。調査区内では、重機を用いて表土層であるⅠ層と近世の水田層であるⅡ層の掘り下げを行い、Ⅱ層直下でⅣ層が出土した。Ⅳ層は、明黄褐（2.5Y7/6）色砂質シルト～シルトで、径４㎝前後の円礫を少量含んでいる。Ⅳ層上面で精査を行ったが、調査区内では検出できなかった。Ⅳ層ならびにⅤ層の一部を掘り下げたが、遺物は出土していない。

調査区北壁の土層観察では、Ⅱ層下に褐灰（５YR5/1

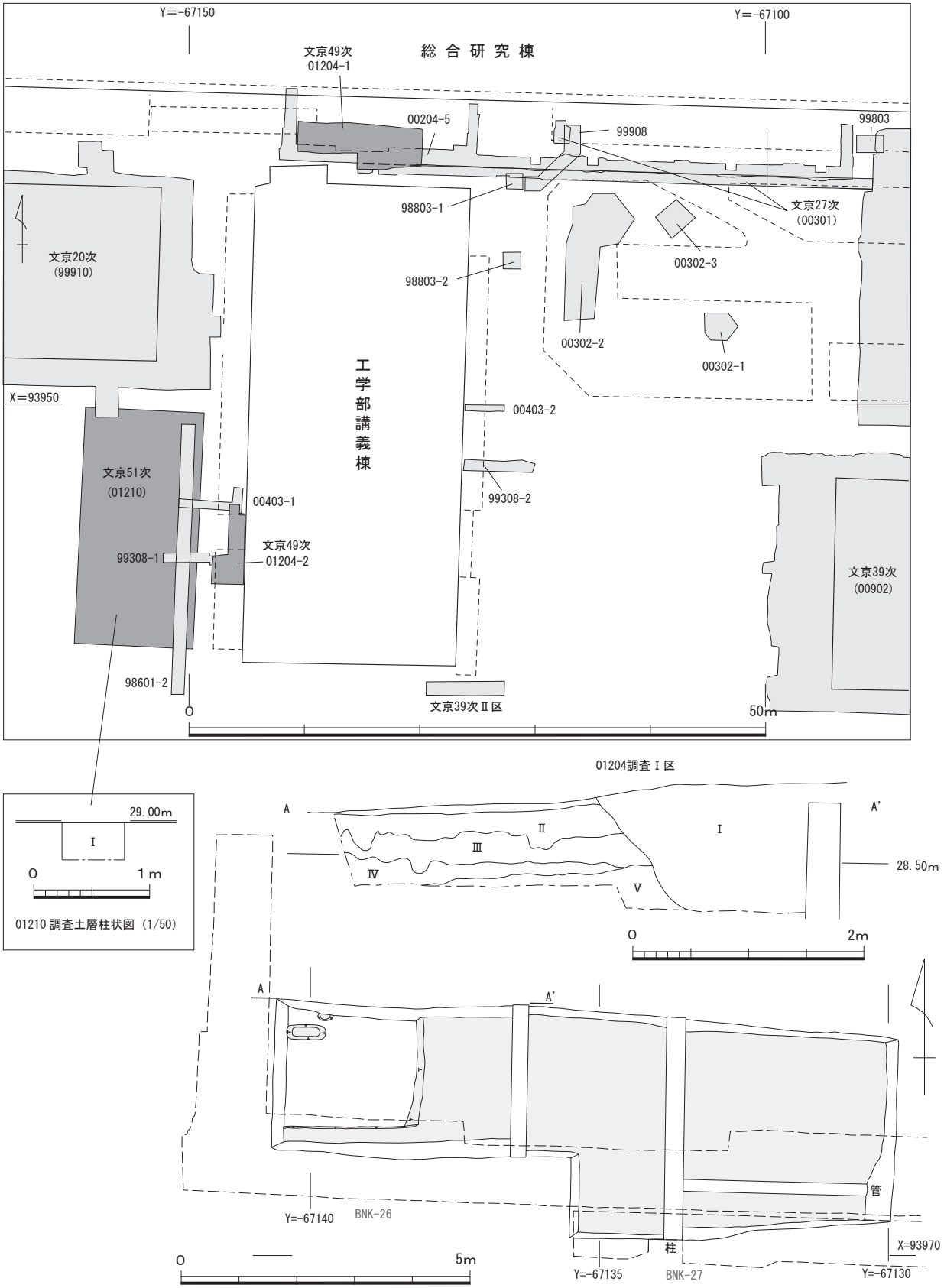


図６　01204調査（文京遺跡49次）・01210調査（文京遺跡51次）調査位置図（縮尺1/500）および調査平面図（縮尺1/100）、土層断面図（縮尺1/50）、柱状図（縮尺1/50）

写真115　01204調査　１区調査前の状況（西から）

写真116　01204調査　１区表土剥ぎ状況（西から）

写真117　01204調査　１区表土層除去状況（西から）

写真118　01204調査　１区表土層除去状況（東から）

写真119　01204調査　１区西端部の表土層除去状況（西から）

写真120　01204調査　１区西端部の表土層除去状況（東から）

写真121　01204調査　１区完掘状況（西から）

写真122　01204調査　１区西端部北壁土層（南から）

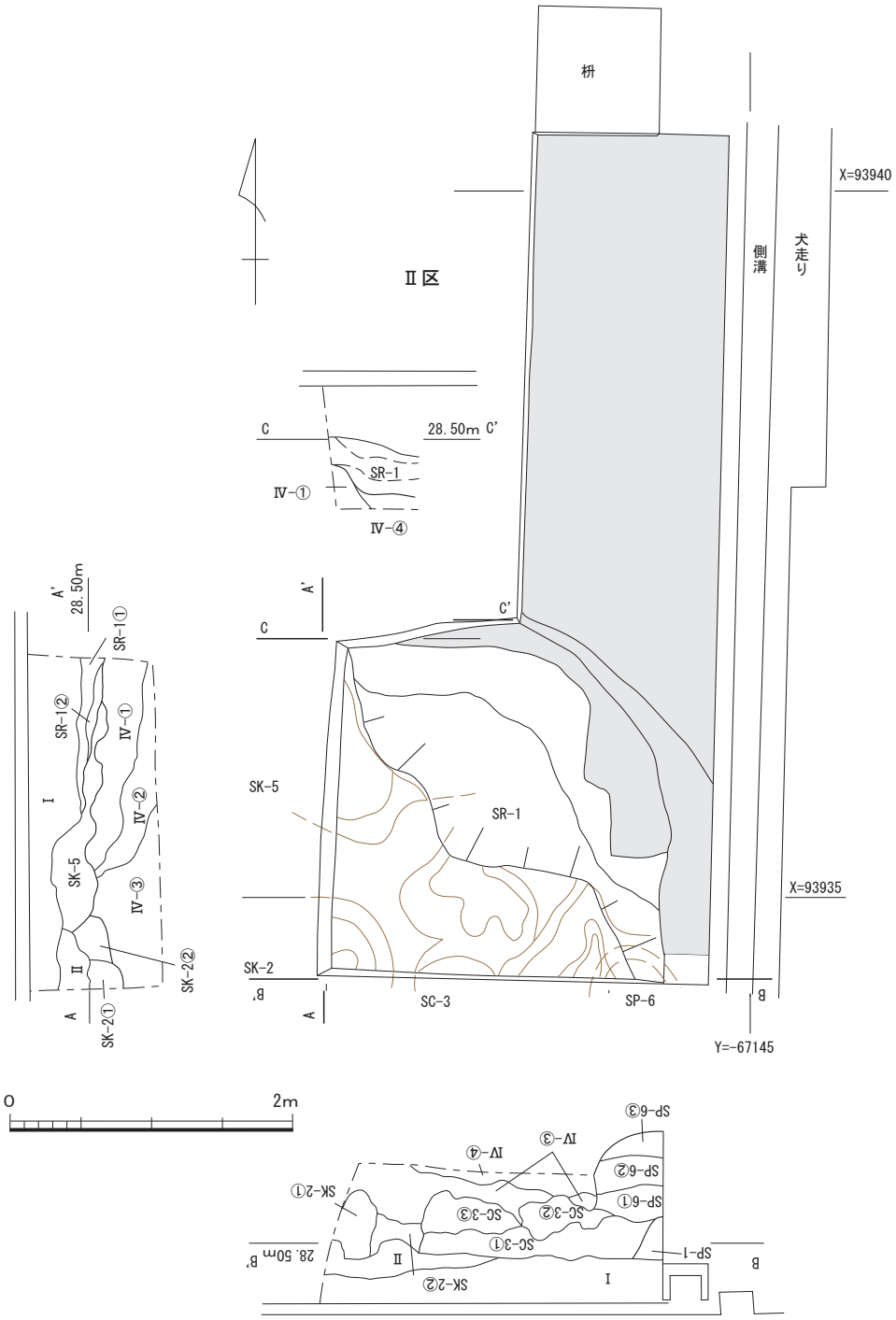


図７　01204調査（文京遺跡49次）調査平面図および土層断面図（縮尺1/50）

写真123　01204調査　２・３区調査前の状況（北から）

写真124　01204調査　２区Ⅳ層上面遺構検出状況（北東から）

写真125　01204調査　２区Ⅳ層上面遺構検出状況（北から）

写真126　01204調査　２区Ⅳ層上面遺構完掘状況（北から）

写真127　01204調査　２区完掘状況（北東から）

写真128　01204調査　２区完掘状況（北から）

写真129　01204調査　２区西壁土層（東から）

～4/1）色シルト層が10～25㎝堆積する。遺構に伴うたちあがりなどが見られないことから、基本層序Ⅲ層の一部と位置づけておく。この北壁で見られるⅢ層中から、弥生土器の壺・甕胴部片が少量出土している。Ⅴ層は黄灰（2.5Y5/1～4/1）色である。径0.5㎜～２㎜の砂粒が主体となり、径２～３㎝の円礫が混じる。

（２）２区（図７・写真123～129）

工学部講義棟の南西部に設けたＬの字状の調査区である。調査区中程から北側は、講義棟建設時の掘削などにより、すでに埋蔵文化財が破壊されていることを確認した。そこで、調査区の南側を対象として調査を行った。

①Ⅲ層上面検出遺構

重機を用いて、表土層であるⅠ層ならびにⅡ層を掘り下げると、現地表下25～38㎝で灰褐色～灰黄褐色を主体とするⅢ層が出土した。Ⅲ層上面を精査したところ、古墳時代～近世に位置づけられる自然河川SR-1の南岸の一部を検出した。流路は南東方向から北西方向へ続く。SR-1の埋土は灰黄褐（2.5Y7/2）色の粗砂～細砂が主体であり、ラミナが見られる。上層である①層は、灰黄（2.5Y7/2）色砂質土で、粗砂～細砂である。下層である②層は、灰黄（10YR6/2）色シルトで、径２～３㎜の砂礫が混じる。SR-１から遺物は出土していない。

②Ⅲ層およびⅣ層上面検出遺構

Ⅲ層は人力で掘り下げ、Ⅳ層上面で遺構精査を行った。その結果、土壙SK-２・５、竪穴建物SC-３を検出した。

SK-２は南西隅で検出した。埋土は２層からなり、①層は灰黄褐（10YR6/2）色砂質シルトで、径２～３㎜の砂礫が混じる。明黄褐（2.5Y7/6）色砂質土の丸いブロックを少量含む。②層は褐灰（7.5YR5/1）色シルトを主体とし、明黄褐（2.5Y7/6）色シルトの不定形ブロックを多く含む。柱穴の可能性がある。遺物は弥生土器小片が少量出土している。

SC-３は調査区南東隅で検出した。当初、西側をSK-３、東側をSK-４と別の遺構としていたが、南壁の土層観察などから、同一の遺構、竪穴建物と判断した。SC-３の埋土は、灰黄褐（10YR6/2）色砂質シルトで、径２～３㎜の砂礫が混じる。明黄褐（2.5Y7/6）色砂質土の丸いブロックを少量含む。床面造成土は２層からなる。②層は灰黄褐（10YR4/2）色砂質シルトで、明黄褐（2.5Y7/6）色砂質土の丸いブロックが混じる。③層は褐灰（7.5YR5/1）色砂質ルトで、明黄褐（2.5Y7/6）色砂質土の丸いブロックを少量混じる。径２～３㎜の砂礫や径５㎜前後の礫も混じる。埋土中から弥生土器・土師器片・須恵器片などが出土している（図８-１～３）。１は須恵器蓋坏の口縁部片である。２は弥生土器高坏の脚部片である。３は土師質の甑片である。以上の遺物などから、SC-３は古墳時代後期の竪穴建物である。

以上の他に、Ⅳ層を掘り下げる過程で柱穴SP-６を検出した。SP-６は本来SC-３の床面から掘り込まれる主柱穴と考えられる。埋土は３層からなる。①層は褐灰（7.5YR4/1）色シルトで、明黄褐（10YR7/6）色シルトの丸いブロックが混じる。しまりがある。②層は①層に近く、にぶい黄橙（10YR7/2）色細砂のブロックを多く混じる。③層はにぶい黄橙（10YR7/2）色細砂のブロックが主体で、褐灰（7.5YR4/1）色シルトや明黄褐（10YR7/6）色シルトのブロックが混じる。柱痕跡は見られない。埋土はしまりがあることから、柱を抜き取り後、埋め戻されたと考えられる。埋土中から、須恵器片や弥生土器・土師器片が少量出土している。図化できたのは須恵器坏蓋（図８-４）である。焼成はややあまく、天井部に回転ヘラ削り調整が施されている。SC-３と同時期の古墳時代後期に位置づけられる。SK-５は北西部で検出した不定形の土壙で、北側に向かって落ち込んでいる。埋土は灰褐（7.5YR5/2）色シルトである。なおⅢ層中から弥生土器片（図８-５）や支脚（同６）、古墳時代須恵器蓋坏（同８）・高坏片（同９）、古代～中世の土師器（同７）片、青磁小片や鍋片（同10）などが出土している。

③Ⅳ層

Ⅳ層上面で検出した遺構の調査に続き、人力を用いてⅣ層の掘り下げを行った。Ⅳ層は現地表下１ｍまで掘り下げた時点で、遺構・遺物ともに出土しなかったことから、調査を終了した。なお、調査区内で確認できたⅣ層はⅣ-①～④層である。Ⅳ-①層は明黄褐（2.5Y7/6）色シルトである。Ⅳ-②層は明黄褐（2.5Y7/6）色シルトで上層に比べて粘性が強い。Ⅳ-③層は明黄褐（2.5Y7/6）色砂質土で、細砂が主体である。Ⅳ-④層は灰黄（2.5YR6/2）色細砂層である。

３　まとめ

今回の調査では、１区と２区で弥生時代から近世の遺構・遺物が出土した。これらの位置づけを行うこと

写真130　01204調査　３区全景（東から）

写真131　01204調査　４区全景（北から）

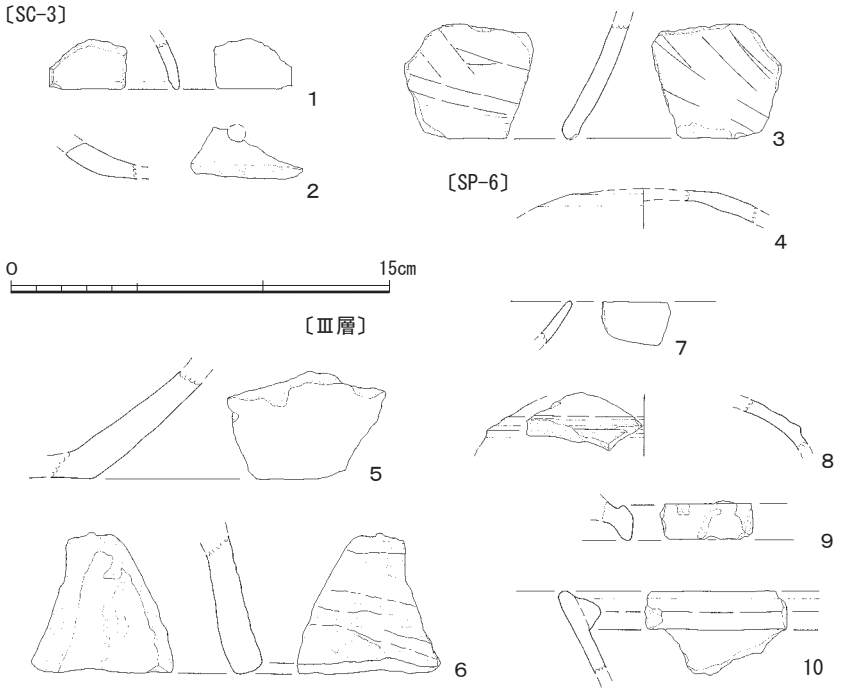


図８　01204調査（文京遺跡49次）出土遺物実測図（縮尺1/3）

で、調査のまとめとしたい。

１区では、調査区北壁で弥生時代～古墳時代の遺物が出土している。隣接する文京遺跡26次調査や27次調査で同時期の遺構が出土しており、これらの遺構と関連する資料である。２区では古墳時代後期～近世の自然河川１条、古墳時代後期の竪穴建物１棟、土壙２基、柱穴１基が出土した。調査区西側で行われた文京遺跡20次調査でも古墳時代後期の竪穴建物や掘立柱建物が出土しており、今回の調査で検出した建物などもこの集落の一部にあたると考えられる。

（三吉）

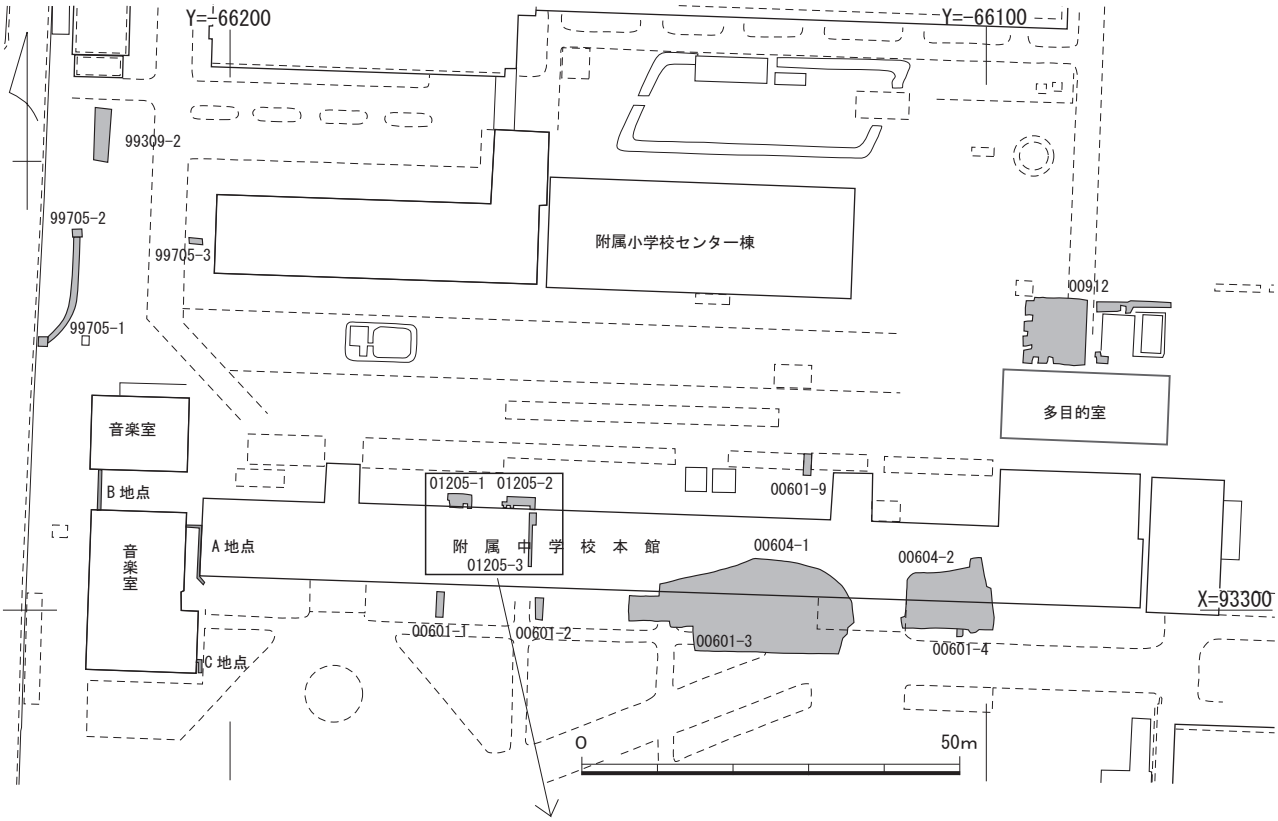
01205　（持田団地）特別支援学校校舎等耐震改修工事に伴う発掘調査（持田遺跡５次調査）

調 査 地 点　松山市持田町１丁目860番の一部
　　持田団地内
調 査 略 号：MCD-5
調 査 面 積　13.53㎡
調 査 期 間　2012年10月22日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成24年８月８日付）

１　調査に至る経緯

持田団地には、団地北半部を中心として、周知の埋蔵文化財包蔵地である持田遺跡が展開する。愛媛大学埋蔵文化財調査室は、これまで持田団地内で４回の発掘調査、諸工事に伴う工事立会、遺跡範囲の確認を目的とした確認調査を実施し、遺跡の記録保存ならびに保護に努めている。

2012年８月、施設基盤部より持田団地内に所在する特別支援学校校舎等耐震改修工事計画が示された。工事地点は、特別支援学校校舎周辺ならびに附属中学校



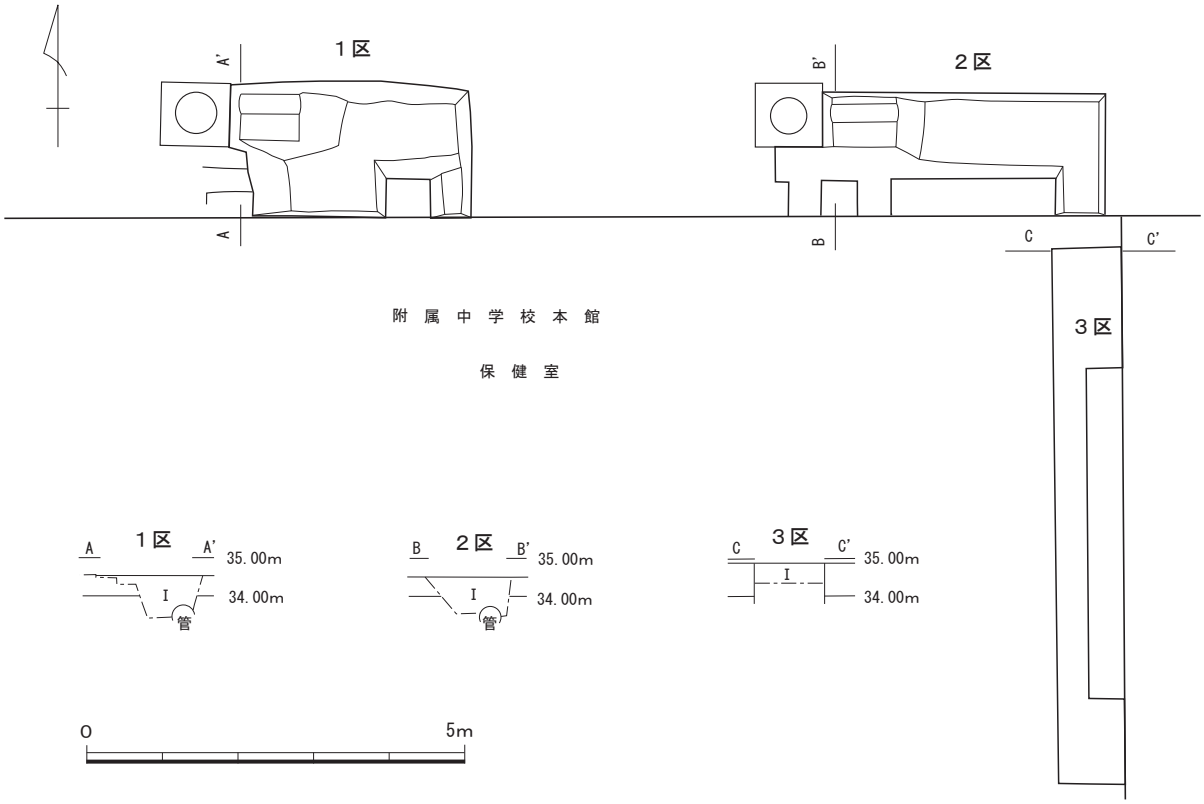


図９　01205調査（持田遺跡５次）調査地点位置図（縮尺1/1,000）および１～３区調査区平面図・土層図（縮尺1/100）

写真132　01205調査　１・２区全景（西から）

写真133　01205調査　１区全景（東から）

写真134　01205調査　１区西端部の状況（南東から）

写真135　01205調査　２区全景（西から）

写真136　01205調査　２区西端部の状況（南から）

写真137　01205調査　２区全景（北西から）

写真138　01205調査　３区北部（南から）

写真139　01205調査　３区南部（北西から）

写真140　01205調査　音楽室A地点工事立会（南から）

写真141　01205調査　音楽室A地点工事立会（北から）

写真142　01205調査　音楽室A地点工事立会（北から）

写真143　01205調査　音楽室B地点工事立会（南から）

写真144　01205調査　音楽室B地点工事立会（北から）

写真145　01205調査　音楽室C地点工事立会（南から）

写真146　01205調査　特別支援学校D地点工事立会（西から）

写真147　01205調査　特別支援学校D地点工事立会（北西から）

写真148　01205調査　特別支援学校F地点工事立会（南東から）

写真150　01205調査　特別支援学校E地点工事立会（西から）

写真149　01205調査　特別支援学校F地点工事立会南壁土層（北から）

写真151　01205調査　特別支援学校E地点工事立会東壁土層（西から）

写真152　01205調査　特別支援学校E地点工事立会東壁土層（西から）

周辺である。工事地点周辺における既往の調査成果を基に、調査室と施設基盤部との間で協議を行い、2012年８月10日付で土木工事届けを提出した。それに対して、８月22日付で愛媛県教育委員会より、附属中学校保健室周辺における３地点で発掘調査が必要であるとの指示があった。そこで８月31日付で発掘調査届けを提出し、愛媛県教育委員会より９月10日付で受理の通知があった。これら所要の手続きを経た上で、学内関係部局と調整を行い、10月22日に発掘調査を実施することとした。

発掘調査の他に附属中学校音楽室周辺（９月26日、10月２日）、附属特別支援学校周辺（12月10日）にて工事立会を実施しており、あわせて報告を行う。

２　調査の概要

（１）発掘調査

発掘調査地点は、附属中学校保健室の北西部、北東部、保健室東部の３地点であり、順に１区、２区、３区とした（図９・写真132～139）。

①１区（写真132～134）

１区は保健室の北西部に位置する。重機を用いて現地表下55cmまで掘り下げを行った結果、持田団地基本層序Ⅰ層にあたる瓦礫を伴った表土層が続いていることを確認した。調査区北側で東西方向に伸びる汚水管路を確認していることから、１区は既往の汚水管路掘削時の掘り返し部分ならびに附属中学校校舎建設時の余掘り部分にあたると考えられる。

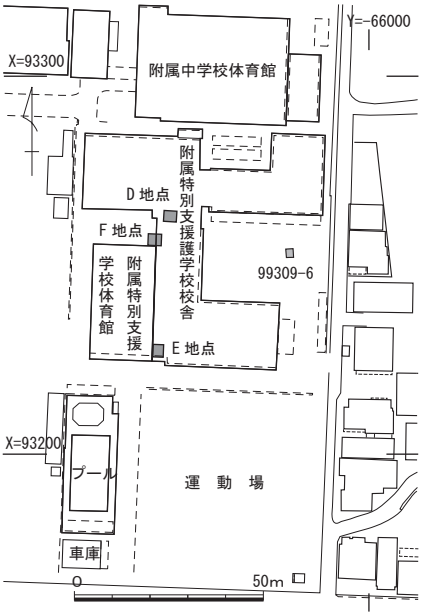


図10　01205調査（持田遺跡５次）附属特別支援学校周辺工事立会地点位置図（縮尺1/2,000）

②２区（写真132・135～137）

２区は保健室の北東部に位置する。重機を用いて現地表下50cmまで掘り下げを行い、持田団地基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した。１区と同様に、既往の汚水管路掘削時の掘り返し部分ならびに附属中学校校舎建設時の余掘り部分にあたると考えられる。

③３区（写真138・139）

３区は保健室内東部に位置する。工事の内容は、保健室床面から深さ45cmまでの掘り下げである。人力で掘り下げを行った結果、掘削停止面は旧地表面まで到達しておらず、埋蔵文化財へ影響がないと判断できた。そこで埋蔵文化財の保護のため、それ以上の掘り下げを行わないこととして、調査を終了した。

（２）工事立会

①附属中学校音楽室周辺

附属中学校音楽室の北東部（A地点）、北西部（B地点）、南東部（C地点）の３地点で工事立会を行った（図９）。

A地点（写真140～142）、B地点（写真143・144）、C地点（写真145）の３地点とも瓦礫を伴った表土層内における掘削工事であり、埋蔵文化財へ影響がないことを確認した。

②附属特別支援学校周辺

附属特別支援学校周辺では、体育館北東部の調理室北西部（D地点）、体育館北東部（E地点）、体育館南東部（F地点）の３地点で工事立会を実施した（図10）。

D地点では現地表下2.2mまで掘り下げを行ったが、瓦礫を伴った表土層が続いていることを確認した（写真146・147）。

E地点では現地表下約1.95mまで掘り下げを行った。現地表下0.85mまで表土層が続き、直下で水田層であるⅡ層を検出した。土層観察では、水田に伴う畦畔などはすでに削平されており、検出できなかった。また出土遺物がなく水田層の時期も不明である。水田層の直下では円礫を多数含んだ砂礫層を検出した（写真150～152）。

F地点では現地表下約２mまで掘り下げを行ったが、瓦礫を伴った表土層が続いていることを確認した（写真148・149）。

３　まとめ

今回の発掘調査地点の内、３区では掘削停止面は旧地表面まで到達しておらず、埋蔵文化財へ影響がない

と判断できたことから、以下については、現地保存することとした。３区以外は、既存の掘り返し部分にあたり、明確な遺跡の確認には至らなかった。しかし、持田団地内には、団地北側を中心地として古代の自然河川および古代～近世の水田などが広がっており、今後も持田団地内における諸工事に際しては、発掘調査や工事立会を行い、持田遺跡の保護に努めなければならない。（三吉）

01206　（持田団地）附属中学校プール更衣室新営その他工事に伴う発掘調査（持田遺跡６次調査）

調 査 地 点：松山市持田一丁目５番22号
持田団地内
調 査 略 号：MCD-6
調 査 面 積：195.1㎡
調 査 期 間：2012年11月12日～2012年11月26日
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：田中いづみ
依 頼 文 書：施設基盤部長発事務連絡
（平成24年７月30日付）

１　調査に至る経緯

平成24年７月30日付の施設基盤部長発事務連絡で、持田団地にある附属中学校更衣室を取り壊し、新営する工事について報告があった。調査に関する協議を進め、３月26日に開催された平成23年度第２回埋蔵文化財調査委員会に発掘計画を諮り、了承を得た。その後、土木工事届けに添付する意見書を作成し、平成24年7月31日に提出した。８月27日付で愛媛県教育委員会から「周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等について（指示）」があり、８月31日に発掘調査届けを提出した。一方、８月1日、施設基盤部より発掘計画立案の依頼があり、調査範囲、面積などを調整し、11月12日から発掘調査に着手した。

２　調査の経過

11月12日、器材搬入及び重機による表土剥ぎ作業を調査区の北側から始める（写真153）。調査区の大半は、旧更衣室の建設時に、後述するⅣ層中位まで削平されていた。一方で、調査区北壁面では、団地造成以前の水田層（Ⅱ層）下で畠層と考えられる土層（Ⅳ層）を確認できた。しかし、調査できる範囲をほとんど確保できないため、調査は断面だけで行うこととした。14日には、遺構検出作業を行い、調査区北半部で東西方向にのびる溝（SD-1）を検出した。SD-1の周辺では牛の足跡が確認できた。15日、SD-1の精査を始める。16日、SD-1を完掘し、SD-1南側の足跡の検出状況を写真撮影。19日、調査区北半部の西壁沿いに設定した深掘りトレンチの土層断面、調査区北壁の畠層土層断面、SD-1土層断面の写真撮影を行う。20日、調査区北壁の畠跡耕作土を含む土層断面図を作成し、遠沈管を利用した粒径観察試料を採取する。また、調査区南半部に設定した深掘りトレンチの土層断面の写真撮影。調査区全体図の作成作業を始める。21日、調査区全体図、深掘りトレンチの土層断面図を作成した後、完掘状況の写真撮影行う。11月27日、調査区北壁で堆積相解析の土柱試料の採取、足跡の石膏レプリカを採り上げ、調査を完了した。

３　層序と出土遺構・遺物の概要

調査地点は持田団地北西端に位置し、附属中学校プール西側の旧更衣室部分に当たる（図11）。調査区の大半は現地表下70～100㎝まですでに破壊され、調査区北壁面と西壁面、調査区西壁沿いに設定した２ヶ所の深掘りトレンチでⅠ～Ⅴ層を確認できた（図13･15）。

Ⅰ層：表土造成土層。

Ⅱ層：灰オリーブ色の細礫や極粗砂が混じる中砂～細砂質シルト層である。下底部に帯状に鉄、マンガンが沈着し、明黄褐色を呈することから、団地造成前の水田の耕作土層と考える。

Ⅲ層：黄灰色シルト混じり中細～細砂層。下層のⅣ層との層界は起伏のある明瞭な層理面をなす。起伏の凹部には径２～３㎜の細礫や極粗砂がみられ、全体として上方細粒化を示す。洪水による自然堆積層と考える。

Ⅳ層：暗灰黄色～灰色の中砂～細砂質土を主体とするシルト混じり砂層で、部分的にシルトが多く混じる砂質シルトに変化する。Ⅲ層の洪水層に覆われた畠耕作土層である。調査区北半

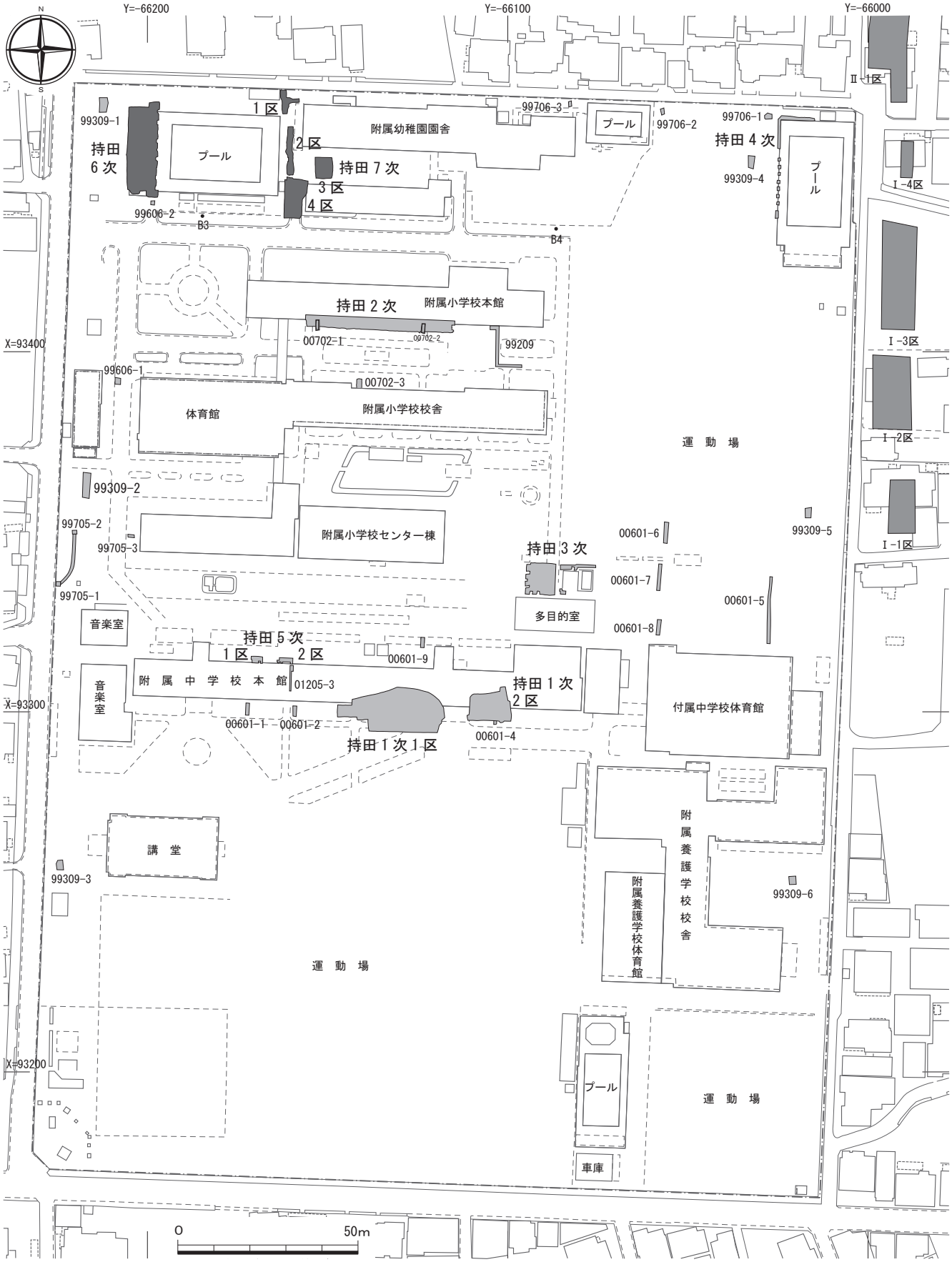


図11　01206調査（持田遺跡６次）・01207調査（持田遺跡７次）調査区配置図（縮尺1/1,500）

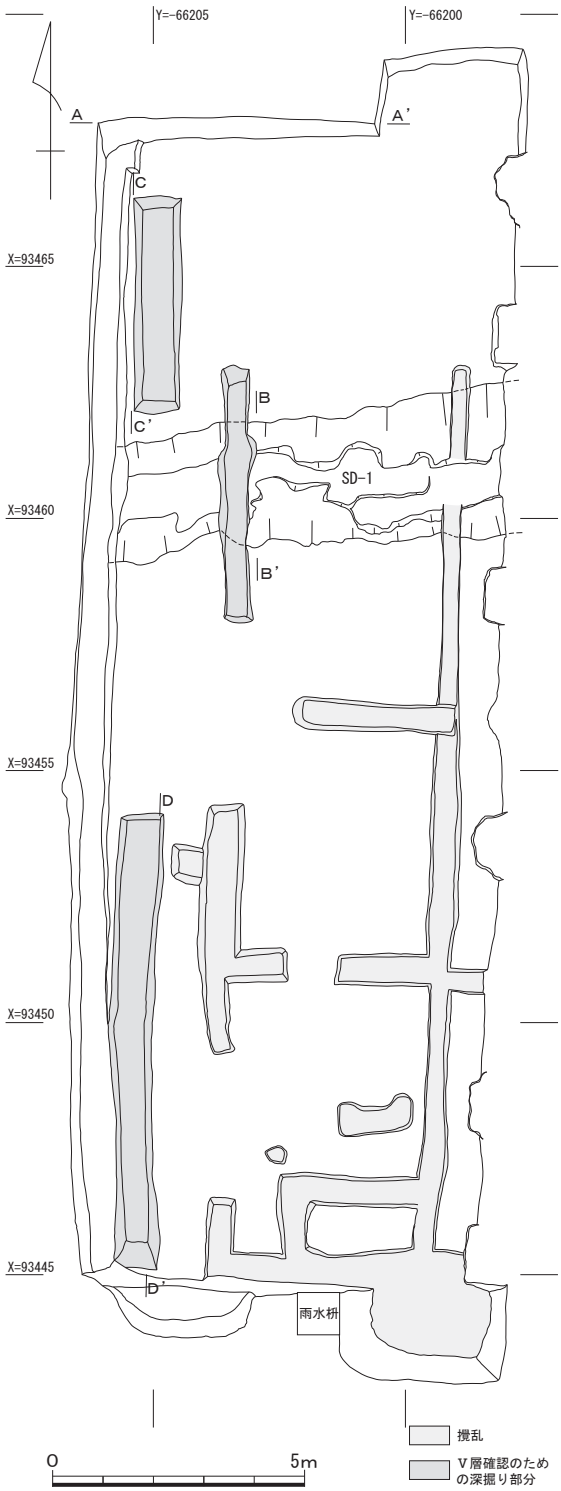


図12　01206調査（持田遺跡６次）調査全体図（縮尺1/150）

～中央部ではⅣ層下部が残るが、南端付近ではほとんど残存していない。調査区北半部で溝1条（SD-1）、その周辺で人間や牛の足跡を検出した。SD-1からは古代～中世の土師器、黒色土器、瓦器が出土している。また、調査区北壁面では、Ⅳ層内で畠の畝と考えられる高まり列を確認できた。

Ⅴ層：今回の工事による掘削深度はⅣ層内に収まるが、調査区西壁沿いに２ヶ所の深掘りトレンチを設け、Ⅴ層の堆積状況を観察した。上部から、粗砂～中砂のⅤ-1層、細礫～細礫に拳大～人頭大の亜円礫が混じる砂礫のⅤ-2層から構成される。

４　調査の記録

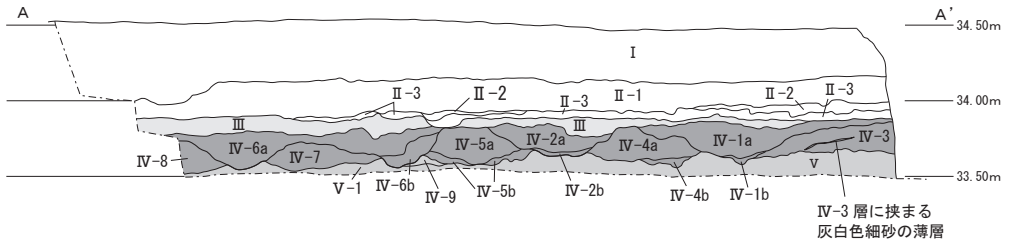
旧更衣室建物の瓦礫を除去した後、Ⅳ層下部で溝1条と足跡、調査区北壁面で畠跡が出土した。

（１）SD-1

調査区北半部で出土したほぼ東西方向にのびる溝で、Ⅳ層を掘り込んでいる（写真154～156）。溝幅85～110cm、掘り形を検出できたⅣ層下部からの深さは30cm前後を測る。横断面形は舟底状で、埋土はオリーブ灰色～灰白色や灰色の砂礫層で、ラミナが発達する。細砂～中砂の①層と、細礫や極粗砂からなる砂礫の②層と、極粗砂が主体とする砂礫の③層が互層堆積しており、SD-1は一気に埋積されたと判断できる（図13、写真161）。６次調査区から東へ36mほど離れた７次調査２区で、SD-1の延長線上の位置に溝が出土している。SD-1は、６次調査区北壁で確認できた畠跡や、７次調査２・３区で出土している水田跡に伴う幹線水路である（図21）。

SD-1埋土の砂礫の中からは、土師器皿・埦・坏、黒色土器埦、瓦器埦の破片が出土している（図14-1～14、表５）。１は土師器皿の破片である。内外面ともに回転横ナデ調整で仕上げられる。２～５は土師器埦の口縁部破片である。中でも４・５は、器壁が薄く、口縁部がわずかに膨らみ、灰白色を呈する。樽味遺跡２次調査で設定したⅡ群土器の範疇で捉えることができる。６・７は土師器坏で、体部は回転横ナデ調整が施されるが、外底面の切り離し方法は器表面が荒れて不明である。８は円盤高台をもつ土師器埦である。９～11は輪高台がつく土師器埦で、断面台形の高台部が「ハ」字形にひろがる。12は体部がほぼ直線的にひろがり、体部中位の反転はほとんど目立たない。13は両黒土器埦で、高台は「ハ」字形にひろがり、回転横ナデ調整によって端部が小さく反る。14は瓦器埦で、見込みが広く、高台は小さな台形を呈する。

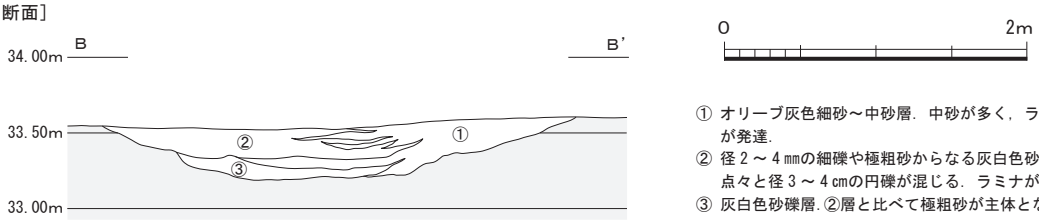
［調査区北壁土層断面］



Ⅰ：表土造成土層.
Ⅱ-1：暗オリーブ色中砂～細砂質シルト層．径２～４㎜の細礫，極粗砂が混じる.
Ⅱ-2：灰オリーブ色粗砂混じり中砂～細砂層．Ⅱ-3 に近いが，マンガンの沈着はみられない.
Ⅱ-3：明黄褐色粗砂混じり中砂～細砂層．Ⅲ層がⅡ層の影響をうけてマンガンが沈着した部分.
Ⅲ：黄灰色シルト混じり中細～細砂層．凹部では径２～３㎜の細礫や極粗砂が下部に混じる．自然堆積層.

Ⅳ：畠耕作土層.
Ⅳ-1：暗灰黄色中砂～細砂質土層．Ⅳ-1b 層は極粗砂とシルトが混じる.
Ⅳ-2：暗灰黄色シルト混じり細砂層．Ⅳ-2a 層はⅣ-1a に近似し，Ⅳ-2b 層は極粗砂が多くなる.
Ⅳ-3：灰色中砂～細砂土層．極粗砂とシルトが混じる.
Ⅳ-4：Ⅳ-3 と共通する灰色中砂～細砂土層．Ⅳ-4b はシルトが多くなる.
Ⅳ-5：灰色中砂～細砂土層．Ⅳ-5b 層は粒子は粗くなるが，シルトが多くなる.
Ⅳ-6：暗灰黄色シルト混じり細砂層．Ⅳ-6a 層はⅣ-2a と近似し，凹部の下部は粗砂が多くなる。Ⅳ-6b は砂が多く混じる.

［SD-1 土層断面］



① オリーブ灰色細砂～中砂層．中砂が多く，ラミナが発達.
② 径２～４㎜の細礫や極粗砂からなる灰白色砂礫層．点々と径３～４㎝の円礫が混じる．ラミナが発達.
③ 灰白色砂礫層．②層と比べて極粗砂が主体となる.

図13　01206調査（持田遺跡６次）調査区北壁およびSD-１土層断面図（縮尺1/50）

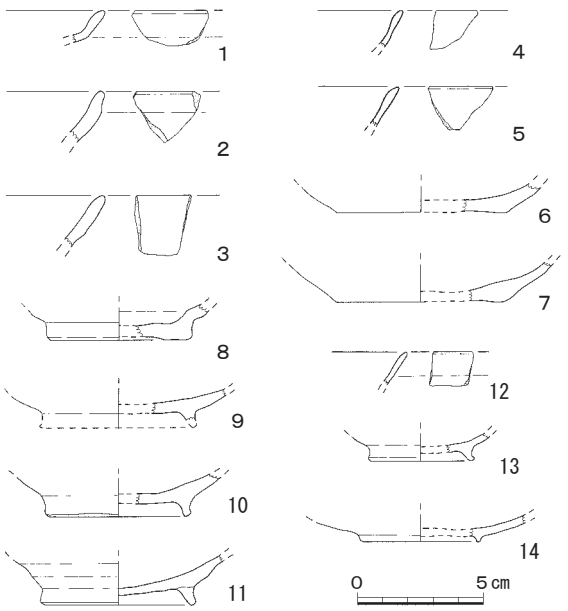


図14　01206調査（持田遺跡6次）SD-1出土遺物実測図（縮尺1/3）

８は11世紀代、９～13は12世紀代の土師器や両黒土器であるが、樽味遺跡２次調査のⅡ群土器の４・５の土師器埦は、14世紀後半～15世紀に比定できる。出土遺物に瓦器埦がみられることも含めて、SD-1の埋没時期は14世紀後半～15世紀と捉えることができる。

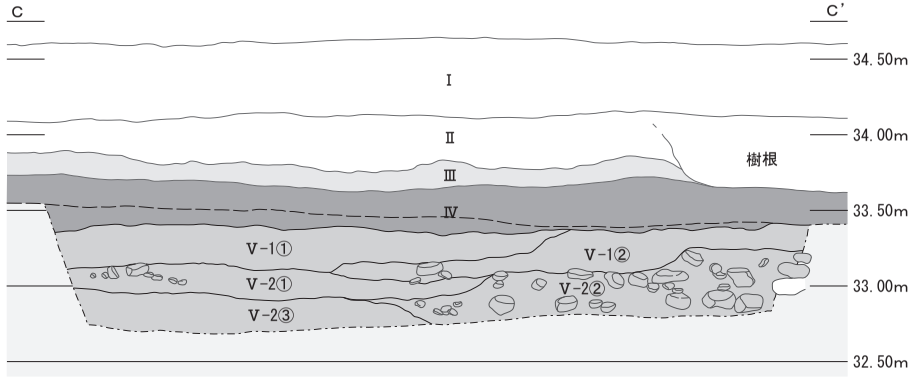
（２）足跡

SD-1の南側で、Ⅲ層で埋まる小さな窪みを多数確認した(写真154～156)。人間の足跡と考えられる窪みもあるが、大半は牛の足跡である（写真158・159)。調査区のほぼ中央に足跡が集中する部分があり、SD-1から1.3～2.2mの帯状の範囲（写真157）と、若干距離を置いてSD-1南側の2.8～4.2mの帯状の範囲にも足跡が集中し、全体として「コ」字形につながる（写真160)。北側のSD-1から1.3～2.2mの帯状の範囲では東西方向に牛の足跡が直線的に並ぶ。何度も踏み込まれており、耕作域を周回する牛の動きを推定できる。

（３）畠跡

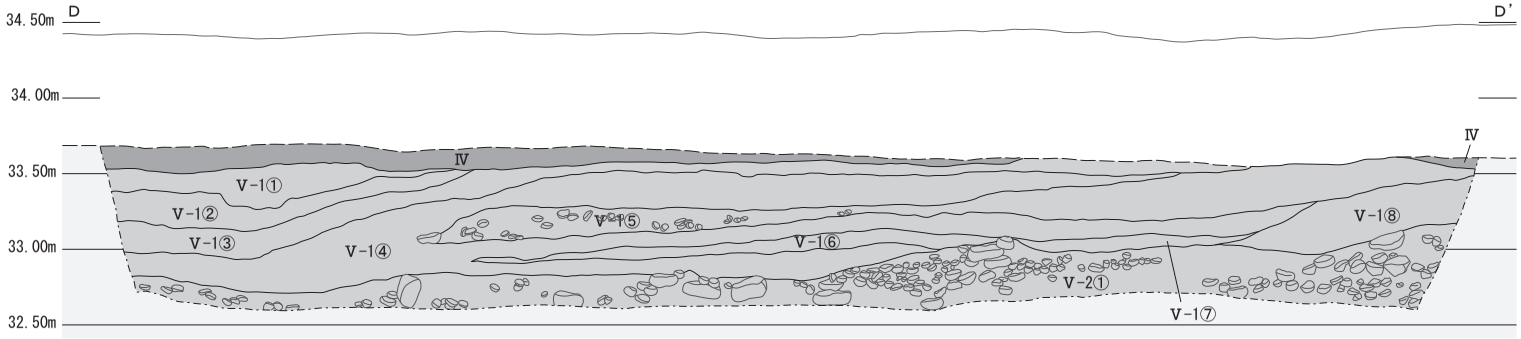
調査区北壁では、Ⅳ層中で畠の畝と考えられる高まり列を確認できた。残念ながら、平面的な調査はできなかった（図13、写真162)。

［調査区北半部深掘り部分土層断面］



Ⅰ：表土造成土層.
Ⅱ：暗オリーブ色中砂～細砂質シルト層．径２～４㎜の細礫，極粗砂が混じる.
Ⅲ：黄灰色シルト混じり中細～細砂層．凹部では径２～３㎜の細礫や極粗砂が下部に混じる．自然堆積層.
Ⅳ：耕作土層．暗灰黄色中砂～細砂質土を主体とする．上半部はすでに作成され下部の一部しか残存していない.
Ⅴ-1①：Ⅳ層の影響で鉄分沈着し赤褐色を呈する粗砂～中砂層.
Ⅴ-1②：明赤灰色砂層．極粗砂～粗砂を主体とし、径２～４㎜の細礫が多く混じる.
Ⅴ-2①：径２～３㎜の細礫～極粗砂からなる明赤灰色砂礫．拳大～径５㎝ほどの亜円礫が混じる.
Ⅴ-2②：明赤灰色砂礫層．拳大～径20×10㎝ぐらいまでの亜円礫の中に，径２～３㎜の細礫～極粗砂が詰まる.
Ⅴ-2③：灰白色砂礫層．径２～４㎜の細礫～極粗砂の中に点々と径３～５㎝の礫が混じる.

［調査区北半部深掘り部分土層断面］



Ⅳ：耕作土層．オリーブ黄色のシルト混じり中砂～細砂の砂質土層．上半部は削平されていた.
Ⅴ-1①：極オリーブ黄色粗砂混じりシルト質砂層．下半部にはマンガンがうすく沈着して、黄褐色に変化.
Ⅴ-1②：オリーブ黄色シルト質砂層．径２㎜前後の細礫や極粗砂が混じる.
Ⅴ-1③：粗砂混じり中砂～細砂層．北側は橙色，南側は灰白色に変化.
Ⅴ-1④：マンガンが沈着して橙色を呈する中砂～細砂層．部分的に褐灰色極細砂のラミナが北に向かってのびる。南側にはシルトが混じり，灰褐色砂に変化.
Ⅴ-1⑤：径褐灰色砂礫層．５㎝前後の亜円礫の間に、径２～３㎜の細礫や極粗砂が混じる.
Ⅴ-1⑥：径２～４㎜の細礫が混じる極粗砂～粗砂主体の砂礫層.
Ⅴ-1⑦：オリーブ黄色のシルト混じり中砂～細砂層.
Ⅴ-1⑧：灰白色砂礫層．径２～３㎜の細礫や極粗砂が混じる.
Ⅴ-2①：灰白色砂礫層．人頭大～拳大の亜円礫が多くみられる.

図15　01206調査（持田遺跡６次）深掘り部分土層断面図（縮尺1/50）

写真153　01206調査　表土剥ぎ作業風景（北西から）

写真154　01206調査　調査区全景（完掘後、北から）

写真155　01206調査　SD-１および足跡検出状況（西から）

写真156　01206調査　SD-１および足跡検出状況（南東から）

写真157　01206調査　足跡検出状況（東から）

写真158　01206調査　足跡調査風景（南西から）

写真159　01206調査　足跡完掘状況

写真160　01206調査　SD-1および足跡完掘状況（南東から）

写真161　01206調査　SD-１土層断面（西から）

写真162　01206調査　調査区北壁土層断面（南から）

写真163　01206調査　調査区北壁土層断面（畝間溝部分、南から）

写真164　01206調査　調査区北壁土層断面（畝部分、南から）

写真165　01206調査　南西部深掘り部分土層断面（北西から）

Ⅳ-1層は暗灰黄色の中砂～細砂質土層で、Ⅳ-1b層は極粗砂とシルトが混じる。Ⅳ-2層は暗灰黄色のシルト混じり細砂で、Ⅳ-2a層はⅣ-1aに近似し、Ⅳ-2b層は極粗砂が多くなる。Ⅳ-3層は灰色の中砂～細砂土層で、極粗砂とシルトが混じる。中位には灰白色細砂の薄層が西に向かって落ち込む。Ⅳ-4層はⅣ-3層と共通する灰色の中砂～細砂土で、Ⅳ-4b層はシルトが多い。　Ⅳ-5層は灰色の中砂～細砂土層で、Ⅳ-5b層は粒子が粗くなるが，シルトが多い。Ⅳ-6層は暗灰黄色のシルト混じり細砂で、Ⅳ-6a層はⅣ-2aと近似し，凹部の下部は粗砂が多くなる。Ⅳ-6b層は砂が多い。

この中で、Ⅳ-3・4a・5a・7・8層の高まりを畝、Ⅳ-3・4間の凹部に溜まるⅣ-1b層（写真163）、Ⅳ-4・5間のⅣ-2b層を畝間の溝底に堆積する機能時堆積層と考えた。また、Ⅳ-4a層下のⅣ-4b層（写真164）とⅣ-5a層下のⅣ-5b層はシルトが多く、Ⅳ-3・4a・5a・7・8層の畝だてに先行する畝間溝内の機能時堆積層である。そう考えることで、Ⅳ-3層中位の灰白色細砂の薄層も理解できる。

（4）Ⅴ層の調査

調査区西壁沿いに、SD-1を挟み南北２ヶ所に深掘りトレンチを設定し、Ⅴ層の堆積状況を観察した（図15、写真165）。下部のⅤ-2層は、拳大～人頭大の亜円礫が混じる砂礫層で、南側の先行トレンチでは北に向かって緩やかに落ち込み、SD-1下で一旦盛り上がる。Ⅴ-2層がつくる高まりは、石手川の旧河道内に形成された中州と考えられる。上部のⅤ-1層は、Ⅴ-2層が造る谷状の凹部を埋積する細礫が混じる砂層で、全体に上方細粒化を示す。Ⅴ-1層上部はⅣ層の耕作の影響を受け、マンガンが帯状に沈着する。Ⅴ層からの出土遺物はない。

5　調査のまとめ

持田団地北西部では、これまで小規模な調査が行われてきたが、調査面積が狭く遺跡の実態は不明確であった。しかし、今回の調査では、14世紀後半～15世紀に埋没する幹線水路と、これに伴う畠跡を確認することができた。本書で報告する持田遺跡７次調査の調査成果とあわせ、周辺の土地環境の変遷とその利用形を明らかにできるデータを得ることができた。７次調査の報告でまとめを行いたい。　（田崎）

表５　01206調査（持田遺跡6次）出土遺物観察表

挿図		出土遺構		出土状況	遺物の観察				遺物登録番号	採り上げ番号	遺物実測図№	収納コンテナ
図	№	種別	番号		種別	器種	器面調整・焼成等	色調･赤彩･付着物など				
14	1	SD	1	西部南壁面沿い	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデ。	明褐色。	113	R-20	1	1
14	2	SD	1	東部北壁沿い	土師器	埦	内外面ともに回転横ナデ。	浅黄色。	110	R-16	1	1
14	3	SD	1	西部埋土最上面	土師器	埦	外面は回転横ナデ、内面は丁寧なナデ調整。	灰白色。	109	R-3	1	1
14	4	SD	1	東端部埋土最上面	土師器	埦	内外面ともに回転横ナデ。	灰白色	112	R-14	1	1
14	5	SD	1	東部埋土下位	土師器	埦	内外面ともに回転横ナデ。	灰白色	111	R-12	1	1
14	6	SD	1	東部埋土中位上半	土師器	坏	体部の内外面は回転横ナデ。外底面は荒れが進み、切り離し法は不明。	浅黄色。	104	R-9	1	1
14	7	SD	1	たち割り深掘り部分	土師器	坏	内外面のも器面が荒れ、調整不明。	橙色。	105	R-15	1	1
14	8	SD	1	東部埋土最上面	土師器	埦	内外面ともに回転横ナデ。	明褐色	103	R-2	1	1
14	9	SD	1	西部埋土最上面	土師器	埦	体部外面～外底面は回転横ナデ、内面はナデ調整か？	浅黄色。	108	R-3	1	1
14	10	SD	1	中央部壁面沿い	土師器	埦	内外面主に回転横ナデ調整。	浅黄色。	101	R-21	1	1
14	11	SD	1	東部北壁沿い	土師器	埦	体外面には回転横ナデを施し、轆轤目が残る。内面は不定方向の丁寧なナデ調整。	浅黄色。	102	R-16	1	1
14	12	SD	1	東端部埋土最上面	黒色土器	埦	両黒土器。内外面ともに回転横ナデ。R-106と同一個体の可能性がある。	胎は浅黄色。	114	R-14	1	1
14	13	SD	1	東部埋土中位下半	黒色土器	埦	両黒土器。外面は回転横ナデ。内面は不定方向のミガキ調整に近い丁寧なナデ仕上げ。	胎は浅黄色。	106	R-13	1	1
14	14	SD	1	東端部埋土最上面	瓦器	埦	高台部周辺は回転横ナデ、内面は暗文風のミガキ調整。	灰色	107	R-14	1	1

01207　（持田団地）附属幼稚園園舎新営その他工事に伴う発掘調査
（持田遺跡７次調査）

調 査 地 点：松山市持田一丁目860番の一部
　　持田団地内
調 査 略 号：MCD-７
調 査 面 積：122.6㎡
調 査 期 間：2012年11月27日～2012年12月13日
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：田中いづみ
依 頼 文 書：施設基盤部長発事務連絡
　　（平成24年10月１日付）

１　調査に至る経緯

平成24年３月、施設基盤部と次年度に構内各所で行われる諸工事について協議する中で、持田団地にある附属幼稚園舎新営工事が計画されていることが報告された。３月26日に開催された平成23年度第２回埋蔵文化財調査委員会では、他の発掘調査ともあわせて発掘計画を諮り、了承を得た。平成24年10月1日、施設基盤部長名で埋蔵文化財への影響判断と必要な調査の依頼があり、土木工事届の提出に向けて埋蔵文化財についての意見書を作成し、10月11日に愛媛県教育委員会に提出した。11月6日、発掘調査届出書を提出し、同じ持田団地にある附属中学校更衣室新営その他工事に伴う持田遺跡６次調査に引き続き、11月27日から発掘調査に着手した。

２　調査の経過

11月27日、重機による表土剥ぎ作業を始めるとともに、発掘予定地内にある樹木１本の移植を行う。28日、１～４区の発掘調査区を設定し、１区から重機による表土剥ぎ作業を始める。29日、１～４区すべてで表土剥ぎ作業を完了。２区では６次調査と同じく、Ⅰ～Ⅴ層の堆積を確認できた。３区では、表土層下面に堆積する洪水砂層のⅢ層上面まで掘り下げ、中央部の撹乱部壁面を清掃し、下層のⅣ層の断面観察を行う。12月３日、測量用の基準点を移動する。２区の北端では６次調査で出土したSD-1の延長部分と考えられる溝の肩部を確認できたので、北側に2.5mほどを拡張することとした。３区では、洪水砂層のⅢ層下面で畦畔を検出し、写真撮影を行う。１区の調査を終わり、写真撮影。１区では表土層であるⅠ層の直下で、２・３区のⅣ層の下層に堆積する砂礫層であるⅤ層があらわれた。４区では壁面の清掃を行い、土層の観察を行う。北端部にもⅣ層が広がるが、洪水砂層のⅢ層はなく、直接Ⅱ層が堆積する。南端部付近では、下層の砂礫層のⅤ層が盛り上がり、Ⅳ層自体がない。Ⅱ層の耕作でⅣ層のほとんどが削平されているものと判断し、西壁沿いに深掘りトレンチを設定し、掘り下げを開始する。４日、測量用杭を設置する。２区ではSD-1を完掘し、写真撮影を行う。３区では洪水砂層のⅢ層を掘り下げる。散満に土師器の破片が出土する。４区では、中央部にも幅２mの深掘りトレンチを設定する。西壁沿いの深掘りトレンチも加え、Ⅴ層の上部からは土器の細片が少量散満に出土するだけである。５日、1・2区の土層断面図を作成。４区中央部の深掘りトレンチでは、Ⅴ層の下部から比較的大形の弥生土器片が出土し始める。そのため南側を拡張する。３区では、水田層のⅣ層直上の洪水砂のⅢ層を掘り下げている。７日、１～４区の平板測量を行うとともに、３区では水田面を完掘し、写真撮影を行う。４区の深掘りトレンチのⅤ層最下部から弥生土器、須恵器の破片が出土しているが、量は少ない。10日、３区の遺構実測図を作成し、写真撮影後、東半部を深掘りする。４区西壁沿いの深掘りトレンチの土層断面図を作成。11日、３区では、調査区東壁の土層断面の写真撮影を行った後に、土層断面図を作成。また、東壁の南よりで堆積相解析のための土柱試料を採取する。その際、Ⅴ層上部の砂層から土師器埦の破片が出土した。12日、器材を埋蔵文化財調査室に撤収。発掘用具洗いを行い、12月13日に今回の調査を完了した。

３　層序と出土遺構・遺物の概要

７次調査区は、持田団地北西角の６次調査区から東へ36～50mの位置にある（図11）。１～４区に分けて調査を進めたが、６次調査区と共通するⅠ～Ⅴ層を確認できた。

Ⅰ層：表土造成土層。

Ⅱ層：径２～５㎜の細礫が多く混じる灰オリーブ色のシルト質砂質土層で、団地造成以前の水田

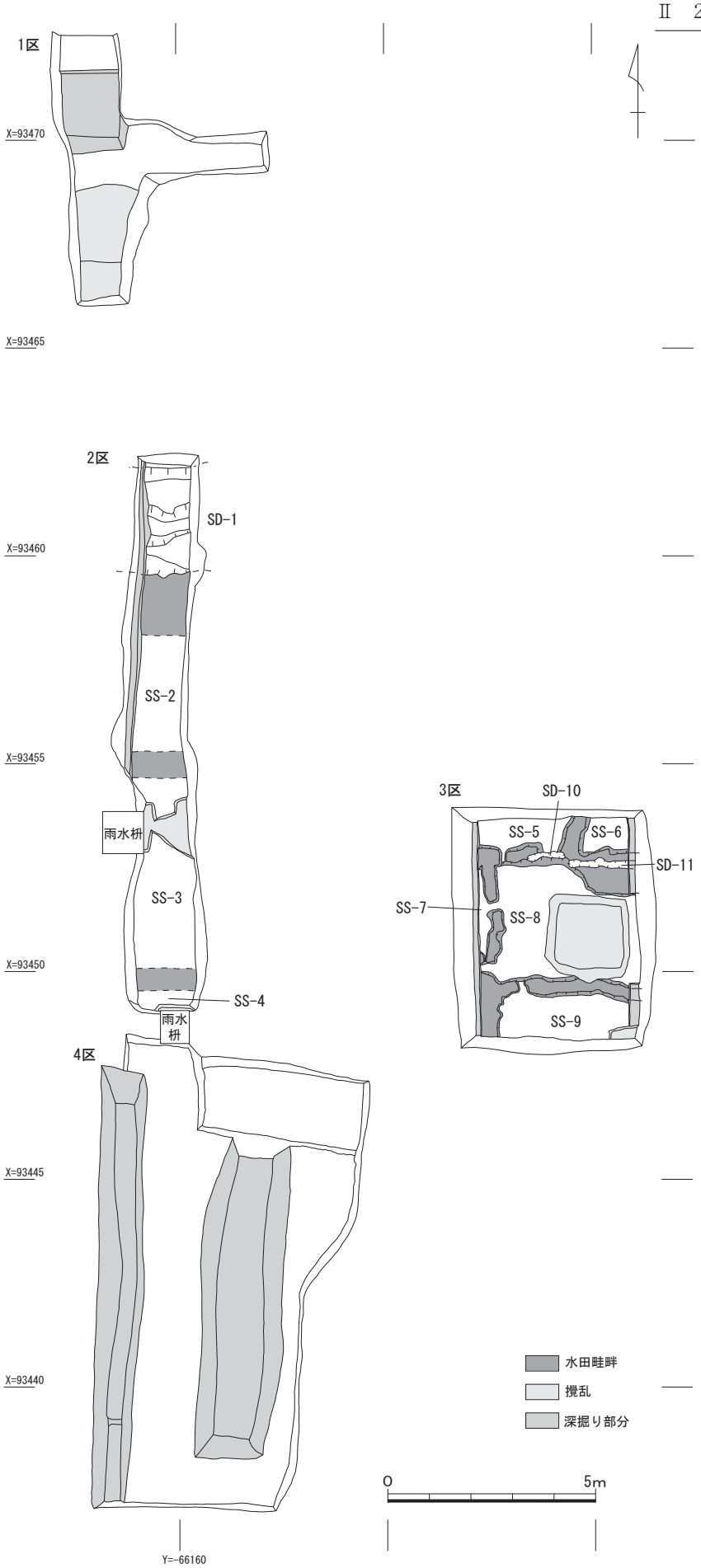
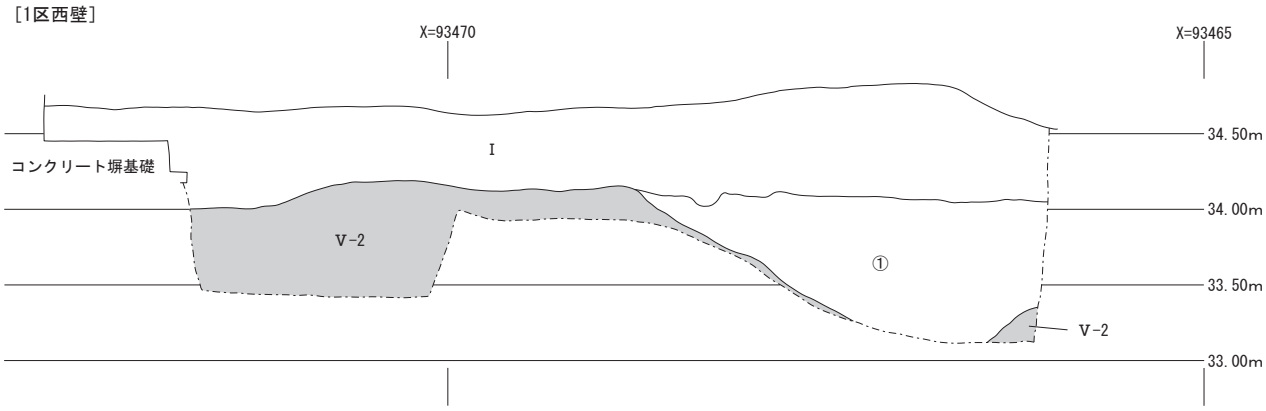
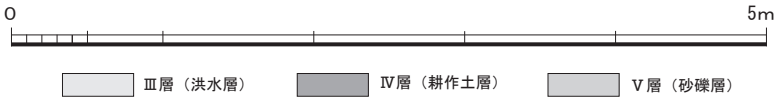
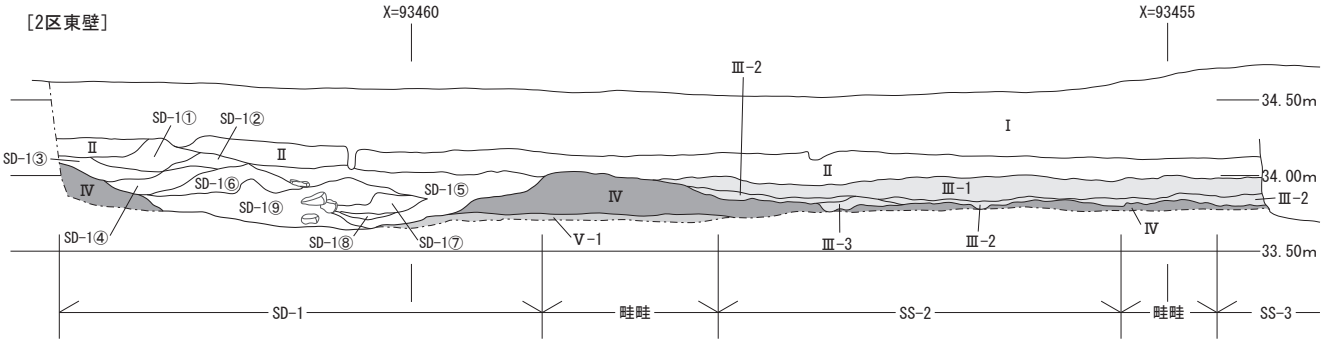


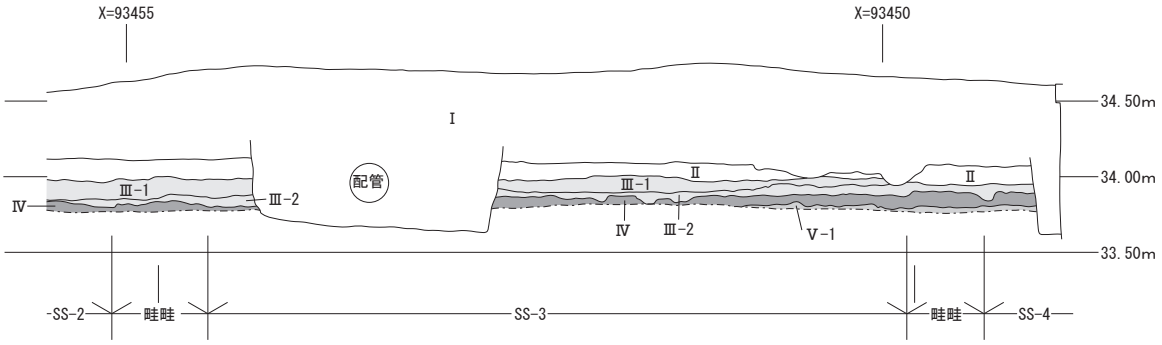
図16　01207調査（持田遺跡７次）調査区全体図（縮尺1/150）



Ⅰ：表土造成土層
Ⅱ：灰オリーブ色．径２～５㎜の細礫が多く混じるシルト質砂質土層．
Ⅴ-2：灰白色砂礫層．径30～20㎜のやや偏平な花南岩を主体とする亜円礫が多く混じる．
①：落ち込み内を埋積する土層はⅡ層と類似し，オリーブ色土とⅡ層の塊が攪拌されたように混じる．



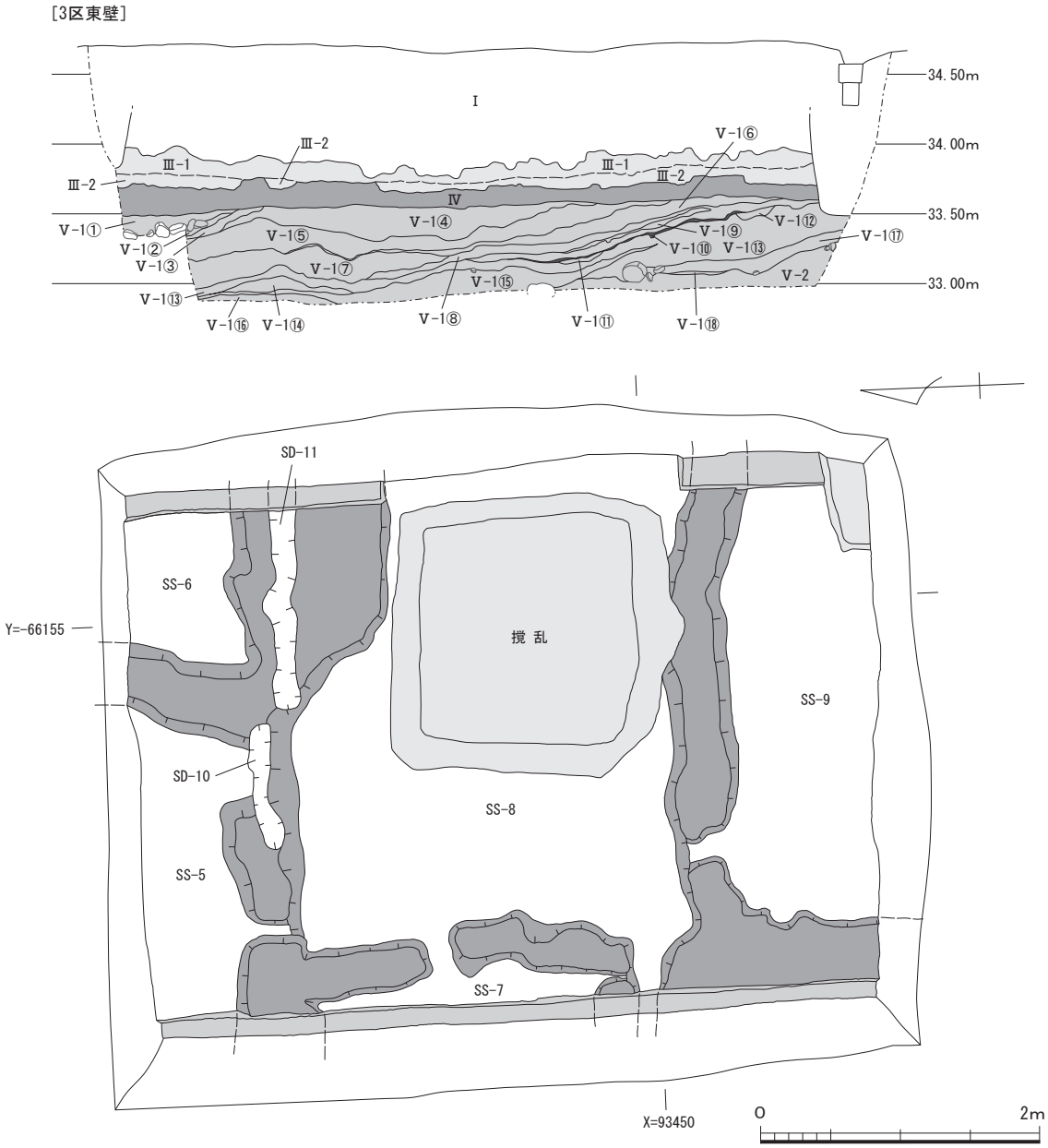




Ⅰ：表土造成土層
Ⅱ：灰オリーブ色．径２～５㎜の細礫が多く混じるシルト質砂質土層．
Ⅲ：洪水砂層．
　Ⅲ-1：灰白色．径２～３㎜の細礫～極粗砂が多く混じる中砂～粗砂を主体とする砂層．
　Ⅲ-2：灰色．径２～３㎜の細礫～極粗砂を主体とする砂礫層．
　Ⅲ-3：灰色．部分的に径４㎜ほどの細礫が多く混じる砂礫層．
Ⅴ-1：灰黄色細砂～中砂層．径２～３㎜の細礫や極粗砂が多く混じる．ラミナが発達．
　　上部の10～15㎝は上層の影響を受けてマンガンが沈着してオレンジ色を呈する．

SD-1 埋土
①：径２～４㎜の細礫と極粗砂を主体とする砂礫層．
②：細礫と極粗砂を主体とする砂礫層．径５㎜前後の細粒中礫が多く混じる．
③：灰オリーブ色．細砂～中砂からなる砂層．極粗砂混じる．ラミナが発達．
④：灰白色．径２～10㎜の細礫～中礫，極粗砂，粗砂からなる砂礫層．
⑤：③と同じ．
⑥：③と同じ．
⑦：③と同じ．
⑧：④と同じ．
⑨：④と同じ．

図17　01207調査（持田遺跡７次）調査１・２区土層断面図（縮尺1/50）



Ⅰ：表土造成土層
Ⅱ：灰オリーブ色．径２～５㎜の細礫が多く混じるシルト質砂質土層．
Ⅲ：灰色．径２～３㎜の細礫～極粗砂を主体とする砂礫層．洪水砂層．
　Ⅲ-1：灰白色．径２～３㎜の細礫～極粗砂が多く混じる中砂～粗砂を主体とする砂層．
　Ⅲ-2：灰色．径２～３㎜の細礫～極粗砂を主体とする砂礫層．
Ⅳ：細砂～中砂がまじる砂質シルト．水田耕作土層．
　Ⅴ-1：細礫混じりの砂層．誘う砂～中砂層．黒褐色シルトまじり細砂のⅣ-1⑩層が見られ，堆積の休止期間があることを観察できる．
　Ⅳ-1①：灰オリーブ色粗砂まじり中砂層．
　　②：灰白色．極粗砂～粗砂を主体として，径５～10㎜の亜円礫が集中する．
　　③：①と同じ．
　　④：にぶい黄橙色．粗砂まじり　中砂～細砂を主体とする砂層．④～⑥にかけて上方粗粒化を示す．
　　⑤：褐灰色．シルトまじり中砂～細砂層．
　　⑥：シルトまじり細砂．北側は部分的にシルトが多くなる．
　Ⅴ-1⑦：明黄褐色中砂層．下部には粗砂が混じり，上方細粒化を示す．
　　⑧：にぶい黄橙色．粗砂混じり中砂～細砂層．下部は灰黄褐色細砂に変化する上方粗粒化を示す．
　　⑨：⑧の中に挟まる灰白色細砂～中砂のラミナ層．
　　⑩：黒褐色シルトまじり細砂の薄層．
　　⑪：褐灰色細砂の薄層．
　　⑫：⑪と同じ．
　　⑬：灰白色．シルト混じり極粗砂～細砂層．ラミナ発達し，南側では上方粗粒化を示す．
　　⑭：灰白色．粗砂～極粗砂からなる砂層．
　　⑮：橙色．粗砂～細砂，シルト～極細砂のラミナが縞状にみられる．
　　⑯：⑭と同じ．
　　⑰：にぶい黄橙色中砂～細砂層．⑰から⑱へと一連の上方細粒化を示す．
　　⑱：灰白色粗砂層．
　Ⅴ-2：褐灰色粗砂を主体とし，以下の下層では拳大から人頭大の円礫が混じる．

図18　01207調査（持田遺跡７次）調査３区平面図および土層断面図（縮尺1/50）

耕作土層である。２区では土師質土器、須恵質土器、近世の瓦の小片が出土した。

Ⅲ層：径２～３㎜の細礫～極粗砂を主体とする灰色の砂礫層で、６次調査のⅢ層と対応する洪水砂層である。Ⅲ層は、細礫が多く混じる上部のⅢ-1層と、極粗砂が主体となる下部のⅢ-2層から構成され、Ⅲ-2層からⅢ-1への変化は漸移的で、全体として上方粗粒化を示す一連の堆積である。また、Ⅲ層とⅣ層の層界はシャープな層理面をなし、小さな凹凸が多く見られる（図17・18、写真173・182・183）。14～15世紀と考えられる土師器埦が出土している。

Ⅳ層：細砂～中砂が混じる砂質シルト層で、淘汰が悪く、上面で畦畔と考えられる高まりを確認でき、水田耕作土層と判断した。４区ではⅣ層下部まで上層のⅡ層の耕作で削平されている。

Ⅴ層：上部の径２～３㎜の細礫や極粗砂が多く混じる灰黄色細砂～中砂のⅤ-1層と、下部の拳大～人頭大の花南岩の亜円礫が多く混じる灰白色～褐灰色の粗砂を主体とするⅤ-2層に区分できる。4区では、Ⅴ-2層の下部に、径２～４㎜の細礫から極粗砂を主体とし拳大の花崗岩の亜円礫が多く混じるⅤ-3層を確認できた（図20）。弥生土器や古墳時代後期の土師器、古代の土師器が出土している。

４　調査の記録

（１）１区の調査

1区は持田団地区を囲むコンクリート塀際に位置する（図16・17、写真166）。Ⅰ・Ⅱ層の直下でⅤ-2層があらわれた（図17、写真167）。調査範囲の南端では、Ⅴ-2層を掘り込んだ遺構を確認できた。しかし、埋土は２区で確認できたⅡ層と類似し，オリーブ色土とⅡ層の塊が攪拌されたように混じる①層で埋積されている（写真168）。近世～近代の陶磁器や土師質土器が出土することからも、攪乱部分と判断した。この他、表土のⅠ層から、近世～近代の陶磁器、人形、須恵質土器などが出土している（図19-1）。１は土師器の小型埦である。口縁部に回転横ナデ調整を施す結果、端面がわずかに窪む。体部外面は篦状工具を用いた回転横ナデ調整を施すため、下半部に稜線が生じている。

（２）２区の調査

２区は、１区の南側の長さ13.3m、幅1.7mの細長い調査区である（図16・17、写真169）。北端部でSD-1が出土し（写真170）、その南側にSS-2～4の水田域がひろがることを確認できた。また、水田面を覆う洪水砂層のⅢ層はⅢ-1～Ⅲ-3層からなる。上部のⅢ-1層と下部のⅢ-2層から構成され、Ⅲ-3層はSS-2北端付近の水田面上にレンズ状に堆積する砂礫層である。Ⅲ-2層からⅢ-1層へ上方粗粒化を示す一連の堆積である。Ⅲ層からは土師質土器や須恵質土器の小片が点々と出土している。

①溝

［SD-1］　２区の北端で幅2.5～2.6mの東西方向にのびる溝が出土した（図16・17、写真171・172）。土層断面を確認したところ、Ⅱ層直下から掘り込まれ、本来の溝幅は推定3.3mと推定される。横断面は舟底形で、深さは40㎝を測る。溝最上部には、径２～４㎜の細礫と極粗砂を主体とする砂礫層の①層と、細礫と極粗砂を主体とする砂礫層の②層が盛り上がる。掘り形内は細砂～中砂からなる灰オリーブ色砂層の③・⑤～⑦層と、径２～10㎜の細礫～中礫・極粗砂・粗砂からなる灰白色砂礫層の④・⑧・⑨層が互層堆積する。③・⑤～⑦層ではラミナの発達が顕著で、SD-1が一気に埋積されたことを示す（写真173・174）。

SD-1からは、土師質土器や須恵質土器、瓦器の破片が出土している。古代～中世の遺物と考えられるが、いずれも小片で、図化できるものはない。SD-1は、６次調査区で出土しているSD-1の東側延長線上にあり、一連の溝と考えられ、14世紀後半～15世紀と捉えることができる。南側に広がる水田域に伴う幹線水路である。

②水田跡

２区では、東西にプールと附属幼稚園舎の建物に挟まれ、表土剥ぎ時に重機の操作が十分できず、結果としてⅣ層上面まで掘り下げてしまった。そのため、水田を区画する畦畔は土層断面での確認にとどまる。また、水田層のⅣ層上面には凹凸があるが、明確なⅣ層の高まり部だけを畦畔として捉えたため、後述する３区のような小区画は確認できていない（図16）。

［SS-2］　２区北半部のSD-1の南側で出土した水田跡である。水田面は南北幅2.7mほどを測る。SD-1との間では幅1.6m、高さ15㎝の畦畔を確認でき、調査区のほぼ中央でSS-3とは幅50～60㎝の畦畔をで区画さ

れている。土層断面では水田面に足跡と考えられる深さ３～４㎝の小さな窪みがみられる。

［SS-3］　２区南半部で確認できた水田跡である。南北幅4.6ｍほどを測る。南側のSS-4とは、幅45㎝ほどの畦畔で区画されている。水田層上面には足跡と考えられる深さ３～５㎝の小さな窪みがみられる。

［SS-4］　２区南端で確認できた水田跡である。南側の４区では、水田層のⅣ層を確認できたが、上部がⅡ層の耕作で削平され、畦畔は確認できず、水田の規模は不明である。

（３）３区の調査

３区は２区南半部から東に5.8ｍほど離れた南北長5.8ｍ、東西幅4.8ｍの調査区である。洪水砂層であるⅢ層の上面で重機による表土剥ぎ作業を止め、Ⅲ層を人力で掘り下げることで、水田跡５面（SS-5～9）と小溝２条（SD-10・11）を検出することができた（図16・18、写真175・176）。Ⅲ層の掘り下げ中に土師器が出土した（写真179）。

①水田跡

［SS-5］　3区北西部で出土した水田跡である。大半は調査区外にのび、東西0.6ｍ以上、東西2.2ｍを確認できたにとどまる。東側のSS-6とは南北方向にのびる幅50～55㎝の畦畔、南側のSS-8とは幅50～55㎝の畦畔で区画され、南側の畦畔には水口が設けられている。水田面上には人間の足跡と考えられるⅢ層で埋まる小さな窪みが点々とみられる（写真176）。

［SS-6］　３区北東部で出土した水田面で、大半は調査区外にひろがり、東西1.2ｍ以上、南北0.75ｍを確認できた。南側のSS-8との間の畦畔は、110㎝と幅が広くなる。水田面上には人間や牛の足跡と考えられるⅢ層で埋まる小さな窪みが数多くみられる（写真176・178）。

［SS-7］　３区中央西端で部分的に確認できた。南北1.9ｍほどの水田跡であるが、大半は調査区外にのびる。北側のSS-5とは幅60㎝、東側のSS-8とは幅40～45㎝の畦畔で区画されている。東側の畦畔のほぼ中央には幅28㎝ほどの水口が切られている。水田面上には人間の足跡と考えられるⅢ層で埋まる小さな窪みが点々とみられる（写真176）。

［SS-8］　３区のほぼ中央で出土した水田面である。南側のSS-9とは幅50㎝前後の畦畔で区画され、東側に幅20㎝前後の水口が設けられている。東側の畦畔は調査区外にあり、南北２～2.6ｍ、東西3.2ｍ以上の水田跡である。水田面上には、人間や牛の足跡と考えられるⅢ層で埋まる小さな窪みが多数みられる（写真176・177・180）。人の足跡と考えられる小さな窪みが東西に並んだように３列確認できた。

［SS-9］　３区南部で出土した水田面である。大半は調査区外にひろがるが、南北１ｍ以上、東西3.2ｍ以上の水田跡である。水田面上では、足跡と考えられる小さな窪みはほとんどみられない（写真176）。

以上の水田面の標高は、SS-5が33.63～33.67ｍ、SS-6が33.68～33.69ｍ、SS-7が33.66～33.67ｍ、SS-8が33.62～33.72ｍ、SS-9が33.68～33.72ｍである。ほぼ平坦な水田面となっているが、相対的にSS-8が最も低く、水口の配置位置もあわせ、SS-8へ周囲の水田面から用水が集まる水配りを推定できる。

水田耕作土のⅣ層からは土師器が出土している（図19-2・3）。２は土師器皿の底部破片である。外底面には回転糸切り離し痕が残る。３は輪高台をもつ土師器埦である。比較的高い長方形の高台がつく。体部下半部には回転横ナデ調整で生じた稜線がめぐる。小片のため、復元径は不確実である。

②小溝

SD-10・11の2条の小溝が出土した（図16・18、写真178）。水田跡SS-5・6とSS-8との間の畦畔を切る。埋土は水田面と同じくⅢ-2層である。溝底が長軸方向に沿って緩やかに起伏することから、犁跡の可能性も考えたが、東西に他の小溝を確認できておらず、確定できない。

［SD-10］　３区北半部のほぼ中央で出土した東西方向にのびる溝である。幅10～16㎝、深さ４～７㎝を測る。溝底は長軸方向に沿って緩やかな起伏をもつ。SS-5・6・8を区画する畦畔を切り、径２～３㎜の細礫～極粗砂を主体とする灰色の砂礫のⅢ-2層で埋積されている。

［SD-11］　３区北東部で出土した東西方向の溝である。幅15～20㎝を測り、溝底は横断面形が舟底状で、中央の小さく屈曲する部分までは深さ７㎝、西側は5㎝と長軸方向に沿って緩やかな起伏がみられる。径２～３㎜の細礫～極粗砂を主体とする灰色の砂礫のⅢ-2層で埋積されている。

③Ⅴ層の調査

３区東半部を深掘りし、Ⅴ層の堆積状況を確認した。他の調査区同様に、Ⅴ-1層とⅤ-2層から構成され

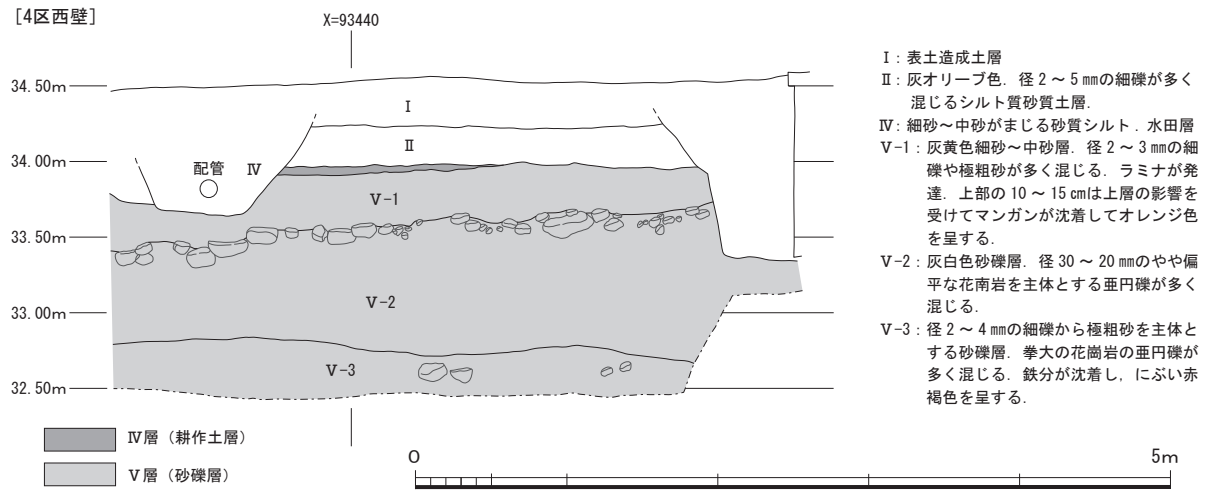


図20　01207調査（持田遺跡７次）調査４区土層断面図（縮尺1/50）

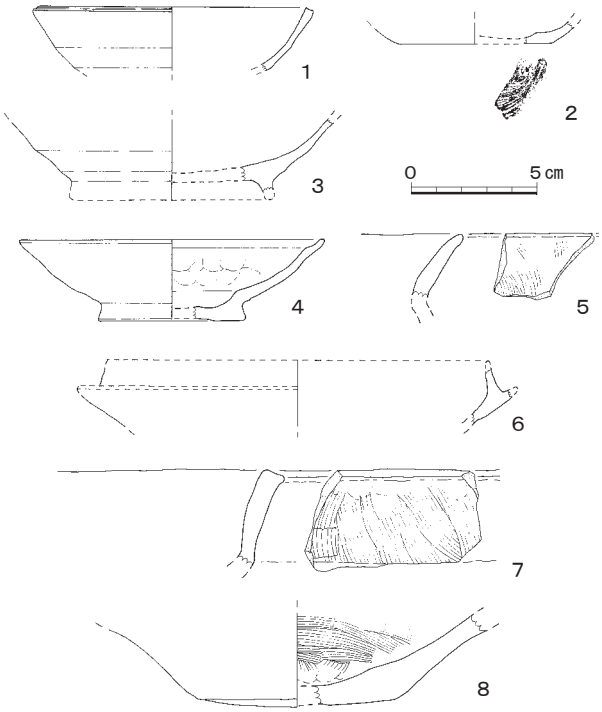


図19　01207調査（持田遺跡-7次）出土遺物実測図（縮尺1/3）

る（図18、写真181）。下層のV-2層が北に向かって落ち込み、その落ち込みをV-1層が埋積している。V-1層は、細礫混じりの砂層で、細砂～中砂を主体とする層群である。黒褐色シルト混じり細砂のⅣ-1⑩層が見られ，堆積の休止期間があることを観察できる。下層のV-2層は、褐灰色の粗砂を主体とし、拳大～人頭大の円礫が混じる。

V-1⑥層と⑧層から古代の土師器の破片が出土し、接合した（図19-4）。４は円盤高台をもつ皿で、口縁部に強い回転横ナデ調整を施し、口縁端部が窪む受け口状に仕上げる。

（４）４区の調査

４区は２区の南側の南北長11m、東西幅６mの調査区である（図16・20、写真184）。Ⅲ層とⅣ層の大半が上層のⅡ層の耕作で削平されていた。調査区西壁沿いと中央部に深掘りトレンチを設定し、V層の堆積状況を確認した。調査区西壁沿いの深掘りトレンチでは、V-1層が薄くみられるが（写真186）、調査区中央の深掘りトレンチではV-1層はみられず、Ⅳ層直下でV-2層があらわれた（写真185）。

４区の深掘りトレンチでは、V-1層から土器の細片が少量散満に出土し、V-2層では比較的大形の弥生土器の破片がみられる。V-3層からも弥生土器、須恵器の破片が出土しているが、量は少ない。その中で、図化できたのはV-2層から出土した須恵器や土師器だけである（図19-5～8）。５は土師器の甕の口縁部破片で、「く」字形に外反する口縁部をもつ。６は須恵器坏身。復元口径は不確実である。５・６ともに古墳時代後期に比定できる。７は口縁部が反転して短く立ち上がる高坏で、弥生時代後期前葉に比定できる。８は壺の凸レンズ底の破片で、弥生時代後期中葉～後葉に比定できる。

（５）工事立会調査

１・２区間の管路部分、附属幼稚園中庭の管路部分、附属小学校グラウンド東側の管路部分については、工事に伴う掘削深度が浅く、工事に立ち会い、埋

写真166　01207調査　１区全景（南から）

写真167　01207調査　１区土層断面（北東から）

写真168　01207調査　１区北半部落ち込み部土層断面（東から）

写真169　01207調査　２区全景（南西から）

写真170　01207調査　２区北端部SD－１および畦畔検出状況
（拡張前、南西から）

写真171　01207調査　２区北端部SD-１南側畦畔土層断面(拡張前、西から)

写真172　01207調査　２区北端部SD-１完掘状況およびSS-２との畦畔断面

写真173　01207調査　２区北端部SD－１および畦畔（拡張後、南西から）

写真174　01207調査　SD－１土層断面（西から）

写真175　01207調査　３区水田検出状況（南から）

写真176　01207調査　３区水田面完掘状況（南から）

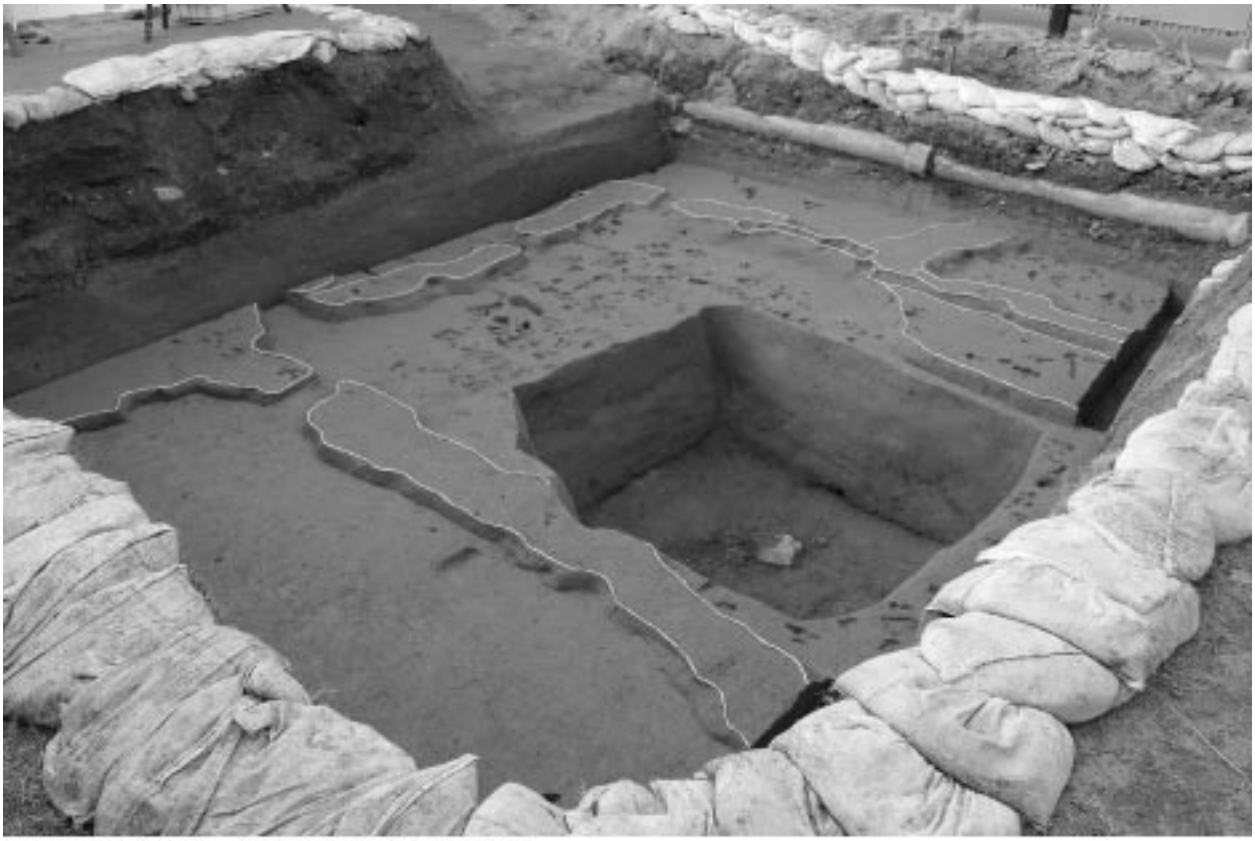


写真177　01207調査　３区水田面完掘状況（南東から）

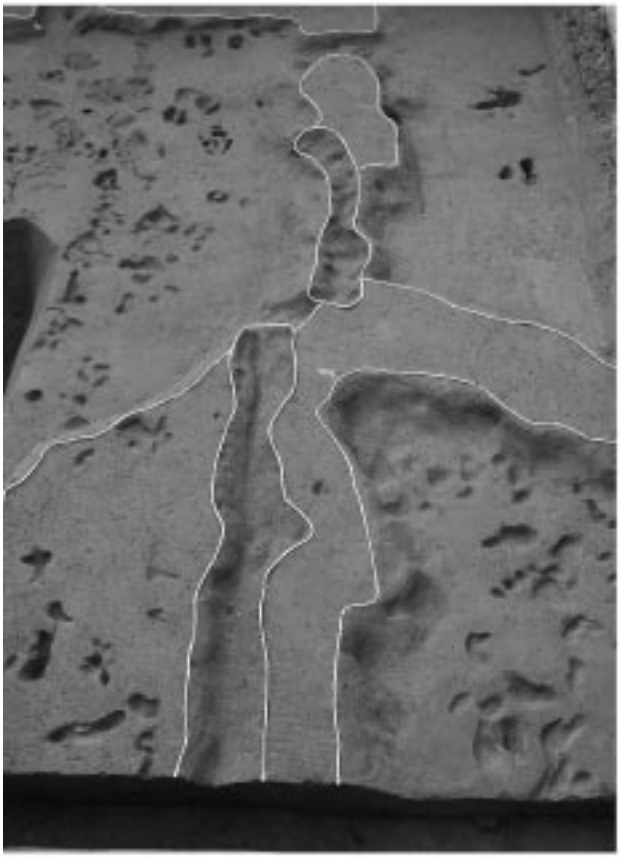


写真178　01207調査　３区水田面を切る小溝（東から）

写真179　01207調査　３区Ⅲ層遺物出土状況

写真180　01207調査　３区水田面に残る牛の足跡

写真181　01207調査　３区東壁土層断面(西から)

写真182　01207調査　３区東壁中央部土層断面(西から)

写真183　01207調査　３区水田層とⅢ層(西から)

写真184　01207調査　４区全景（北西から）

写真185　01207調査　４区中央深掘り部土層断面（北西から）

写真186　01207調査　４区西端部土層断面(北東から)

写真187　01207調査　１・２区間立会調査(北から)

写真188　01207調査　１・２区間立会調査土層断面

写真189　01207調査　中庭立会調査１(東から)

写真190　01207調査　中庭立会調査土層断面

写真191　01207調査　中庭立会調査２（南東から）

写真192　01207調査　グラウンド南側立会調査（南西から）

写真193　01207調査　グラウンド南側立会調査土層断面

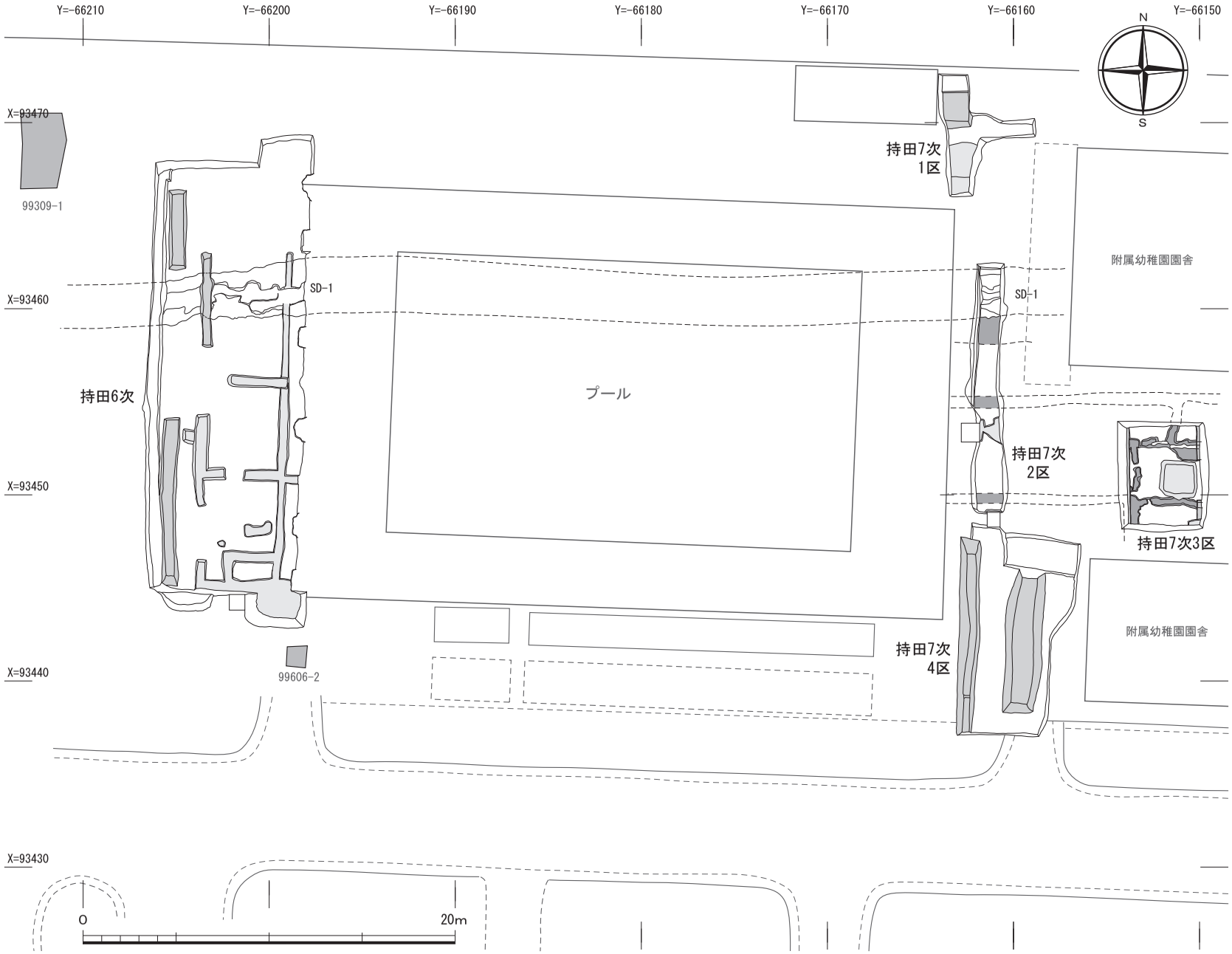


図21　01206調査（持田遺跡６次）・01207調査（持田遺跡７次）調査区全体図（縮尺1/300）

蔵文化財に影響がないことを確認した。１・２区間の管路部分では工事による掘削は現地表下60㎝で、表土のⅠ層の中に収まる（写真187・188）。附属幼稚園中庭に設置される管路布設工事では、洪水砂層であるⅢ層の中位まで掘削されるが、以下については現状保存することとした（写真189～191）。また、７次調査区から東へ75ｍほど離れた附属小学校グラウンド東側管路布設工事では、現地表下60㎝まで掘り下げたが、表土のⅠ層がつづく（写真192・193）。

５　調査のまとめ

７次調査区の調査範囲は狭いものの、８面の水田跡と、これに伴う幹線水路（SD-1）を確認できた。６次調査区では、幹線水路（SD-1）の北側で畠跡を確認できた。この幹線水路を中心として、水田や畠が混在する耕作域が広がっていることになる。６・７次調査のまとめとして、持田団地北部の地形変遷と土地利用の概略について触れておく（図21）。

６・７次調査区では、水田・畠跡の耕作土層であるⅣ層下には、砂礫層のⅤ層が堆積する。上部の砂層からなるⅤ-1層と、下部の拳大～人頭大の円礫が混じるⅤ-2層から構成される。Ⅴ-2層は、７次調査１区と４区中央深掘りトレンチでは団地造成以前の水田層であるⅡ層の直下であらわれ、６次調査区では南半部でⅤ-2層が北に向かって緩やかに落ち込む。Ⅴ-2層は石手川の旧河道内に形成された中州に当たる高まり列と考えられる。団地北西部では、南北に２列のⅤ-2層の砂礫の高まりがのび、その間の幅15ｍは深さ70～100㎝の谷状の凹部が形成されている。

この谷状の凹部をⅤ-1層が埋積することになる。７次調査３区では、堆積の短い休止期間を示す黒褐色シルト混じりの細砂のⅣ-1⑩層の薄層が見られ，その上層のⅤ-1⑥・⑧層から古代の土師器が出土している。また、７次調査4区から南に27ｍ離れた位置にある持田遺跡2次調査区では、Ⅴ-1層に対応する砂質土に拳大の円礫が混じる灰白色砂礫土層と、Ⅴ-2層に対応する径２㎝～人頭大の円礫が多く混じる灰白色砂礫層が確認され、古代の土師質土器や須恵質土器が出土している。

以上から、古代以前は、持田団地北西部では、東西方向にのびるⅤ-2層の砂礫の高まりの間に深さ１ｍ前後の谷状の凹部が網目状に発達する地形環境を復元できる。谷状の凹部は、古代の終わりまでにほぼ埋積され、現状の地形に近いほぼ平坦な地形面が形成されたものと考えられ、その上層を母材として、Ⅳ層の水田・畠跡が拓かれる。それは６･７次調査で出土したSD-1の基幹水路の開削を契機として進むものと考えられ、時期的には14世紀後半～15世紀と捉えることができる。（田崎）

表６　01207調査（持田遺跡7次）出土遺物観察表

挿図		調査区割り	出土状況	遺物の観察				遺物登録番号	採り上げ番号	遺物実測図No.	収納コンテナ
図	No.			種別	器種	器面調整・焼成等	色調･赤彩･付着物など				
19	1	1区	Ⅱ層	土師器	埦	口縁部周辺と体部内面は回転横ナデ、体部外面は篦状工具を用いた回転ナデ調整。	灰白色。	104	R-2	1	1
19	2	3区	Ⅲ層	土師器	皿	体部外面は回転横ナデ、内面は不定方向のナデ調整。外底面は回転糸切り離し。	外面はにぶい黄橙色、内面は淡い黒色。	102	R-15	1	1
19	3	3区	Ⅲ層	土師器	埦	体部外面は回転横ナデ、内面はミガキ仕上げ。径は不確実。	橙色。	103	R-17	1	1
19	4	3区	東壁Ⅴ-1⑥＋⑧層	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデ、内面には成形時の指頭圧痕が残る。外底面は回転篦切り離し。	にぶい黄橙色。	101	R-24	1	1
19	5	4区	深掘り部Ⅴ-2層	土師器	甕	内外面ともに横ナデ仕上げ。外面には部分的に先行する刷毛目調整の痕跡が残る。	橙色。	108		1	1
19	6	4区	中央深掘り部Ⅴ-2層	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。径は小片のために不確実。	灰色。	107	R-33	1	1
19	7	4区	中央深掘り部Ⅴ-2層	弥生土器	高坏	外面は刷毛目調整。坏部屈曲部には横ナデ調整。内面は横ナデ仕上げ。	浅黄色。器壁芯部は淡い黒色.器表面に黒変部が部分的に浮き出る。	106	R-30	1	1
19	8	4区	西辺深掘り部Ⅴ-2層	弥生土器	壺	外面は器表面の荒れが進み、調整不明。内燃は刷毛目調整、内底面には指頭圧痕が残る。	外面はにぶい黄橙色、内面は淡い黒色。	105	R-32	1	1

01208　（城北団地）テニスコート周辺屋外配水管改修工事に伴う発掘調査（文京遺跡50次調査）

調 査 地 点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調 査 面 積　142.5㎡
調 査 期 間　2012年10月30日～2012年12月11日
調 査 種 別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成24年９月19日付）

１　調査に至る経緯と調査の経過

2012年３月、施設基盤部から城北団地北西部のテニスコート部分を立体駐車場として整備することに伴い、テニスコート地下部分に埋設されている配水管を迂回させるための改修工事案が示された。配水管は、テニスコート北側部分へ迂回させる予定であったが、2010年～2011年度に実施した文京遺跡45次調査の成果から、工事予定地点には、縄文時代の遺構が広がっており、立体駐車場建設計画期間内に事業を実施することが困難であると予想された。そこで、埋蔵文化財調査室と施設基盤部で協議を行い、テニスコート南側部分に配水管を敷設することとした。９月19日付で施設基盤部より最終的な工事計画が示された後、愛媛大学埋蔵文化財調査室で意見書の作成を行い、９月21日に土木工事届を提出した。それに対して、同年10月１日付で愛媛県教育委員会より発掘調査等の指示があった。それを受けて10月11日付で発掘調査に係る届出を提出し、愛媛県教育委員会より10月16日付で届出受理の通知があった。

発掘調査部分は管路敷設に伴う南北約40m、東西約18.4mのLの字状に続き、総延長58.4mにおよぶ。計画段階では、調査の対象となる管路工事部分の幅は1.65mであったが、現地表下３mまで掘り下げる必要もあり、必要に応じて調査区幅を拡張した。また、発掘調査前の調査計画では、北側から南側に向かって10mを１区画として、６区画の調査を順次実施していく予定であった。しかし、１区画目の発掘調査に着手した段階で、表土層内に埋設されていた配管や枡の配置状況などを検討した結果、北から南に12.5mまでをⅠ区、12.5m～33.5mをⅡ区、33.5m～45.5mをⅢ区、東西方向の20mをⅣ区とし、計画を見直した（図22）。Ⅰ区（写真194～196）は10月30日～11月８日、Ⅱ区（写真197～200）は11月８日～11月16日、Ⅲ区（写真201～204）は11月16日～11月29日、Ⅳ区（写真205～209）は11月28日～12月11日に調査を行った。

愛媛大学埋蔵文化財調査室では、大規模調査の際には、可能な限り現地説明会を開催し、学内外を問わず、広く調査成果の公開に努めてきた。文京遺跡50次調査では、区画ごとにおける発掘調査終了後、配水管工事が連続して行われること、現地表下３mまでの掘り下げを行っており、一般公開するには新たな環境整備が必要となることを考慮した結果、一般公開を見送ることとした。そのような状況ではあったが、調査区は愛媛大学の敷地西端部に位置し、大学敷地に平行して走る歩道を通行される方々から、調査に関する質問も寄せられることもあり、適宜、遺跡の解説や実際に出土した遺物についても見学できるよう対応した。また調査区が、愛媛大学の西に隣接する松山大学正門近くであったこともあり、松山大学の教員・学生から調査見学の申し込みがあり、11月９日、松山大学における講義の一環で見学会を開催した（写真210）。

２　調査の概要（図20・写真194～212）

（１）水田層

調査前の調査区周辺には、クスノキが植えられていた。クスノキは、立体駐車場建設工事ならびに排水管改修工事に伴って、山越団地へ移植作業を行っている（01203調査、本書34頁）。このクスノキや旧練兵場時代の塹壕掘削によって、本調査区内では、近世～近代の水田層であるⅡ-１層ならびに古代～中世の水田層であるⅡ-２層はすでに破壊されており、調査区の壁面等で辛うじて水田層を確認できる状況であった。

一方、今回の調査区の南東部に位置する文京遺跡18次・25次調査地では、水田耕作土層上面を覆う洪水砂礫層が残存しており、明確な水田畦畔を確認できている。今回の調査区における土層観察では、洪水砂礫層が認められ、水田耕作土層上面が残存する部分も一部で見られた。ただし、調査区の南部、特にⅣ区周辺で

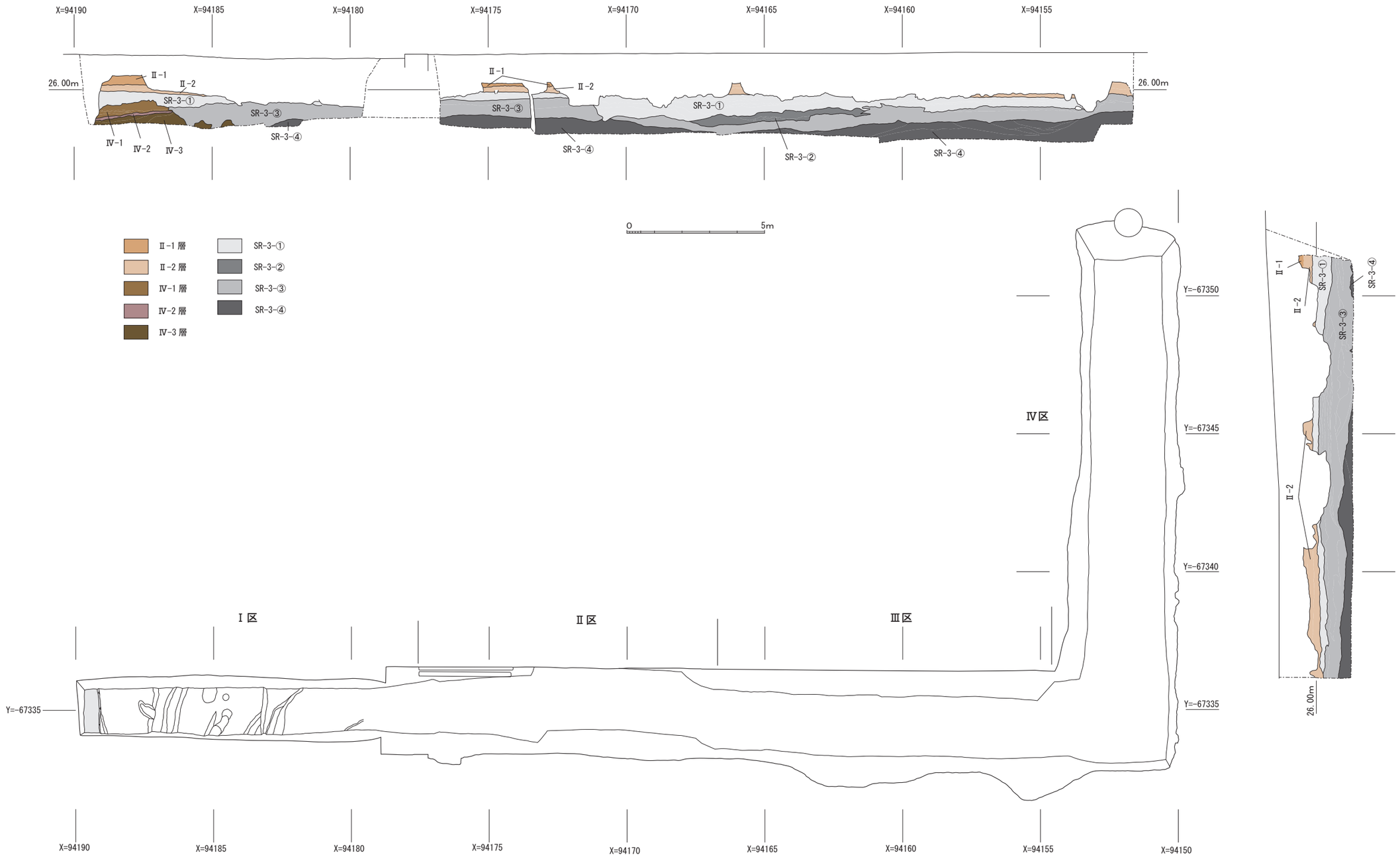


図22　01208調査（文京遺跡50次）調査区平面図および土層断面図（縮尺1/150）

写真194　01208調査　Ⅰ区表土層除去状況（北から）

写真195　01208調査　Ⅰ区SR-3完掘状況（北から）

写真196　01208調査　Ⅰ区東壁土層（南西から）

写真198　01208調査　Ⅱ区完掘状況（南から）

写真197　01208調査　Ⅱ区表土層除去状況（南から）

写真199　01208調査　Ⅱ区東壁土層（北西から）

写真200　01208調査　Ⅱ区SR-３砂礫層中遺物出土状況

写真201　01208調査　Ⅲ区表土層除去状況（南から）

写真202　01028調査　Ⅲ区完掘状況（南から）

写真203　01208調査　Ⅲ区東壁土層（南西から）

写真204　01208調査　Ⅲ区SR-３砂礫層中遺物出土状況

写真205　01208調査　Ⅳ区表土層除去状況（東から）

写真206　01208調査　Ⅳ区完掘状況（東から）

写真207　01208調査　Ⅳ区西端完掘状況（北東から）

写真208　01208調査　Ⅳ区北壁土層（南東から）

写真209　01208調査　Ⅳ区SR-３砂礫層中遺物出土状況（北東から）

写真210　01208調査　松山大学学生による調査見学の様子

は洪水砂礫層はあまり見られなかった。またⅡ-2層が確認できた地点でも、詳細な精査を行ったが、水田畦畔は確認できなかった。

Ⅱ-1層はⅠ区～Ⅱ区北端部、Ⅳ区東端部のみで確認できる。Ⅱ-1層はⅡ-1-1層～Ⅱ-1-5層を確認している。Ⅱ-1-1層は、灰オリーブ（5Y6/2～5Y5/2）色砂質シルトで径２㎜の砂粒を含む。Ⅱ-1-2層は、灰オリーブ（5Y6/1）色砂質シルトで、径２㎜前後の砂礫を少量含む。Ⅱ-1-3層は、灰オリーブ(5Y6/1）色砂質シルトで、径１～３㎜の砂礫を多く含む。Ⅱ-1-4層は、灰黄（2.5Y6/2）色砂質シルトで、径２㎜未満の砂粒を多く含む。Ⅱ-1-5層は、浅黄（2.5Y7/4）色砂質シルトで、径２㎜未満の砂粒を多く含む。

Ⅱ-2層はⅡ-2-1層～Ⅱ-2-6層を確認している。Ⅱ-2-1層は、耕作土層であるⅡ-2-2層を覆う洪水砂層で、灰オリーブ（5Y5/2）色を呈し、径２㎜未満の砂粒を多く含む。Ⅱ-2-2層は、灰オリーブ(5YR6/2～5YR5/2）色～灰黄（2.5Y6/2）色極細砂～シルトで、径２㎜～５㎜大の亜円礫を含む。耕作土層である。Ⅱ-2-3層は洪水砂層である。灰オリーブ（5Y5/2）色～灰黄（2.5Y6/2）色砂礫層で、径３㎜未満の砂礫を多く含む。Ⅱ-2-4層は、暗灰黄(2.5Y5/2）色～灰オリーブ（5Y5/2）色シルトで、径２㎜未満の砂粒を少量含む。耕作土層である。Ⅱ-2-5層は、灰（5Y6/1）色砂質シルトである。径１～２㎝大の円礫を多く含む。Ⅱ-2-6層は、灰黄（2.5Y6/2）色～灰（5Y6/1）色砂質シルトである。径１～３㎜の砂礫を多く含む。上層の一部は鉄分・マンガンの沈着によって赤褐色を呈する。

（２）古代の自然河川

今回の調査で検出した遺構は自然河川SR-3のみである。調査段階では、溝SD-1、自然河川SR-2を検出したが、近世の水田層中の遺構と判断できたことから、遺構番号を欠番とした。

SR-3はⅠ～Ⅳ区に広がり、Ⅰ区北側でSR-3の北岸を確認できている。この周辺では、文京遺跡基本層序Ⅳ層を明確に切り込んでおり、大規模な地形改変があったことがうかがえる。一方、SR-3の南岸は調査区内で確認できておらず、調査区のさらに南にあると考えられる。

SR-3の埋土は、大きくSR-3①層～④層の堆積からなる。SR-3①層は、灰茶色～灰黄色シルト質土～砂質土層である。SR-3②層は、灰白色粗砂～細砂層である。SR-3③層は灰白色～灰色砂礫層で、径10㎝前後の円礫を含む層である。SR-3④層は、灰白色～灰色砂質土層で、粗砂～細砂層が主体である。

出土遺物は、大きくSR-3①層、SR-3②③層（写真200・204・209)、SR-3④層の３層を単位として取り上げを行った。遺物はSR-3②③層からまとまって出土しており、SR-3①層、SR-3④層からは少量の出土にとどまる。出土遺物には、弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・瓦器・瓦・サヌカイト剥片・緑色片岩剥片・鉄滓などが見られる。

（３）縄文時代晩期後半の谷

調査区内Ⅰ区北端部では、北側に落ち込んでいく谷部を検出している。谷の基盤層である灰（7.5Y6/1）～灰白（7.5Y7/1）色砂質土上部には洪水砂層であるⅣ-１層、土壌層であるⅣ-2層が堆積する。Ⅳ-2層は褐灰（10YR5/1）色シルトで径１～７㎜の砂礫を少量含んでいる。層中には炭化物小片を多く含み、同層中から縄文時代晩期後半に位置付けられる突帯文土器片が出土している。炭化物小片が混じっていることから、谷部に生活残滓を廃棄した可能性が高い。土壌の一部をサンプリング採集し、埋蔵文化財調査室に持ち帰っている。現在、フローテーション法により水洗選別を行い、炭化種子や炭化木材の有無を確認している。

３　まとめ

今回の調査では、古代後半の自然河川SR-3と縄文時代晩期後半の谷部を検出した。SR-3は、地形環境や出土遺物の時期・組成などが共通することから文京遺跡18次調査SR-400、文京遺跡25次調査SR-301と一連の自然河川と考えられる。一方、縄文時代晩期後半の谷部は、Ⅰ区北端部で検出しているだけであり、その規模は不明である。調査区の北東部に位置する文京遺跡45次調査Ⅰ区南部ならびにⅡ区でも縄文時代晩期後半の谷部が見つかっており、周辺の地形復元を含めて検討する必要がある。

出土遺物の中で注目されるのは、自然河川SR-3から出土した緑釉陶器である。今回の調査地点の南東部に隣接する文京遺跡25次調査では、Ⅱ-2-⑥層中から緑釉陶器が出土し、自然流路SR-301中から円面硯や奈良二彩が出土している。前述のように、文京遺跡25次調査SR-301は今回の調査区で検出したSR-3と同一の自然河川である。また文京遺跡25次調査Ⅱ-2-⑥層はSR-

写真211　01208調査　南西部工事立会（北東から）

写真212　01208調査　南西部工事立会（南東から）

301の堆積層を母材とした下層水田耕作土層である。いずれも同一の自然河川によって搬入された遺物である。自然河川の流域周辺に、寺院あるいは役所関係の存在を示すものであり、今後も周辺における調査に際しては注目しておく必要があろう。　（三吉）

01209　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町３　城北団地内
調 査 面 積　812㎡
調 査 期 間　2013年２月７・８・27日、３月１・６・７日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成24年12月３日付）

１　調査に至る経緯

2012年12月、施設基盤部より城北団地内基幹・環境整備に伴い、愛大ミューズ東側道路部分周辺における工事計画が提示された。提示された工事計画を基に、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で、埋蔵文化財へ影響が極力及ばないよう協議し、工事計画を見直した。埋蔵文化財調査室では、工事地点周辺における調査成果に基づき意見書を作成し、平成25年１月９日付で、松山市教育委員会へ土木工事届を提出した。これに対して、１月23日付で愛媛県教育委員会より工事立会の指示があった。工事立会の指示範囲は、愛大ミューズ東側道路部分のほぼ全面にわたり、それらのすべてに対応する（写真217～220）と同時に、中でも遺跡への破壊が予想される以下の２地点に関して、小規模調査を実施した（図23）。

２　調査の概要

（１）１トレンチ（写真213～216）

愛大ミューズ北東部に新規設置する道路側溝、雨水管、集水枡部分の調査である。現地表下約37cmまで表土層が続き、直下でⅡ層を検出した。Ⅱ層はⅡ-1層とⅡ-2層とからなる。Ⅱ-1層はオリーブ黄（5Y6/3）色シルトで、径２㎜未満の砂粒を含む。Ⅱ-2層は灰（5Y6/1）色シルトで、径５㎜未満の砂礫を含む。鉄分・マンガンの沈着により一部赤褐色である。Ⅱ層直下、現地表下約65cmで自然河川SR-1を検出した。SR-1の埋土は、灰（7.5Y6/1）色～灰オリーブ（5Y6/2）色砂質土で、径３～４cmの円礫を含む。遺物は出土していない。工事に伴う最大掘削深度である現地表下85cmまで掘り下げを行い、調査を終了した。

（２）２トレンチ（写真221～224）

附属図書館北西部に新規設置する集水枡部分の調査である。現地表下30～50cmまで表土層が続き、直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層上面で遺構精査を行い、遺構が存在しないことを確認した上で、工事に伴う掘削深度である現地表下75cmまで人力によって掘り下げを行った。Ⅳ層はⅣ-1層とⅣ-2層とからなる。Ⅳ-１層は明黄褐（2.5Y7/6）色シルトで、マンガンの結核を含んでいる。Ⅳ-2層は明黄褐（2.5Y7/6）色砂質シルトである。Ⅳ-1層、Ⅳ-2層ともに遺物は出土していない。

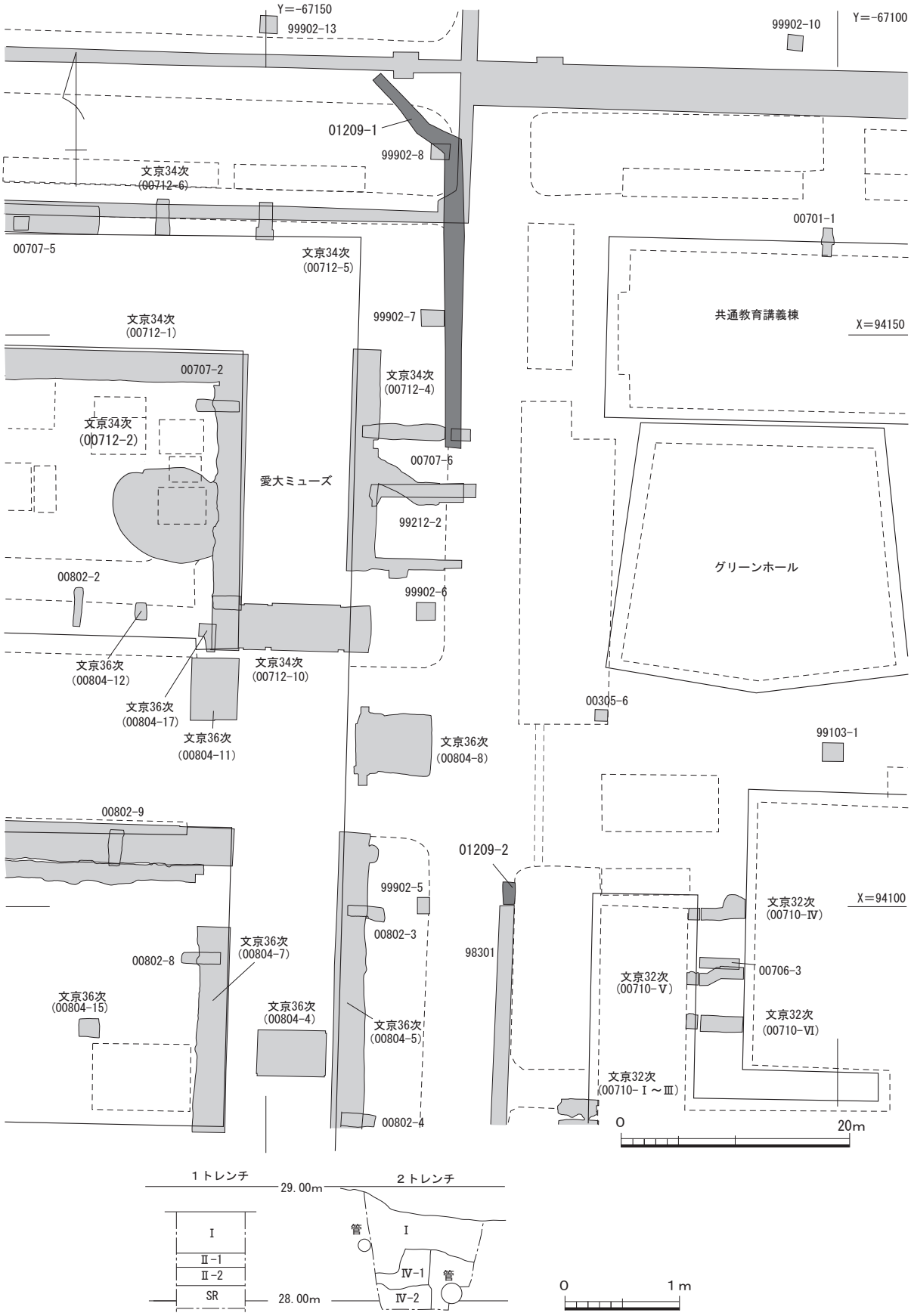


図23　01209調査調査位置図（縮尺1/500）および土層断面図、柱状図（縮尺1/50）

3　まとめ

今回の調査では、１トレンチで自然河川SR-1が出土している。出土遺物がないことから時期の特定はできないが、周辺の調査では、弥生時代～中世の自然河川が多数検出されており、いずれかの河川に連なるものと考えられる。今後、周辺における調査では、自然河川の規模や時期比定していく必要があろう。また２トレンチでは、遺構・遺物が出土していないものの、縄文時代晩期以前の遺物包含層であるⅣ層を確認している。周辺で掘削を伴う工事を行う際には、発掘調査あるいは工事立会が必要である。　（三吉）

写真213　01209調査　ミューズ北東部工事立会（北東から）

写真214　01209調査　ミューズ北東部土層工事立会（東から）

写真215　01209調査　１区完掘状況（南東から）

写真216　01209調査　１区西端土層（北から）

写真217　01209調査　ミューズ東側中央部工事立会（南西から）

写真218　01209調査　ミューズ東側南部工事立会（北西から）

写真219　ミューズ東側南部工事立会（北西から）

写真220　ミューズ東側南部Ⅲ層検出状況（南西から）

写真221　01209調査　２区表土層除去作業（南西から）

写真222　01209調査　２区表土層除去状況（北から）

写真223　01209調査　２区完掘状況（北から）

写真224　01209調査　２区南壁土層（北から）

01210　（城北団地）総合研究棟（工学系等）耐震改修工事に伴う調査
（文京遺跡51次調査）

調 査 地 点　松山市文京町３　城北団地内
調 査 面 積　200㎡
調 査 期 間　2013年２月23日～２月27日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成24年11月26日付）

1　調査に至る経緯

2012年11月下旬、施設基盤部より、城北団地南部の総合研究棟（工学系等）西側における屋根付き駐輪場建設計画が提示された。埋蔵文化財調査室では、工事に伴う掘削深度と周辺における埋蔵文化財の分布状況、駐輪場建設計画地にかつて建てられていた工学部実習工場の基礎工事データに基づいて意見書の作成を行い、12月１日付で松山市教育委員会を通じて、愛媛

写真225 01210調査 調査地点全景（西から）

写真226 01210調査 発掘調査地点完掘状況（南東から）

写真227　01210調査発掘調査地点完掘状況（北から）

写真228　01210調査　発掘調査地点完掘状況（北西から）

写真229　01210調査　発掘調査地点東壁土層（西から）

写真230　01210調査　中央部工事立会（南西から）

写真231　01210調査　中央部工事立会（南から）

写真232　01210調査　西側工事立会（北西から）

県教育委員会へ土木工事等届出を行った。平成25年１月７日付で愛媛県教育委員会より、実習工場基礎工事部分の再掘削範囲については慎重工事、駐輪場建設予定地東端部分については発掘調査、その他については工事立会（写真230～232）を実施するようにとの指示があった。これを承けて、１月16日付で発掘調査届出の手続きを行い、１月23日付で愛媛県教育委員会から受理したとの通知があった。これらと平行して、学内関係部局と日程調整を行った結果、２月23日から発掘調査を実施することとなった。

２　調査の概要（図６・写真225～229）

発掘調査地点は、駐輪場建設予定地の東端部分にあたり、南北20.4m×東西10.3mの調査区である。なお工事による掘削深度は現地表下21cmもしくは26cmである。重機を用いて、工事に伴う掘削深度である21cmもしくは26cmまで掘り下げを行い、平面ならびに調査区壁面の土層観察を行った結果、文京遺跡における基本層序Ⅰ層内におさまっていることを確認した。調査地点内における掘削停止面で最も低い地点は標高28.658mである。

本調査区内の埋蔵文化財を位置づけるため、調査区周辺の調査成果を確認しておく。発掘調査区内の東側には、愛媛大学法文学部考古学研究室が発掘調査を行った文京遺跡６次調査（調査番号：98601）Ⅱ区、愛媛大学埋蔵文化財調査室が調査を行った00403調査１トレンチがある。そのさらに東には、2012年度に実施した文京遺跡49次調査２区が位置する。これらの調査における成果を見ると、文京遺跡６次調査Ⅱ区では、標高28.65mでⅢ層が出土している。00403調査では、28.60～28.65mで古代～中世の溝であるSD-1や弥生時代～古墳時代の遺物包含層であるⅢ層が出土している。また文京遺跡49次調査（01204調査）２区では、Ⅲ層が28.75mで出土している。

調査地点周辺の旧地形を見ると、東から西にかけて緩傾斜となっており、掘削深度と埋蔵文化財検出面との間に、一定程度の土層を確保できると判断できる。屋根付き駐輪場建設工事によって埋蔵文化財への直接的な影響がないことを確認して、調査を終了した。

３　まとめ

本調査では、埋蔵文化財への直接的な影響がないことを確認した上で、現地表下21～26cm以下の埋蔵文化財に関して、現地保存することとした。今後、本調査区内における掘削を伴う工事に際しては、発掘調査等の対応が必要である。（三吉）

01211　（城北団地）立体駐車場新営その他工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町３　城北団地内
調 査 面 積　15㎡
調 査 期 間　2013年２月28日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年１月７日付）

１　調査に至る経緯

2012年12月、施設基盤部より城北団地内における立体駐車場新営その他工事に伴い、追加工事として①テニスコート側溝工事、②集水枡工事、③雨水排水管工事、④雨水排水管工事、⑤集水枡工事、⑥バリカー基礎工事の計画が示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で、埋蔵文化財へ影響が及ばないよう工事計画を再度協議し、平成25年１月９日付で、土木工事等届出書を松山市教育委員会へ提出した。これに対して、本工事とは別に、平成24年11月６日付で提出していた立体駐車場工事本体部分の土木工事等届出範囲に含まれることから、図面の追加という処理となり、工事立会の実施という通知を口頭で承けた。その後、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で調整を行い、２月28日に立会調査を実施することとなった。

２　調査の概要

（１）１トレンチ（図24・25、写真233～238）

前述の工事②～⑤については、埋蔵文化財への影響が及ぶこととから、重機を用いて表土層を慎重に掘り下げ、調査区の中央部付近にて現地表下約60cmでⅣ層

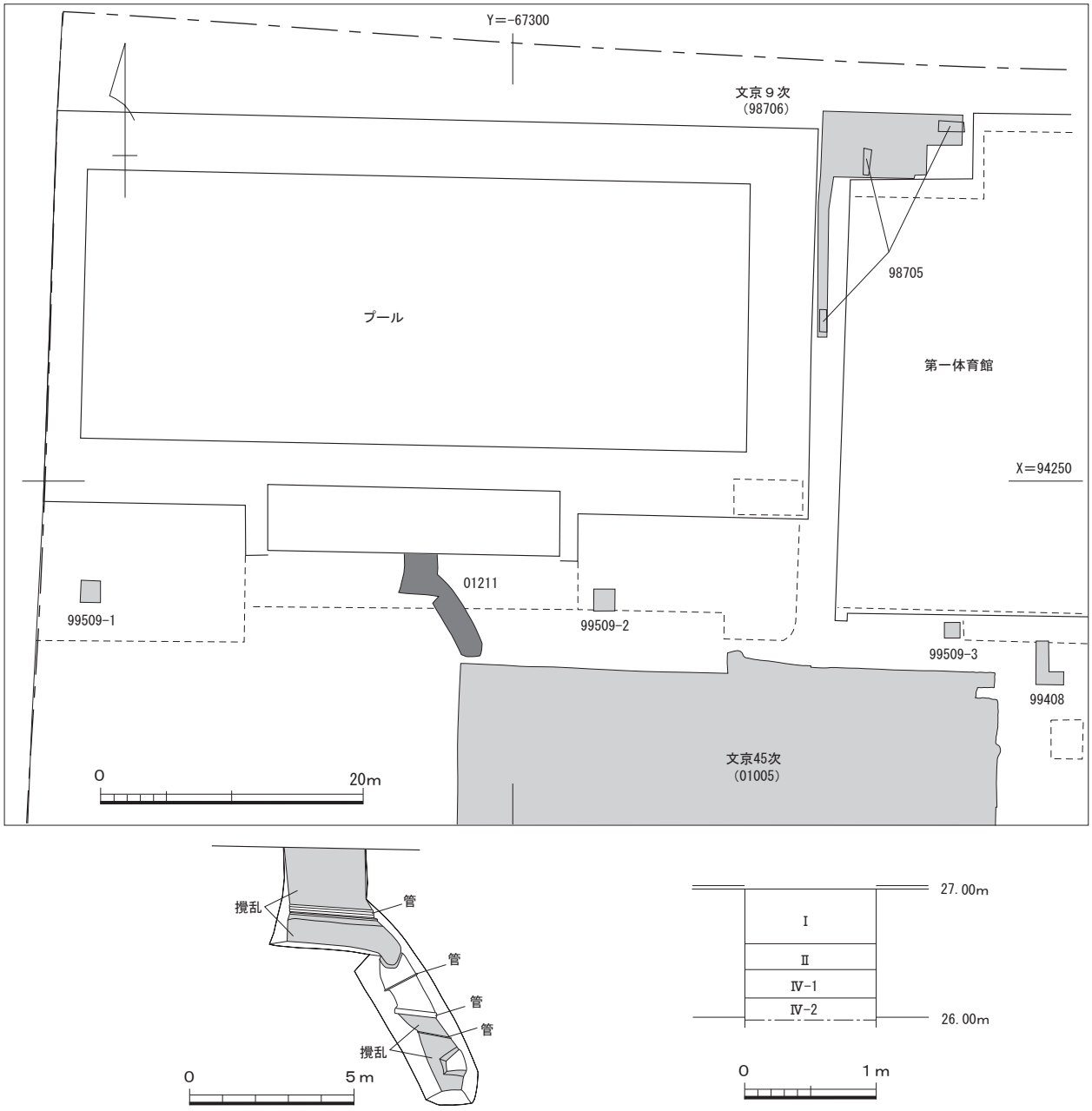


図24　01211調査調査位置図（縮尺1/500）および平面図（縮尺1/200）、柱状図（縮尺1/50）

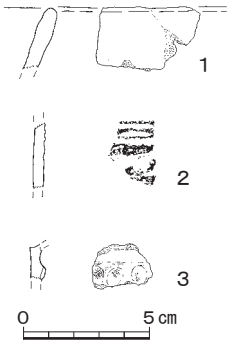


図25　01211調査出土遺物
実測図（縮尺1/3）

を確認した。同時に調査区の北端部および南端部はすでに掘り返され、埋蔵文化財が破壊されていることを確認した。

調査区中央部で検出したⅣ層以下に関しては、人力によって掘り下げを行い、工事による掘削深度約100cmまで調査を行った。Ⅳ層は、Ⅳ-1層とⅣ-2層とからなる。Ⅳ-1層は明黄褐色シルトで、マンガンの結核を多く含む。縄文土器片が２点出土している（図25-1・2）。１は深鉢口縁部である。２は深鉢片であり、外面には条痕調整が見られる。時期は不明である。Ⅳ-2層は明黄褐色細砂層で、出土遺物はない。以上の他に、Ⅳ層上部として採り上げた遺物の中には、弥生時代中期後葉に位置づけられる甕の小片（図25-3）が見られる。Ⅳ層を掘り込む撹乱層に伴っていた遺物と考えられる。

写真233　01211調査　１トレンチ表土層除去状況（南西から）

写真234　01211調査　１トレンチ北側表土層除去状況（東から）

写真235　01211調査　１トレンチ表土層除去状況（南から）

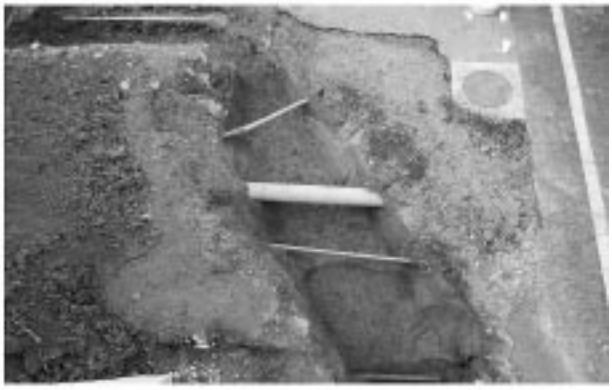


写真236　01211調査　１トレンチ完掘状況（南から）

写真237　01211調査　１トレンチ完掘状況（南東から）

写真238　01211調査　１トレンチ東壁（南西から）

写真239　01211調査　２トレンチ完掘状況（東から）

写真240　01211調査　２トレンチ完掘状況（南西から）

（2）２トレンチ（写真239～240）

前述の工事①と⑥については、近現代の造成土であるⅠ層ならびに近・現代の水田層であるⅡ-1層内におさまることを確認した。

３　まとめ

今回の調査では、１トレンチで弥生時代中期後葉の遺物と縄文時代の遺物を検出した。１トレンチの南東部に隣接する文京遺跡45次調査では、古墳時代後期以前の溝や縄文時代晩期の溝状遺構、縄文時代晩期以前～縄文時代中期の住居跡やゴミ穴などが出土している。しかし、弥生時代中期後葉の遺構や遺物は出土しておらず、弥生時代中期後葉から後期の状況は不明であった。今回の調査で、当該時期の遺物が出土したことにより調査地点周辺に集落が展開していることも予想される。今後周辺における調査に際しては、注目しておく必要がある。（三吉）

01212　（山越団地）外灯設備工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市山越４丁目11番10号　山越団地内
調 査 面 積　4.05㎡
調 査 期 間　2013年２月28日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年11月22日付）

１　調査に至る経緯

2012年11月下旬、施設基盤部より山越団地内における外灯設備工事計画の提示があった。具体的な工事内容は、山越団地内中央部において、①外灯ポール設置に伴う掘削工事５地点（現地表下140cmまでの掘削）、②ハンドホール設置に伴う掘削工事（現地表下91cmまでの掘削）、③電気ケーブル設置に伴う掘削工事（現地表下33cmまでの掘削）というものである。山越団地では、2012年度においても01201調査、01203調査を実施しており、②・③については山越団地造成に伴う表土層内におさまる掘削工事であると判断できた。①については、一部埋蔵文化財へ影響があることも予想されることから、施設基盤部と協議した結果、工事に際して工事立会を行うこととした。山越団地におけるグラウンドの利用状況などを踏まえて日程調整を行った結果、２月28日に工事を実施することとなり、埋蔵文化財調査室が立会調査を実施した。

２　調査の概要

外灯ポールは、山越団地中央部付近、南北方向に５基設置することから、南から順に１トレンチ、２トレンチ、３トレンチ、４トレンチ、５トレンチとした（図２、写真241～246）。

（1）１トレンチ

現地表下90cmまで表土層（①層）が続き、直下で黒褐色シルト～細砂層（③層）の堆積を確認した。この③層が工事による掘削深度である現地表下140cmまで続くことを確認した。

（2）２トレンチ

現地表下115cmまで表土層（①層）が続き、直下で黒褐色シルト～細砂層（③層）の堆積を確認した。③層が工事による掘削深度である現地表下140cmまで続くことを確認した。

（3）３トレンチ

現地表下100cmまで表土層（①層）が続き、直下で黒褐色シルト～細砂層（③層）の堆積を確認した。③層が工事による掘削深度である現地表下140cmまで続くことを確認した。

（4）４トレンチ

現地表下105cmまで表土層（①層）が続き、直下で団地造成前の近現代の水田層（②層）が出土した。②層は現地表下120cmまで続き、直下で黒褐色シルト～細砂層（③層）が出土した。③層が工事による掘削深度である現地表下140cmまで続くことを確認した。

（5）５トレンチ

現地表下75cmまで表土層（①層）が続き、直下で団地造成前の近現代の水田層（②層）が出土した。②層が工事による掘削深度である現地表下130cmまで続くことを確認した。

写真241　01212調査調査地点（南から）

写真242　01212調査　１トレンチ土層（西から）

写真243　01212調査　２トレンチ土層（西から）

写真244　01212調査　３トレンチ土層（西から）

写真245　01212調査　４トレンチ土層（西から）

写真246　01212調査　５トレンチ土層（西から）

３　まとめ

１トレンチ～４トレンチでは、①層あるいは②層直下で黒褐色シルト～細砂層（③層）が出土している。山越団地内では、これまでの調査によって縄文時代晩期中頃や古墳時代後期の自然河川の一部が確認されており、③層はこの自然河川堆積層の一部であると考えられる。今回の調査でも、遺物が出土しておらず時期などを特定することは困難である。しかしながら、１トレンチ～４トレンチにおける黒褐色シルト～細砂層の存在は、山越団地内に埋蔵文化財が広がっているこ

とを示唆するものであり、今後とも山越団地内における諸工事に際しては、工事立会などを実施し、遺跡の有無について確認する必要がある。　（三吉）

01213　（城北団地）ミューズ南側等雨水桝取設その他工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町３番　城北団地内
調 査 面 積　10.14㎡
調 査 期 間　2013年３月６日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年１月22日付）

１　調査に至る経緯

2012年９月、施設基盤部より、愛大ミューズ南側の雨水排水管と雨水桝の改修計画について提示があった。埋蔵文化財調査室では、改修計画地周辺には、既設の排水管などが多数存在することから、工事に伴う掘削を可能な限り既設排水管等の余掘り範囲内におさめてもらいたいとの依頼を施設基盤部へ行った。2013年１月、施設基盤部より最終的な工事計画が提示された。これを承けて、埋蔵文化財調査室では、工事地点周辺の調査成果に基づき意見書を作成し、平成25年１月25日付で土木工事届出を、松山市教育委員を通じて愛媛県教育委員会へ提出した。同年２月５日付で、愛媛県教育委員会より新設雨水枡２地点について、工事立会が必要であるとの指示があった。これを承けて愛媛大学埋蔵文化財調査室は、施設基盤部と日程調整を行い、３月６日に工事立会を行った。

２　調査の概要

調査地点は、東西２地点であり、西側を１トレンチ、東側を２トレンチとした（図26、写真247～254）。

（1）１トレンチ

桝部分と、それに取り付く管路部分である。管路部分に関しては、現地表下70～75㎝まで掘り下げを行い、近世の水田層におさまっていることを確認した。桝部分の南側には、排水管が設置され、管路設置に伴う掘削によって埋蔵文化財がすでに破壊されていることを確認した。そこで、埋蔵文化財が残されている枡部分の北半分を人力で掘り下げることとした。表土層の直下には、近世の水田層であるⅡ層が堆積する。Ⅱ層は、オリーブ灰（2.5GY6/1）色のⅡ-1層と灰黄褐（2.5Y7/2）色シルトで５㎜～１㎝大のマンガンの結核、径２～３㎜大の角の礫が多く混じるⅡ-２層が堆積する。Ⅲ層およびⅣ層はなく、Ⅱ層直下でⅤ層が出土した。Ⅴ層は、径５㎜～３㎝大の灰色砂礫層からなるⅤ-１層、やや茶色みをおびて、大きな礫がほとんど入らないⅤ-2層を確認した。工事による掘削深度である現地表下120㎝まで掘り下げを行ったが、遺構・遺物は出土していない。

（2）２トレンチ

桝部分とそれに取り付く管路部分である。管路部分に関しては、現地表下70㎝まで掘り下げを行い、Ⅳ層を検出した。Ⅳ層下には工事による掘削等が及ばないことを確認した。桝部分では、中央部に排水管が設置され、その排水管設置工事に伴う掘削によって、すでに埋蔵文化財が破壊されていることを確認できた。そこで、文化財の破壊を免れていた調査区北側、南北幅約35㎝を手掘りによって掘り下げることとした。表土層の下部に堆積するⅡ層の直下でⅣ層が出土した。Ⅳ層は明黄褐（2.5Y7/6）色シルトで、やや黄色みが強い。径５㎜～１㎝大のマンガンを層上部に多く含んでいる。Ⅳ層の直下でⅤ層が出土した。１トレンチで検出したⅤ層と異なり、１辺20㎝前後の大型礫を含む灰色砂礫層である。工事による掘削深度である現地表下115㎝まで掘り下げを行ったが、遺構・遺物は出土していない。

３　まとめ

今回の調査では、遺構や遺物は出土していない。しかし、北側に隣接する文京遺跡36次調査Ⅰ区や南側に隣接する文京遺跡15次調査Ⅱ区では、弥生時代の遺構を検出している。また、縄文時代晩期以前の遺物包含層であるⅣ層を検出しており、工事地周辺に遺構が展開していたと想定できる。今後も、工事地点周辺における掘削工事に際しては、発掘調査・立会調査などを実施する必要がある。　（三吉）

写真247　01213調査　１トレンチ表土層除去風景（南東から）

写真248　01213調査　１トレンチ表土層除去状況（東から）

写真249　01213調査　１トレンチ北側表土層除去状況（南西から）

写真250　01213調査　１トレンチ完掘状況（東から）

写真251　01213調査　２トレンチ表土層除去状況（南から）

写真252　01213調査　２トレンチ表土層除去状況（東から）

写真253　01213調査　２トレンチ北側表土層除去状況（南西から）

写真254　01213調査　２トレンチ完掘状況（東から）

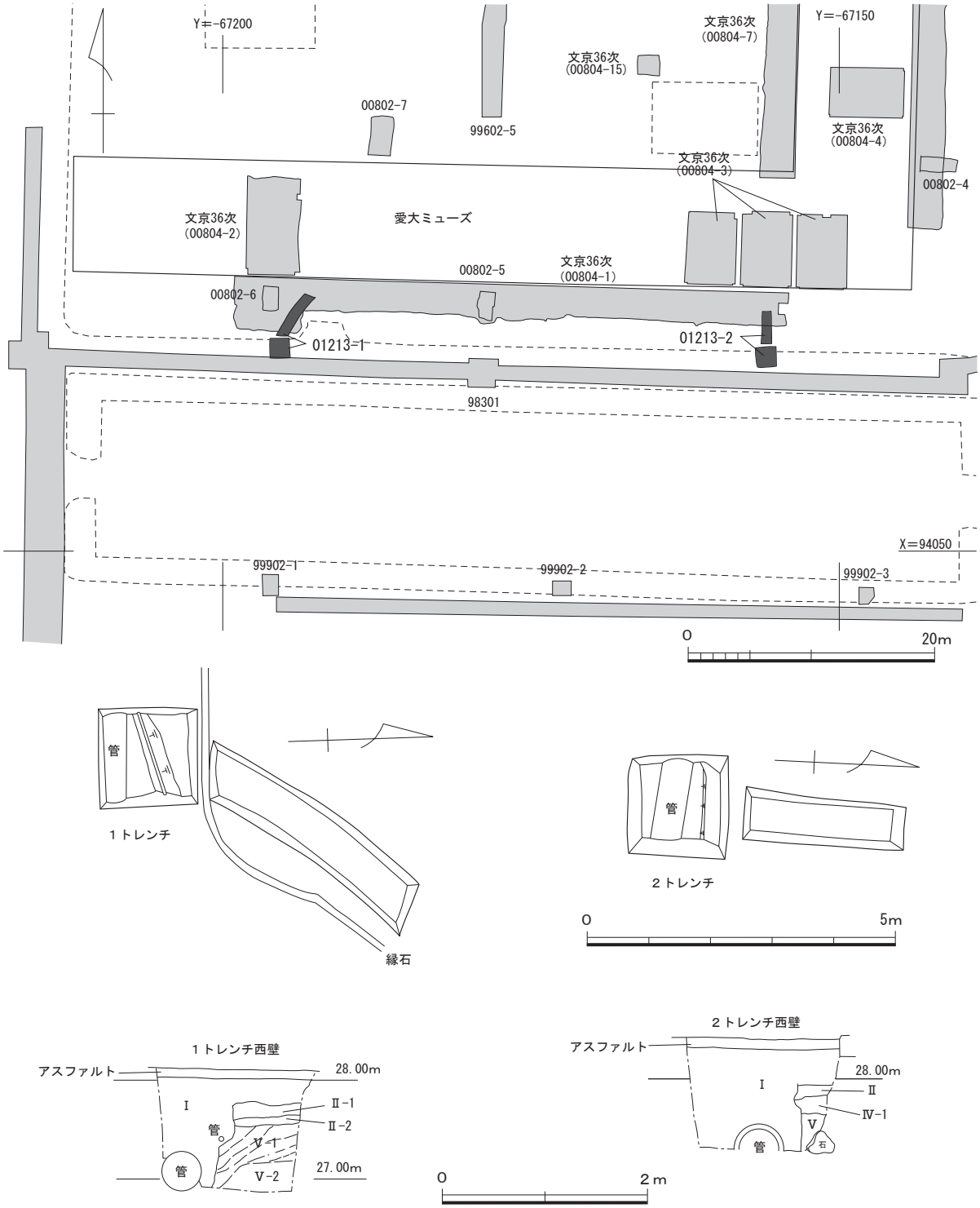


図26　01213調査調査位置図（縮尺1/500）および調査区平面図（縮尺1/100）、土層断面図（縮尺1/60）

報　告　書　抄　録

ふりがな	えひめだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽう
書名	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報2012年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛媛大学埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	ＸＸⅦ
編著者名	田崎博之・三吉秀充
編集機関	愛媛大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒790-8577　松山市道後樋又10番13号
発行年月日	2014年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
どうごひまたいせき 道後樋又遺跡 ３次調査	まつやましどうごひまた 松山市道後樋又10番13号	38201	33° 51′ 9″	132° 46′ 27″	2012.9.3 ～ 9.12	37.8㎡	校舎（本部管理棟）改修工事
ぶんきょういせき 文京遺跡 49次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町２番・３番	38201	33° 50′ 55″	132° 46′ 18″	2012.9.28 ～ 10.5	49㎡	校舎（総合研究棟等）改修工事
もちだいせき 持田遺跡 ５次調査	まつやましもちだ 松山市持田１丁目860番	38201	33° 50′ 34″	132° 46′ 56″	2012.10.22	13.53㎡	校舎（附属特別支援学校校舎等）改修工事
もちだいせき 持田遺跡 ６次調査	まつやましもちだ 松山市持田１丁目５番22号	38201	33° 50′ 38″	132° 46′ 55″	2012.11.12 ～ 11.26	195.1㎡	校舎（附属中学校プール更衣室）新営工事
もちだいせき 持田遺跡 ７次調査	まつやましもちだ 松山市持田１丁目860番	38201	33° 50′ 38″	132° 46′ 56″	2012.11.27 ～ 12.13	122.6㎡	校舎（附属幼稚園園舎）新営工事
ぶんきょういせき 文京遺跡 51次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町３番	38201	33° 30′ 54″	132° 46′ 18″	2013.2.23 ～ 2.27	210㎡	駐輪場新営工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
道後樋又遺跡 ３次調査	集落	古代～ 中世	溝2条、土壙３基、小穴３基	縄文土器	
文京遺跡 49次調査	集落	古墳時代	竪穴建物１、土壙２、柱穴１、自然河川１	須恵器・土師器	
持田遺跡 ５次調査	水田				現地保存
持田遺跡 ６次調査	畠	中世	溝１条、畠	土師器	
持田遺跡 ７次調査	水田	中世	溝４条、水田	弥生土器、土師器、須恵器	
文京遺跡 51次調査	集落				現地保存

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

― 2012年度 ―

愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XXⅦ

2014年３月25日

発行　愛媛大学埋蔵文化財調査室
〒790-8577　松山市道後樋又10番13号
TEL･FAX 089-927-9127

印刷　岡田印刷株式会社
〒790-0012　松山市湊町７丁目１の８
TEL089-941-9111